有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（４）

農免農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

屋部当遺跡
楠原遺跡

2003年12月
鹿児島県曽於郡有明町教育委員会

序　　文

この報告書は，農免農道整備事業に伴い有明町教育委員会が主体となり，平成６年度から平成13年度にかけて随時行った埋蔵文化財包蔵地の発掘調査の成果をまとめたものです。

屋部当遺跡では，旧石器時代，縄文時代早期，古墳時代の遺構・遺物が確認され，楠原遺跡では出土点数は少ないものの，縄文時代早期・後期・晩期，弥生時代，古墳時代，古代，中世と幅広い時期の遺物が確認され，互いに隣接する屋部当遺跡・楠原遺跡一帯を含めた広い範囲での地域の歴史を語る上で貴重な資料と言えます。

今後，これらの成果が研究資料として活用されるとともに，広く文化財愛護思想の啓発普及等地域の文化財として活用し，文化財に対する理解を一層深めることができればと願っております。

最後に，発掘調査に従事していただいた町民の方，現場における調査から出土資料の整理・報告書の刊行にいたるまでご指導・ご協力いただきました県教育委員会文化財課をはじめ各関係機関，多くの先生方並びに関係者の方々に深く感謝申し上げます。

平成15年12月吉日

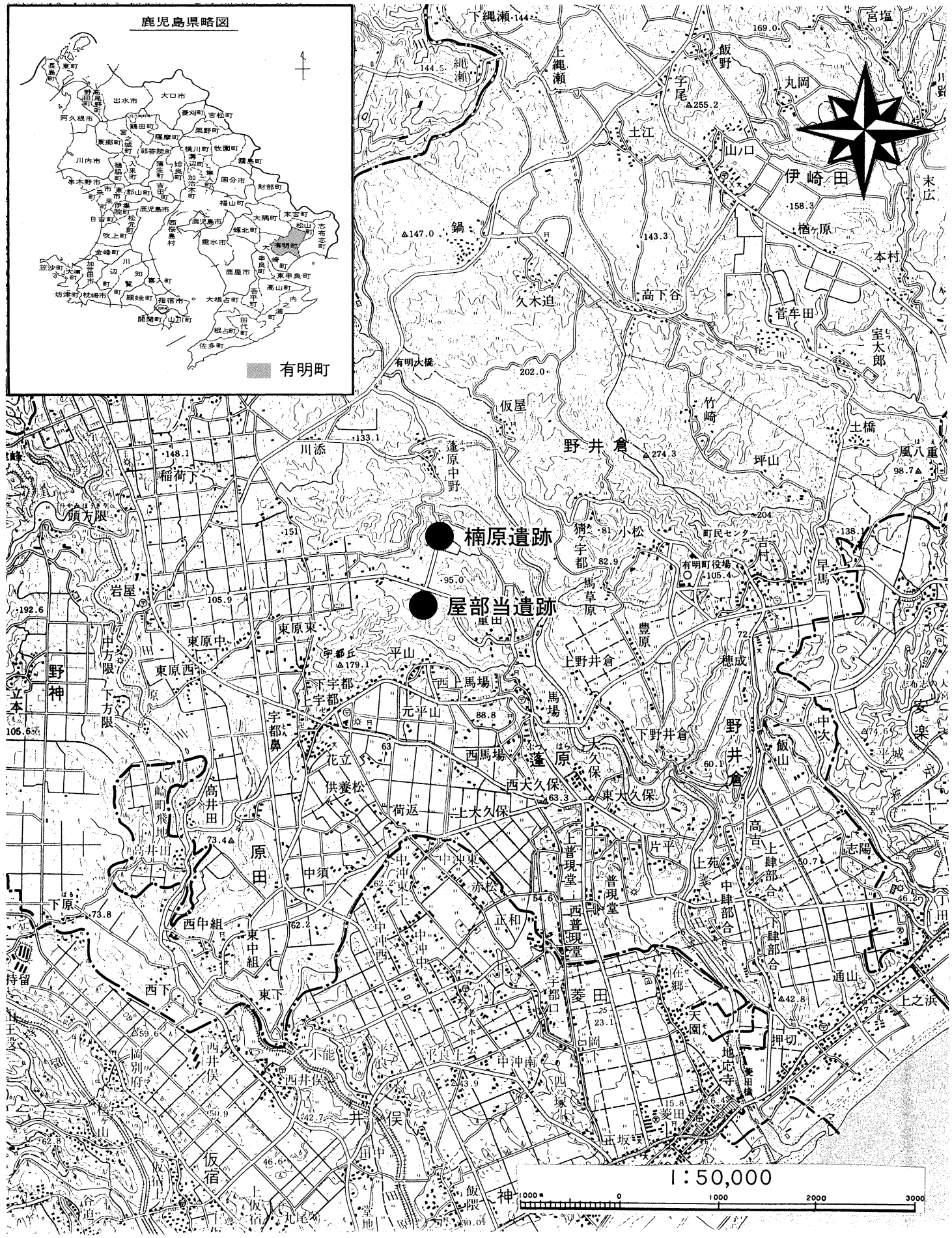
有明町教育委員会
教育長　長　重　逸　郎

報告書抄録

ふりがな	やべあたりいせき・くすばるいせき
書　　名	屋部当遺跡・楠原遺跡
副 書 名	農免農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	(4)
編著者名	出口順一朗・黒川　忠広
編集機関	有明町教育委員会
所 在 地	〒899-7492　鹿児島県曽於郡有明町野井倉1756番地　TEL 0994－74－1111
発行年月日	2003年12月18日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
屋部当遺跡	鹿児島県 曽於郡 有明町 蓬原 字屋部当	46467	69－150	31° 29′ 00″	131° 01′ 50″	確認調査 20001127～1208 本調査 20011022～1222 報告書作成 20030401～1218	確認調査 61.38㎡ 本調査 2,430㎡	農道整備事業
楠原遺跡	鹿児島県 曽於郡 有明町 蓬原 字楠原	46467	69－116	31° 29′ 50″	131° 01′ 70″	確認調査 19940827～0901 本調査 19961125～1217 報告書作成 20030401～1218	確認調査 56㎡ 本調査 850㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
屋部当遺跡	包含層	旧石器時代 縄文時代早期 古墳時代	集石 竪穴住居跡 土器溜り 土坑	剝片尖頭器 成川式土器	
楠原遺跡	包含層	縄文時代晩期 古墳時代		黒川式土器 成川式土器	



屋部当遺跡・楠原遺跡の位置

例　　言

1　本報告書は，鹿児島県農政部の計画した農免農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は，鹿児島県農政部の依頼を受けて，有明町教育委員会が実施した。

3　発掘調査における実測図・写真は，各年度の調査担当者が行った。

4　遺物写真の撮影にあたっては，県立埋蔵文化財センター文化財主事鶴田静彦氏・西園勝彦氏の協力を得た。

5　本報告書に用いたレベル数値は，鹿児島県農政部が提示した事業実施計画図面の数値に基づく。

6　遺物番号は，本文及び挿図・図版の番号と一致する。

7　本書の編集は，出口・黒川が行った。

目　　次

序文
報告書抄録
屋部当遺跡・楠原遺跡位置図
例言
目次
第Ⅰ章　屋部当遺跡調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査の組織 …… 1
　第３節　発掘調査の経過 …… 2
第Ⅱ章　遺跡の位置及び環境 …… 5
　第１節　有明町の概要 …… 5
　第２節　地形的環境 …… 5
　第３節　気候的環境 …… 7
　第４節　周辺の遺跡の概要 …… 7
　第５節　丸岡遺跡 …… 13
第Ⅲ章　屋部当遺跡の概要 …… 19
　第１節　調査の概要 …… 19
　第２節　層序 …… 20
　第３節　調査の成果 …… 25
　　（１）遺構 …… 25
　　（２）包含層出土遺物 …… 49
第Ⅳ章　楠原遺跡調査の経過 …… 55
　第１節　調査に至る経過 …… 55
　第２節　調査の組織 …… 55
　第３節　調査の概要 …… 56
　第４節　調査の経過 …… 58
　第５節　層序 …… 58
　第６節　調査の成果 …… 59
　　（１）遺構 …… 59
　　（２）遺物 …… 59
第Ⅴ章　調査のまとめ …… 72
　第１節　屋部当遺跡のまとめ …… 72
　第２節　楠原遺跡のまとめ …… 73

表　目　次

第１表　屋部当遺跡・楠原遺跡周辺遺跡地名表（１）… 10
第２表　屋部当遺跡・楠原遺跡周辺遺跡地名表（２）… 11
第３表　丸岡遺跡土器観察表 …… 18
第４表　屋部当遺跡土器観察表（１） …… 67
第５表　屋部当遺跡土器観察表（２） …… 68
第６表　屋部当遺跡土器観察表（３） …… 69
第７表　屋部当遺跡土器観察表（４） …… 70
第８表　屋部当遺跡石器計測表 …… 71
第９表　楠原遺跡土器観察表 …… 71

挿図目次

第１図　屋部当遺跡・楠原遺跡周辺遺跡地図 …… 12
第２図　丸岡遺跡位置図 …… 14
第３図　竪穴状遺構実測図 …… 15
第４図　竪穴状遺構内出土遺物 …… 15
第５図　包含層出土遺物(1) …… 16
第６図　包含層出土遺物(2) …… 17
第７図　屋部当遺跡確認調査トレンチ配置図 …… 21
第８図　屋部当遺跡付近工事図面及び調査の範囲 … 22
第９図　屋部当遺跡周辺地形図 …… 23
第10図　屋部当遺跡土層断面図（上：南区南側
　　中：北区北端部東側　下：北区南端部東側）… 24
第11図　集石実測図 …… 25
第12図　北区Ⅷ層上面検出遺構図 …… 26
第13図　南区Ⅷ層上面焼石出土状況及びコンタ図 … 27

第14図　屋部当遺跡VIa層上面検出遺構全体図 … 29～30
第15図　北区III層中及びIV層上面検出遺構配置図 … 31
第16図　１号土器溜り実測図 …… 32
第17図　１号土器溜り出土遺物実測図（１） …… 33
第18図　１号土器溜り出土遺物実測図（２） …… 34
第19図　１号土器溜り出土遺物実測図（３） …… 35
第20図　１号土器溜り出土遺物実測図（４） …… 36
第21図　１号土器溜り出土遺物実測図（５） …… 37
第22図　２号土器溜り遺物出土状況実測図 …… 38
第23図　２号土器溜り及び竪穴住居跡との関係図 … 38
第24図　竪穴住居跡実測図 …… 39
第25図　２号土器溜り出土遺物実測図（１） …… 40
第26図　２号土器溜り出土遺物実測図（２） …… 41
第27図　２号土器溜り出土遺物実測図（３） …… 42
第28図　２号土器溜り出土遺物実測図（４） …… 43
第29図　SD1～3号実測図 …… 44
第30図　SD1・SD3出土遺物実測図 …… 45
第31図　南区II・III・VII層出土状況図 …… 46
第32図　北区III層遺物出土状況図 …… 47
第33図　北区IV・V層遺物出土状況図 …… 48
第34図　III層出土遺物実測図（１） …… 51
第35図　III層出土遺物実測図（２） …… 52
第36図　III層出土遺物実測図（３） …… 53
第37図　包含層出土石器実測図 …… 54
第38図　楠原遺跡土層断面図（B-2区北側） …… 59
第39図　楠原遺跡確認調査トレンチ設定配置図
及び遺跡範囲図 …… 60
第40図　楠原遺跡VII層上面遺構全体図 …… 61～62
第41図　楠原遺跡グリッド設定図 …… 63
第42図　１・２号土坑実測図 …… 64
第43図　V層遺物出土状況図 …… 65
第44図　包含層出土遺物実測図 …… 66

図 版 目 次

図版１　屋部当遺跡土層状況（Ⅰa～VIII層上面）
屋部当遺跡土層状況（VIII～XIII層上面） …… 75
図版２　屋部当遺跡本調査作業風景
屋部当遺跡本調査１トレンチ検出状況 …… 76
図版３　集石検出状況　集石掘り込み面検出状況 … 77
図版４　SD1・2号検出状況　SD1号完掘状況
SD2号完掘状況 …… 78
図版５　北区VIa層上面遺構検出状況
１号土器溜り検出状況 …… 79
図版６　２号土器溜り検出状況　２号土器溜りと
竪穴住居跡との位置関係状況 …… 80
図版７　竪穴住居跡VIa層上面検出状況
竪穴住居跡完掘状況 …… 81
図版８　南区III層遺物出土状況
北区III層遺物出土状況 …… 82
図版９　出土遺物（１） …… 83
図版10　出土遺物（２） …… 84
図版11　出土遺物（３） …… 85
図版12　出土遺物（４） …… 86
図版13　出土遺物（５） …… 87
図版14　出土遺物（６） …… 88
図版15　楠原遺跡本調査作業風景
BC-6区付近IV・V層遺物出土状況
B-1区付近IV・V層遺物出土状況
BC-5・6区付近VII層上面遺構完掘状況
（南から）
BC-5・6区付近VII層上面遺構完掘状況
（北から） …… 89
図版16　B-2区北側土層断面状況
B-1・2区付近VII層上面遺構完掘状況 …… 90
図版17　１号土坑検出状況　１号土坑完掘状況
１号土坑土層断面状況 …… 91
図版18　２号土坑検出状況　２号土坑完掘状況
２号土坑土層断面状況 …… 92
図版19　包含層出土遺物 …… 93

第Ⅰ章　屋部当遺跡調査の経過

第１節　調査に至る経過

鹿児島県農政部農地整備課（大隅耕地事務所・以下県農地整備課）は，平山Ⅱ期地区において農免農道整備事業を計画し，事業区内の埋蔵文化財包蔵地の有無について鹿児島県教育委員会文化財課に照会した。

これを受けて鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，県立埋文センター）と有明町教育委員会 社会教育課（以下，社会教育課）が平成２年４月に埋蔵文化財分布調査を実施したところ，事業区内に遺物散布地として，屋部当遺跡が存在することが判明した。

この分布調査の結果をもとに県農地整備課，県文化財課，町社会教育課は，埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るため協議を行った結果，事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下，確認調査）を実施することとなった。

確認調査は県立埋文センターの協力で，有明町教育委員会が調査主体となり平成12年11月27日から同年12月８日（10日間）まで実施した。確認調査の結果，古墳時代・縄文時代早期・旧石器時代の遺物包含層の存在が明らかとなった。この結果を受けて遺跡の取り扱いについて県農地整備課，県文化財課，町社会教育課は，遺跡の現状保存，及び事業の設計変更等について協議を実施した。その結果，事業推進にあたっては遺跡の現状保存は困難であると判断し，道路部分については記録保存のための緊急発掘調査を実施することとなった。

本調査は平成13年10月22日から平成13年12月21日（44日間）にかけて県立埋文センターの協力で，有明町教育委員会が主体となって緊急発掘調査を実施することとなった。

平成15年度は，県立埋文センターの協力を得て報告書作成を実施した。

第２節　調査の組織

［平成12年度確認調査］

調査主体	有明町教育委員会		
調査総括	有明町教育委員会	教育長	大迫　亨
調査企画担当	〃	社会教育課長	立山廣幸
調査事務担当	〃	社会教育課長補佐	濱島兼雄
	〃	社会教育係長	鬼塚　仁
調査担当	〃	社会教育課主事	出口順一朗
	県立埋蔵文化財センター	文化財主事	堂込秀人

［平成13年度本調査］

調査主体	有明町教育委員会		
調査総括	有明町教育委員会	教育長	大迫　亨
調査企画担当	〃	社会教育課長	立山廣幸
調査事務担当	〃	社会教育課長補佐	畑山昭俊

	〃	社会教育係長	鬼塚　仁
調査担当	〃	社会教育課主事	出口　順一朗
	県立埋蔵文化財センター	文化財主事	堂込　秀人

［平成15年度報告書作成］

調査主体	有明町教育委員会		
調査総括	〃	教育長	大迫　亨
調査企画担当	〃	社会教育課長	立山　廣幸
調査事務担当	〃	社会教育課長補佐	畑山　昭俊
	〃	社会教育係長	岩元　秀光
調査担当	〃	社会教育課主査	出口　順一朗
	県立埋蔵文化財センター	文化財研究員	黒川　忠広

［平成12年度発掘調査員］

稲田　光昭　大池萬里子　小平　光子　鈴木　絹枝　瀬口　イク　瀬口トミエ
谷川　静枝　谷口　久子　冨迫　利満　中野　京子　中本　雅紹　枦山　貞男
橋口　トシ　森山　敬子　若宮　庸成（以上　社団法人有明町シルバー人材センター）

［平成13年度発掘調査員］

阿久根久子　稲田　光昭　宇都　ミキ　北野　サエ　黒木　郁子　藏坪　サエ
小平　光子　園山キヤク　立迫　サチ　立本　翅　立本　トシ　立山キクエ
立山　利行　谷口　久子　冨迫　利満　冨山　サチ　長竹　健次　鍋　サチ
新保　綾子　新保　松夫　永野　タミ　野口　雪子　野崎ミヤ子　原浦八重子
持永ハツ子　森山　敬子　山平アヤ子　山平　親行　山元フクミ
（以上　社団法人有明町シルバー人材センター）

［平成15年度整理作業員］

安野　美子　若松　孝雄　徳留　愛　槐島　洋子　辻田　由美　那須マリ子
西川　直美

第3節　発掘調査の経過

発掘調査は，平成13年10月22日から同年12月21日（44日間）まで行った。以下，日誌抄により発掘調査の経過を略述する。

10月22日（月）～26日（金）

遺跡周辺の環境整備及び安全対策を施す。

南区…南側１トレンチ該当地点から樹木の抜根作業。

１トレンチ…調査員立会いの下で重機により表土の除去の後，IX～Ｘ層の掘り下げ。

２トレンチ…調査員立会いの下で重機により表土の除去の後，掘り下げ。２トレンチは元々斜面地をＬ字形に削平してあったため，表土除去したところ，面上に分層が見られた。III層に該当すると思われる帯状の層から遺物が出土。

北・南区の削平により露出した東壁の土層を精査した後分層，南区北側より土層断面図作成。

（26日（金）有明中学校生徒10名職場体験に伴い発掘作業に従事）

10月29日（月）～11月２日（金）

１トレンチ…Ｘ～ＸＩ層の掘り下げ。

２トレンチ…表土を除去した面で精査，分層検出状況及び遺物出土状況写真撮影。平板実測，遺物の取り上げ。近代のものと思われる土坑の掘り下げをした後，精査及び完掘状況写真撮影。２トレンチは埋め戻し。

北区…北側から抜根作業。

11月５日（火）～９日（金）

１トレンチ…ＸＩ～XIII層上面まで掘り下げ。１トレンチ内からは遺物は確認できなかった。精査及び完掘状況写真撮影。平板実測，Ｉトレンチ東壁の分層及び分層状況写真撮影及び実測。

北区…北側から抜根作業を行いながら，調査員立会いの下で重機により表土の除去及びII～III層を掘り下げたところ遺物が確認できた。IV層上面で精査及び遺物出土状況写真撮影，平板実測及び遺物の取り上げ。南側は調査員立会いの下で重機により表土の除去。

11月12日（月）～16日（金）

１トレンチ…トレンチ位置図作成の後，埋め戻し。

北区…北側はIII層遺物の平板実測及び取り上げ。南側は，II層が削平を受けて，ほとんど見当たらず，III層を掘り下げたところ遺物が確認できた。精査及び遺物出土状況写真撮影した後，平板実測及び遺物の取り上げ。III層中より１号・２号溝，南側最南端に１号土器溜まり，南側溜池横に２号土器溜りを検出。１号土器溜まりは実測及び遺物取り上げ。

南区…調査員立会いの下で重機により表土の除去及びII～III層を掘り下げ。

（13日（火）～14日（水）岩川高校生徒１名が職場体験に伴い発掘作業に従事）

11月19日（月）～11月22日（木）

北区…北側はIV層～Ｖ層の掘り下げしたところ遺物が確認できた。精査及び遺物出土状況写真撮影，IV・Ｖ層遺物の平板実測及び取り上げした後，VIa 層上面で精査及び遺構検出状況写真撮影。遺構内埋土を掘り下げ，完掘状況写真撮影。南側は北端側の調査区からIV層の掘り下げ。

南区…III層の掘り下げの後，精査，遺物出土状況写真撮影，平板実測及び遺物の取り上げ。その後，IV層上面にて遺構検出，精査，遺構検出状況写真撮影，遺構内埋土を掘り下げ。

11月26日（月）～11月30日（金）

北区…北側はアカホヤ層（VIa～VIc 層）を重機にて掘削した後，VII層の掘り下げ。小礫を含む遺

物が出土。サツマ層（Ⅷ層）上面で遺構検出を行ったが遺構は確認できなかった。サツマ層（Ⅷ層）は重機にて掘削した後，Ⅸ～Ⅹ層の掘り下げ。南側は北端側の調査区からⅣ層の掘り下げ。南端部は１号・２号溝の埋土部分を掘り下げ。精査及び遺構内部の遺物出土状況写真撮影をした後，平板実測及び遺物の取り上げ，完掘状況写真撮影。

南区…Ⅳ層上面にて検出された各遺構内埋土の掘り下げをした後，精査及び全体・各遺構完掘状況写真撮影。Ⅳ層を掘り下げたが，遺物は確認できなかった。Ⅴ層上面で遺構検出を行い，各遺構の検出状況の平板実測，各遺構の掘り下げ，完掘状況写真撮影。

12月３日（月）～12月７日（金）

北区…北側はⅩ層～ⅩⅢ層上面まで掘り下げ。Ⅹ・ⅩⅠ層からは遺物は確認できなったが，ⅩⅡ層で小礫２点が出土した。シラス層（ⅩⅢ層）上面で遺構検出を行ったが遺構は確認できなかった。南側は，北端側はⅤ層がほとんど見当たらず，アカホヤ層（Ⅵa 層）上面で遺構検出を行ったところ，土坑・柱穴を確認。精査，遺構検出写真撮影，平板実測の後，各遺構の掘り下げ。南端部はⅢ層を掘り下げ，遺物を確認。精査した後，遺物出土状況写真撮影。遺物の取り上げを行った後，遺構検出を行い，Ⅲ層を埋土とした３号溝を含む遺構を確認できた。精査，検出状況写真撮影の後，各遺構の掘り下げをした後，完掘状況写真撮影及び平板実測。実測が終了後Ⅳ・Ⅴ層を掘り下げたが遺物は確認できなかった。

南区…アカホヤ層（Ⅵa～Ⅵc 層）を重機にて掘削した後，Ⅶ層の掘り下げ。焼石が多数出土し，１号集石を検出した。精査，遺物出土状況写真撮影，平板実測した後，遺構検出を行ったが，１号集石以外の遺構は確認できなかった。１号集石の平面･断面実測図を作成した後，サツマ層（Ⅷ層）上面で検出したところ，掘り込み面が確認。精査，検出状況写真撮影，遺構内埋土の掘り下げ，完掘状況写真撮影。南端部の土層断面実測を行った。

12月10日（月）～12月13日（木）

北区…北側は埋め戻し。南側は，北端側は各遺構の掘り下げをした後，精査，完掘状況写真撮影，平板実測。南端側はアカホヤ層（Ⅵa 層）上面での遺構検出を行ったところ，遺構が確認できた。精査，検出状況写真撮影の後，各遺構の掘り下げ。掘り下げが終了した後，精査，完掘状況写真撮影及び平板実測。

南区…サツマ層（Ⅷ層）上面でのコンタ図作成。

12月17日（月）～12月21日（金）

北区…南側は，北端側はアカホヤ層（Ⅵa～Ⅵc 層）を重機にて掘削した後，Ⅶ層上面での遺構検出を行ったが遺構は確認できなかった。Ⅶ層を掘り下げたが遺物は確認できず，サツマ層（Ⅷ層）上面で遺構検出を行ったところ，ピット２基が検出された。精査，検出状況写真撮影を行った後，ピット内埋土の掘り下げ。精査，完掘状況写真撮影及び平板実測。南端側は２号土器溜りの実測及び遺物の取り上げ。２号土器溜りの下層を掘り下げたところ，Ⅵa 層上面で１号竪穴住居跡を検出。精査，検出状況写真撮影をした後，埋土内の掘り下げ，住居内遺構の検出及び埋土の掘り下げ。精査，完掘状況写真撮影した後，１号竪穴住居跡の実測。

南区…南端部の土層断面精査及び写真撮影。

第II章　遺跡の位置及び環境

第1節　有明町の概要

有明町は大隅半島の東南部に位置し，北東部に松山町，北西部で大隅町，東部で志布志町，南西部で大崎町に隣接し，町の東南部では約1.7kmが志布志湾に面している。総面積は98.05平方キロメートルあり，そのうち県内でも珍しい「飛地」1.02平方キロメートルが隣接する大崎町内にある。地形は，全体として志布志湾に向かって緩い勾配になっており，町の中央を菱田川が流れる。その両岸にシラス台地が拡がり，また河川の侵食による河岸段丘や沖積平野が形成され，その一帯は明治から昭和にかけて先人たちの開墾による野井倉開田・蓬原開田が拓がっている。

第2節　地形的環境

西南日本は『中央裂線』で内外帯に区分されるが，この地域は佐賀之関・八代線の東南部外帯に属し，鹿児島湾地溝によって薩摩半島と相対し，『高隈傾動地塊』の東部低地の一部をなし，安楽川・菱田川・田原川・肝属川などの諸川によって開析される火山噴出物の台地である。町の中央を流れる菱田川は，高隈山地に源を発し，祝井谷北方で南流に転じ，松山で支流を併せ南西に市柴を経由し，久保崎付近において大鳥川と合流し，それよりほぼ南流して菱田・押切において志布志湾に入る。

地域全体の起伏は，ほぼ100ｍの等高線をもって北部の山岳地帯と南部の火山噴出物の台地に二分することができるが，菱田川下流は河岸段丘の発達が明瞭である。便宜上次のように地形区を設定して述べることとする。

【菱田川沿岸低地】

1．志布志湾沿岸及び砂丘

有明町の区域で直接志布志湾に面する汀線の延長は1,750ｍぐらいであり，志布志から肝属川河口に延びて発達する沿岸砂丘の一部を成している。菱田川などの河口付近では河道の変遷が著しく，沿岸流の方向は北東へ流れるものと南西へ流れる場合とあり，南西流が卓越している。なお横瀬古墳・神領古墳群や神社などが存在していることから，古墳時代以後あまり海岸線の変化はなかったものと考えられる。

2．菱田川沿岸の河岸段丘地域

第一段丘面右岸に出水地区，左岸に小蓬原・下野井倉，更に下って田尾以南になると両岸に沖積層である水田化した段丘面が展開する。第二段丘面の末端よりの自然湧水を利用する他，左岸においては上水流堰より，右岸においては大久保井手により，藩政時代の頃から潅漑がなされ，台地面の野井倉開田・蓬原開田以前においては最も重要な生産地域であった。

第二段丘面は，菱田原に続く普現堂・大久保馬場が右岸に，野井倉下段から肆部合集落が左岸に対称的に並んでいる。20ｍの等高線は，野井倉上村付近において川を渡り片平東端に崖をつくり，末端には片平城〔80〕の跡がある。

第三段丘面は，広い台地面をなして，野井倉では戦時中おかれた海軍飛行場の面から北方へ延

長して岳ノ山麓まで及び，西岸は宇都山麓の宇都ノ鼻集落を頂点として南に展開する台地面であって，いずれも高度30～60mの火山噴出物台地面である。

3．上流の幼年谷の地域

旧野方村の瀬戸間伏川のあたりから熔結凝灰岩を侵蝕して奇岩の多い甌穴群等をつくり，いわゆる谷中谷の様相を呈しながら，菱田川の支流である大鳥川が倉ヶ崎付近から大きく湾曲して北流し，高牧城跡〔81〕のある高牧台地を迂回して南下する。この間は，谷幅の狭い嵌入蛇行をなし，久保崎付近において本流と合流し，仮屋・中野の間を経て上水流ダムに至る。100mの等高線は縄瀬北方で川を渡って南下する。

【中央部火山灰台地】

南部低平地を流れる菱田川と安楽川に挟まれた台地は「野井倉原」と呼ばれ，北部は上段と下段の段丘面に分れる。菱田川と田原川の間は北部より「野神原」「蓬原原」「菱田原」と称され，田原川西方草野丘との間は「立本」「草野原」と呼ばれ南方大崎町の「仮宿原」に続く。

いずれも高度20mから100m程度の火山灰（シラス）台地である。

【北部山岳・丘陵地域】

安楽川支流二つによって開析された伊崎田台地と，標高400mに及ぶ霧岳(408.3m)，岳ノ山(278m)，宇都山（179m），草野丘（268m）及び伊崎田鍋・川添・山重から沢津ヶ峯を含む100mから170mの山岳地帯を含む地域である。これらは時代未詳とされた中生層を基盤として，準平原化の後周囲の台地が形成されたものといわれ，山地の開析は相当に進んでいるので火山灰台地面を除いてほとんど平坦面を残していない。東部安楽川よりの開析は二つの不渇流によって進められ，一つは本村から末広，宮塩に及ぶ谷と，一つは風八重より菅牟田，高下谷に至るものとがあり，西方菱田川よりの開析は市柴東方より南東に進んで茗ヶ谷に及び，飯野・宝永・字尾の台地が両川の分水界となっている。開析が進んで地形が複雑になっていることは，この地域の交通に及ぼす影響が大きく，集落は谷間に点在している。

安楽川の一支流本村川は，典型的な樹枝状の谷を以て，台地を開析して霧岳の南麓にせまっている。霧岳は，川路・宮塩北方の台地の畑地域より北部は壮年期の開析が進み，頂上付近はほとんど平坦面を残していない。南西方向に谷を隔てて山ノ口台地の北方に孤立する字尾丘は標高255.2mを示し，土江との間を通ずる志布志～都城間県道が峠を利用する所は眺望優れて西方はるかに大隅の平原を一望におさめる景勝地として『曽於八景』の一つに選ばれている。

もう一つの安楽川支流は旧国鉄志布志線安楽駅の付近より北方に開析を進め，風八重より西北西に伸び高下谷に至る間，南西または北方に開く侵蝕を進めて，町の中央に位置する岳ノ山を開析して山麓線を鋸歯状に複雑にしている。岳ノ山北方において菱田川よりの浸食との分水界は，久木迫南東方と高下谷西方との間において，100mの等高線の水平距離は240m程度となっているため岳ノ山を孤立させている観がある。

菱田川西方地域においては，北方大鳥川嵌入蛇行の谷で大隅町と境し，野神原台地の北端にある山重平野，芝用を経て沢津ヶ峯より田原川の谷を隔てて西辺の草野丘に及ぶ一連の丘陵及び高地が

ある。100ｍの等高線を追跡すると，蓬原中野西方より西方に走り，野神稲荷下丸岡より南下して，台地上に孤立した時代未詳中生層が残丘状に残ったものである宇都山の麓を一周して北上し，稲荷下南方より西走し田原川の左岸頭方限を経て西方仮屋谷において川を渡って南下しており，野神原を南北に二分している。

第３節　気候的環境

本町は緯度から見て北緯30度と32度の間に位置し，『表日本南海式気候区』の南端に位置しているので，亜熱帯に近い暖帯性の特色を示している。地域内の気候区を細かく区分することは困難であるが，志布志湾岸の低地と，野井倉・蓬原の台地面と，北方の高地帯とは，高度の垂直差異よりも隔海度の差異によって気温の地区的な変化が若干現われ，初・晩霜野地期も遅速がみられる。しかし降水量について地域差は著しくないが，夏の驟雨性の雨においては北方高地帯に多くなっている。年平均気温は17℃内外，最高気温は８月の28℃，最低は２月の９℃内外で年格差は19℃内外である。また年間降水量は2,000㎜内外であるが，多い年は3,000㎜を超えている。

第４節　周辺遺跡の概要

有明町は，中央に菱田川が貫流しており，東に安楽川，西に田原川がいずれも志布志湾に流れている。従ってその河川の流域は自然の湧水も豊富で，人間が住みつき生活するには格好の土地である。町内の遺跡は，昭和49年，53年，55年，58年に大隅地区埋蔵文化財分布調査の一環として鹿児島県教育庁文化課により分布調査が実施され，また近年の開発事業の増加に伴う分布調査が行われ，各時代の遺跡が町内全域にわたって確認された。現在（平成14年４月）までに確認されている遺跡数は，旧石器時代２ヶ所，縄文時代65ヶ所，弥生時代75ヶ所，古墳時代81ヶ所，古代19ヶ所，中世10ヶ所，その他（時代不詳等）10ヶ所が報告されているが，各時代が重複している遺跡もあり，遺跡の数としては203ヶ所が挙げられる。

【旧石器時代】

有明町内では旧石器時代の遺跡は，近年の開発に伴う埋蔵文化財発掘調査により，蓬原の仕明遺跡〔66〕，屋部当遺跡〔150〕の２遺跡が確認されている。仕明遺跡からはマイクロコアやチップが数点，屋部当遺跡からは剝片尖頭器が１点出土している。

これらの遺跡は，湧水が近くに存在する台地に分布している。

【縄文時代】

有明町内では縄文時代の遺跡は65遺跡存在し，本格的な調査で縄文時代の遺物・遺構が近年多数確認されている。昭和53年度の立山遺跡〔113〕（旧遺跡名室太郎遺跡）は晩期の遺物が，昭和59年度確認調査の山原遺跡〔31〕・札元遺跡〔32〕『有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（１）』からは，山原遺跡より入佐式等の晩期の土器や局部磨製の有肩打製石斧が，札元遺跡からは御領式と思われる後期の土器や有肩の扁平局部磨製石斧が出土している。昭和52年度分布調査の山ノ口遺跡〔111〕からは押型文，吉田式，塞ノ神式，春日式，指宿式，市来式等の早期，前期，中期，後期の土器や石

鏃や石皿等の石器が多数出土している。平成６年度確認調査の高牧Ａ遺跡〔10〕からは塞ノ神式の早期の土器や磨石等の石器が出土している。平成７年度確認調査の北別府遺跡〔118〕からは晩期土器片，平成８年度全面調査の楠原遺跡〔116〕からは後期の土器片，平成9年度全面調査の丸岡Ａ遺跡〔38〕からは前平式の早期の土器が出土している。平成11年度確認調査の下堀遺跡〔127〕・浜場遺跡〔128〕からはいずれの遺跡から早期の土器片，平成12年度確認調査の穴倉Ｂ遺跡〔117〕からは石坂式等の早期の土器，牧原遺跡〔76〕からは晩期の土器片，全面調査の牧原Ａ遺跡〔4〕からは晩期の土器片や前平式の早期の土器，横堀遺跡〔88〕からは塞ノ神式，石坂式，前平式の早期の土器や石鏃，磨石，敲石等の石器が出土し，集石群と連穴土坑１基が検出された。平成13年度全面調査の仕明遺跡2次調査〔66〕からは早期の土器片や多数の石鏃やスクレーパー等の石器，上苑遺跡〔104〕からは早期の土器片，屋部当遺跡〔150〕からは早期の土器片や石皿，破砕した焼石が出土している。また飯野Ａ遺跡〔120〕，大迫遺跡〔27〕，本村遺跡〔119〕，黒葛遺跡〔15〕からも前期，晩期，早期相当の土器及び遺構が確認されている。

これら縄文時代の遺跡旧石器時代の遺跡同様，低地よりも湧水が近くに存在する台地に多く分布している。

【弥生時代】

有明町内では弥生時代の遺跡は57遺跡存在し，本格的な調査で弥生時代の遺物・遺構が近年確認されているのは，前述した昭和52年度分布調査の山ノ口遺跡〔111〕で，その遺跡からは山ノ口式土器が出土し，平成11年度確認調査の上苑Ａ遺跡〔165〕・下堀遺跡〔127〕からは弥生時代のものと思われる土器片が出土，前述した平成13年度全面調査の本村遺跡〔119〕からは弥生時代のものと思われる土器片の他，花弁形住居１基が見つかっている。

また，土橋遺跡〔20〕から明治40年に鹿児島県下でも１本しか出土例のない，長さ81.7㎝の中広銅鉾が発見されている。これについては現在東京国立博物館に所蔵されており，この複製品を平成15年１月に開館する農業歴史資料館に展示する予定である。

これまでの分布調査等の結果から，現在集落の存在する近辺で遺跡が広く分布している。

【古墳時代】

有明町内では古墳時代の遺跡は57遺跡存在し，本格的な調査で縄文時代の遺物・遺構が近年多数確認されている。前述した平成８年度全面調査の楠原遺跡〔116〕，平成９年度全面調査の丸岡Ａ遺跡〔38〕，平成11年度確認調査の下堀遺跡〔127〕・浜場遺跡〔128〕，平成12年度確認調査の穴倉Ｂ遺跡〔117〕からはいずれも成川式土器片が出土している。平成12年度から平成13年度まで全面調査を行った仕明遺跡〔66〕からは多数の成川式土器も出土しているが，13基の竪穴住居や溝跡等の遺構が見つかっている。

また，田原川左岸の標高57.5ｍの台地にある大塚古墳群に属する原田古墳は，廻り125ｍ，直径40ｍ，高さ８ｍの円墳であり，口碑によるとコノハナサクヤヒメの墓であるとされているが，定かではない。その原田古墳の，南西に22ｍの畑地より地下式横穴が発見されている。玄室が長方形のプランで切妻の家形を呈し，玄室内には軽石製組合せ石棺が置かれていた。石棺内には保存状態はよ

くないが伸展葬の脛骨，腓骨，大腿骨，骨盤，肋骨，前腕骨，脊髄が残存し，鉄製の刀子１本が副葬されていた。

蓬原川右岸の標高45ｍの台地に位置する馬場地下式横穴群では，現在までに地下式横穴が６基確認されている。昭和37年の県道拡張工事により台地を掘り下げた結果，一部は削平されたが，玄室から埋葬人骨と副葬された鉄剣２本，三角鏃１本が発見されている。この他にも，菱田川，田原川の流域に円墳や地下式横穴の分布がしられているが，ほとんど調査は行われていない。

【古代】

有明町内では古代の遺跡は15遺跡存在し，いずれも分布調査により確認された遺跡であり，本格的な調査での確認はされていない。

【中世】

有明町内では中世の遺跡は13遺跡存在し，内４遺跡は城跡である。中世において諸縣郡救仁郷三百五十町の中心であり救仁郷氏の居城であった蓬原城跡〔91〕をはじめ，金丸城跡〔79〕，片平城跡〔80〕，高牧城跡〔81〕があるが現在まで本格的な調査はなされていない。

その他，本格的な調査で中世の遺物・遺構が確認されているものは，平成12年度から平成13年度まで全面調査を行った仕明遺跡〔66〕であり，青白磁合子や鉄製の刀子，陶磁器片が出土し，堀跡や古道，土壙墓が検出されている。

【参考文献】

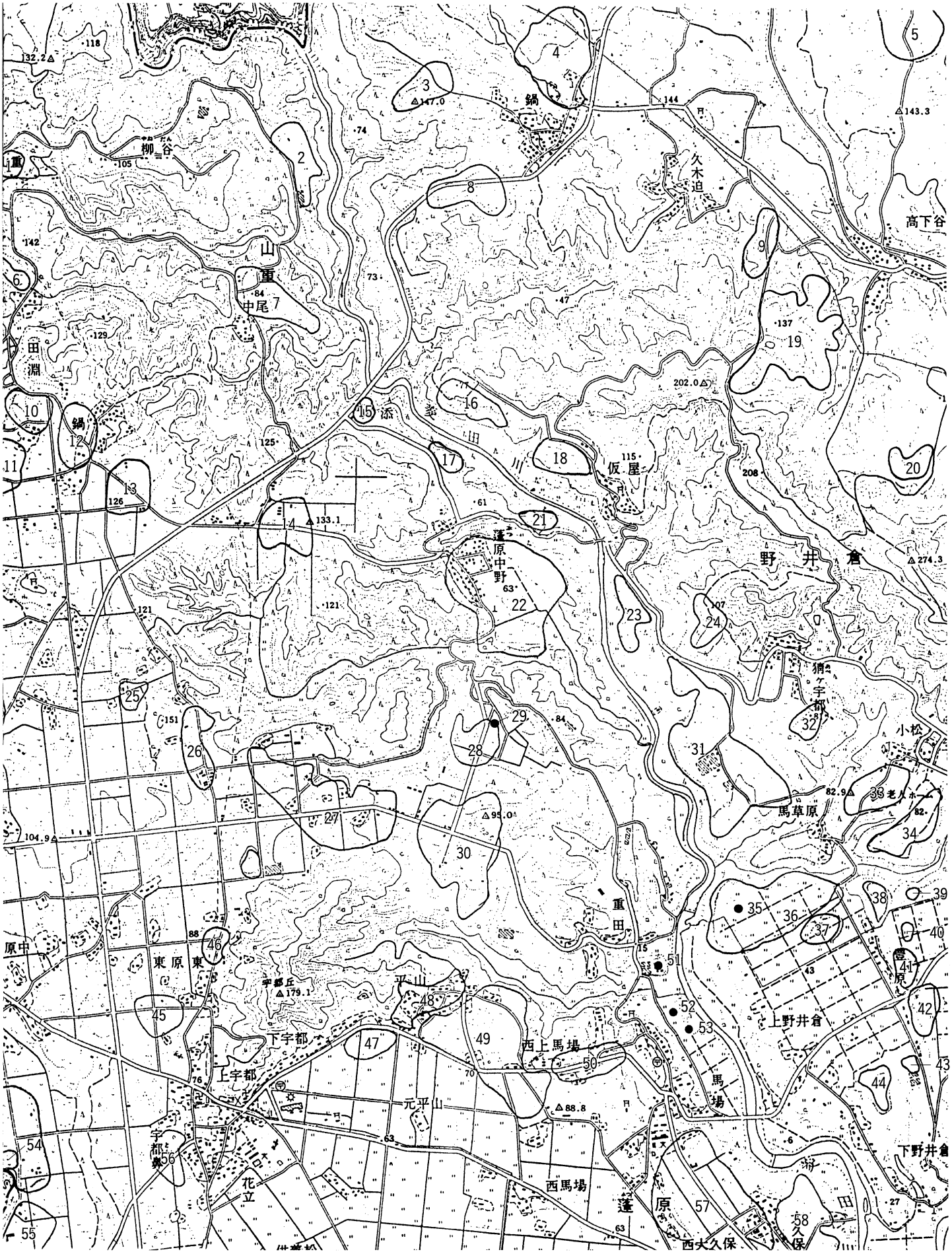
有明町教育委員会　札元遺跡・山原遺跡　『有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（１）』　1985年
有明町郷土史編纂委員会　『有明町誌』　1980年
河口貞徳　『日本の古代遺跡38　鹿児島』　1988年

第１表　屋部当遺跡・楠原遺跡周辺遺跡地名表（１）

番号	遺　跡　名	所　在　地	地形	時　　代	遺　物　等	備　　考
1	山重	山重字山重	台地	弥(中)	土器・石器	
2	柳井谷	山重字柳井谷	台地	縄(早・晩)	土器(前平式) 黒色研磨土器 粗製土器	
3	鍋A	伊崎田字鍋・西ノ迫	台地	古		平成11年度農政分布調査
4	稗ノ迫	伊崎田字稗ノ迫・ 鍋前畑・蔦ノ段	台地	古		平成11年度農政分布調査
5	牧	伊崎田字牧・堂免	台地	古		平成８年度農政分布調査
6	田渕A	野神字田渕・山中	台地	弥	土器・石器	
7	中尾	山重字中尾・長谷	台地	縄(晩)・弥	土器	
8	伊崎田鍋	伊崎田字牧 ・西ヶ迫・鍋前田	台地	縄(早・後)	石坂式・吉田式	平成11年度農政分布調査 旧遺跡名（西之迫）
9	仮宿A	伊崎田字仮宿・別当	台地	古		平成11年度農政分布調査
10	大久保	野神字大久保 ・釣ヶ段	台地	弥		
11	釣ヶ段	山重字釣ヶ迫 野神字田渕・大久保	台地	古		平成10年度農政分布調査
12	田渕B	野神字田渕・大久保	台地	弥	打製石器	
13	鍋迫	野神字鍋迫・鍋前	台地	古		平成10年度農政分布調査
14	井ノ木	山重字上ノ段・竹迫	台地	古		平成11年度農政分布調査
15	川添	山重字川添・鍋ヶ迫 ・谷後	台地	縄・ 弥(前・中)	石斧	
16	仮屋頭	野井倉字仮屋頭 ・仮屋	台地	縄(後)・中世	土師器・鉄滓	平成11年度農政分布調査
17	向段A	蓬原字向段	台地	歴		
18	仮屋A	野井倉字仮屋	台地	縄(早・後)	前平式	平成11年度農政分布調査
19	仮宿	伊崎田字仮宿 ・多々越	台地	縄		平成７年度農政分布調査
20	天神ノ尾	伊崎田字天神ノ尾	台地	縄		平成７年度農政分布調査
21	向段B	蓬原字向段	台地	縄(後)		
22	前畑A	蓬原字前畑	台地	古		平成11年度農政分布調査
23	仮屋B	野井倉字仮屋	台地	縄(早・後) 弥(前)	打製石斧・平栫式	平成11年度農政分布調査
24	西ノ谷	野井倉字西ノ谷	台地	弥		
25	丸岡A	野神字丸岡・中ノ丸	台地	古		平成10年度農政分布調査
26	丸岡B	野神字丸岡・蓬原字 楠原・山ノ後	台地	古		平成10年度農政分布調査
27	楠原B	蓬原字楠原 ・山ノ後・屋部当	台地	古		平成10年度農政分布調査
28	楠原	蓬原字楠原・大迫	台地	弥・古	土坑２基・成川式	平成２年度農政分布調査 平成９年度本調査
29	楠原古墳	蓬原字大迫・金丸	台地	古	円墳	

第２表　屋部当遺跡・楠原遺跡周辺遺跡地名表（２）

番号	遺　跡　名	所　在　地	地形	時　　代	遺　物　等	備　　考
30	屋部当	蓬原字屋部当・大迫・楠原	台地	旧・縄早・古		平成10年度農政分布調査 平成13年度本調査
31	向原	野井倉字向原・岩坂・中川・出水	台地	縄(晩)・古	打製石斧　円墳(牧ノ内古墳)	平成11年度農政分布調査
32	前畑Ｂ	蓬原字前畑	台地	古		平成11年度農政分布調査
33	平尾Ｂ	野井倉字平尾・井手・小松	台地	縄(晩)・中世	打製石斧・青磁	平成11年度農政分布調査
34	平尾	野井倉字平尾	台地	縄		平成11年度農政分布調査
35	井手上Ａ	野井倉字井手上・上ノ水流	台地	縄・弥・古	土器・石器 人骨・土師器	平成11年度農政分布調査
36	平尾Ａ	野井倉字平尾・井手上	台地	縄(後)・中世	三万田式・土師器	平成11年度農政分布調査
37	井手上Ｂ	野井倉字井手上	台地	古代	土師器	平成11年度農政分布調査
38	上ノ段Ｅ	野井倉字上ノ段	台地	弥		平成11年度農政分布調査
39	上ノ段Ａ	野井倉字上ノ段	台地	弥	土器	平成11年度農政分布調査
40	上ノ段Ｂ	野井倉字上ノ段	台地	弥	土器	平成11年度農政分布調査
41	上ノ段Ｄ	野井倉字上ノ段	台地	古代		平成11年度農政分布調査
42	稲付	野井倉字稲付・下段	台地	弥		平成11年度農政分布調査
43	下段	野井倉字下段	台地	弥	土器	平成11年度農政分布調査
44	和田上	野井倉字和田上	台地	弥・古	土器・土師器	平成11年度農政分布調査
45	大堀	野神字大堀・水喰	台地	古・古代		平成10年度農政分布調査
46	水喰	野神字水喰・蓬原字山ノ後	台地	古代		平成10年度農政分布調査
47	山ノ前	蓬原字山ノ前	台地	古		平成10年度農政分布調査
48	捨り	蓬原字捨り・日鎌・山ノ前	台地	弥(中)	土器・石器	
49	日鎌	蓬原字日鎌・捨り・内城	台地	古		平成10年度農政分布調査
50	馬場地下式横穴	蓬原字小松・内城	台地	古	剣・槍・人骨	(町)昭52．4．21
51	金丸城跡	蓬原字神領	丘陵	中世	空堀	
51	禅宗好善寺跡	蓬原字神領	低地			(町)昭52．4．21
52	真言宗惣持院跡	蓬原字出水	低地			(町)昭44．4．1　史
53	蓬原城跡	蓬原字出水	台地	中世	堀・空堀・土塁	(町)昭44．4．1　史
54	下堀	野神字下堀・立山	台地	縄(早)弥・古	成川式	平成８年度農政分布調査
55	立山	原田字立山	台地	古		平成10年度農政分布調査
56	上原	原田字上原	台地	古		平成10年度農政分布調査
57	大園Ａ	蓬原字大園・上大園・小松	台地	縄・古	土器・石器	平成11年度農政分布調査
58	大園Ｂ	蓬原字大園・井手ノ上	台地	古		平成11年度農政分布調査



第１図　屋部当遺跡・楠原遺跡周辺遺跡地図

第5節　丸岡遺跡

（1）概要

有明町には，第4節において述べたように多くの遺跡が存在している。ここではこの中から丸岡遺跡を抽出して紹介してみたい。

丸岡遺跡は，有明町大字伊崎田に位置する。第2節において前述した北部山岳・丘陵地域内に位置し，県単独農業農村整備事業に伴って確認調査は平成7年7月24日から同月28日，本調査は平成9年7月14日から8月22日にかけて調査された遺跡である。調査面積は810㎡で，調査の結果，Ⅷ層上面で縄文時代早期の竪穴状遺構1基，集石1基が検出された。

（2）層位

標準土層は下記のとおりである。

Ⅰ層	灰褐色土層	表土。旧道の硬化面あり。
Ⅱ層	灰褐色火山灰層	層厚2㎝程度で部分的に検出される。 大正3年の桜島の爆発により噴出した火山灰である。
Ⅲ層	黒色腐植土層	やや粘質のある腐植土層で，古代以降の時期に相当する遺物包含層である。
Ⅳ層	黄褐色土層	オレンジ色のパミスを多く含む遺物包含層である。
Ⅴ層	黄橙色火山灰層	6,300年前に鬼界カルデラから噴出されたとされる アカホヤ火山灰で，全体にブロック状に存在している。
Ⅵ層	黒色土層	縄文時代早期の遺物包含層である。
Ⅶ層	暗茶褐色土層	
Ⅷ層	黄褐色土層	硬質で黄色のサツマ火山灰と思われるパミスを含んでいる。
Ⅸ層	茶褐色粘質土層	
Ⅹ層	黄褐色土層	さらさらとしているシラス層である。

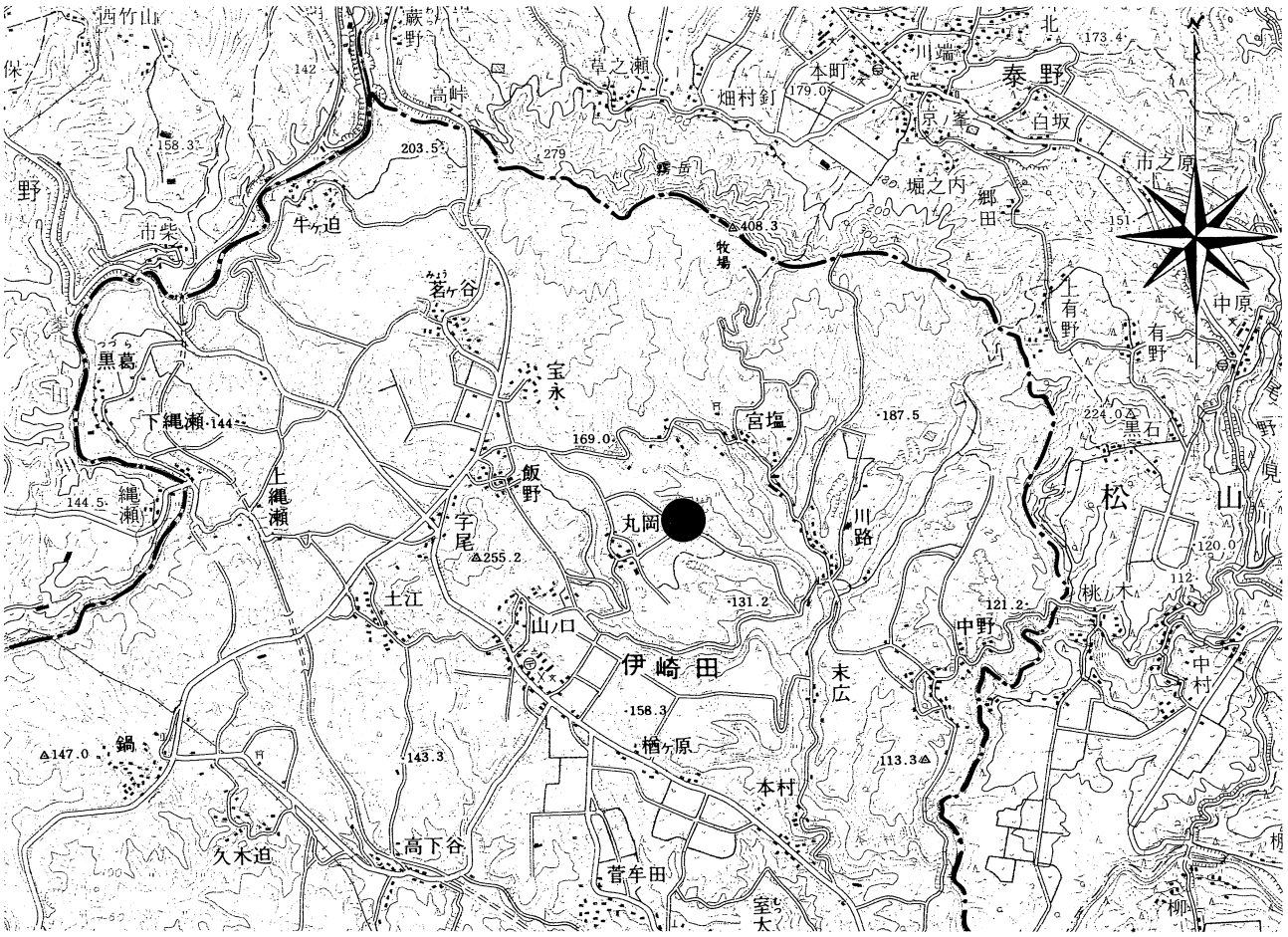
（3）遺構

Ⅷ層上面において，竪穴状遺構が1基検出されている。プランは2.5m×1.7mの隅丸長方形に近い楕円形であり，上面から複数のピットが切り合っていた。埋土は2層に細分出来，このうち上部に堆積しているa層は，縄文時代早期の遺物包含層であるⅥ層に概当する。遺構内からは前平式土器が9点出土している。この内3点を実測掲載した。1は，口縁部に近い部位と思われる。外面は，やや太めの貝殻条痕文が斜位に施文されている。内面は風化の為はっきりとしないが，縦位の調整が施されているものと思われる。

（4）包含層出土遺物

包含層からは，Ⅲ層より28点，Ⅳ層より225点，Ⅵ層より262点土器が出土している。この内32点を実測掲載した。Ⅵ層の遺物としては4～30，31～35はⅢ・Ⅳ層から出土した土器である。

4～10は口縁部のキザミが2段のものである。4は復元口径17.4㎝である。文様は，口縁部に太いキザミを2段施し，胴部は貝殻条痕文である。5は復元口径13㎝のやや小型の土器である。6は口縁部内面にわずかな段を有する。11・12は口縁部のキザミが1段のものである。13は口縁部を欠損するものであるが，横位の貝殻刺突文が観察できる。14～16は胴部片である。17～20は底部片で



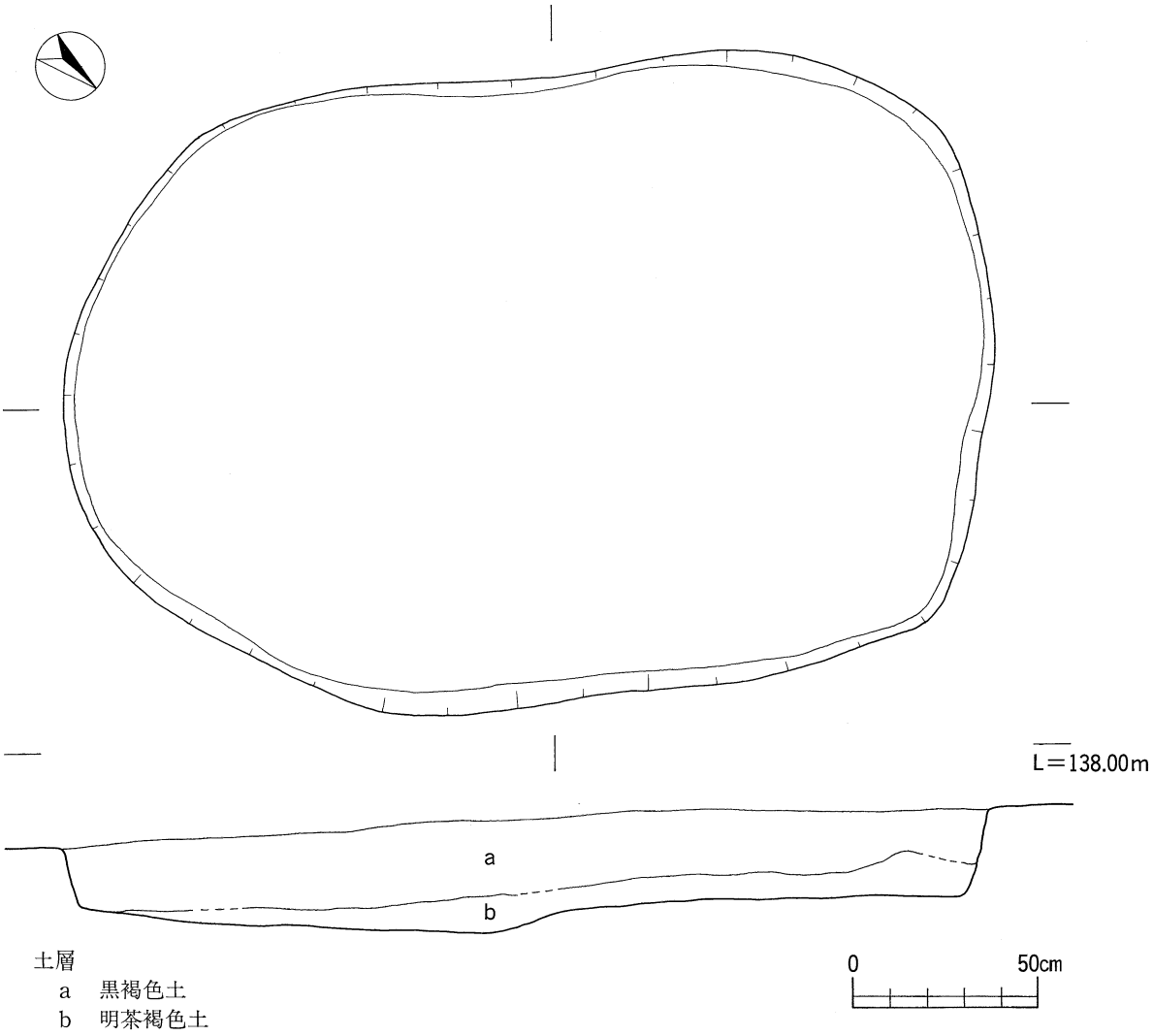
第２図　丸岡遺跡位置図

ある。18は底径20cmを測る大型のものである。胴部の文様は斜位の貝殻条痕文であるが，底部付近では横位に施文されている。21～24は，貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねるもので，21・22にはクサビ形貼付文が施されている。25は胴部片で，貝殻押引文が施文されている。26は，22～25の底部の特徴が見られるが，個体を特定できなかった。27は口縁部が若干内傾する。瘤状の突起が付着している。口唇端部にはキザミ目が施され，胴部は縦位の条痕の上に斜位の条痕文が重ねられている。28・29もこれに類するものと思われる。30は壷形の器形を呈する。

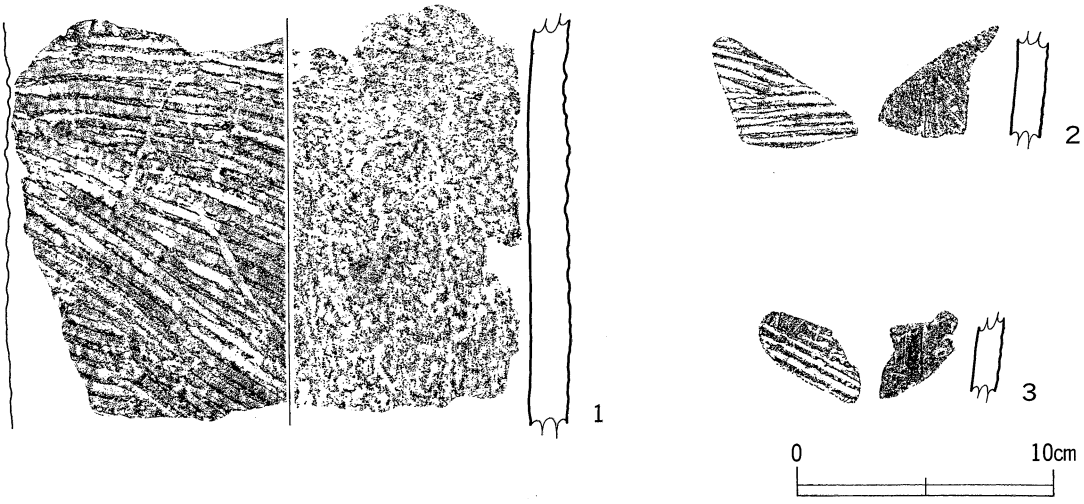
31は隆帯が施される。32～34は細い沈線文が施されているもので，32・33は口縁部内面にも施文が施されている。35は底部片である。底面部分を欠く。内外面共に貝殻条痕文が施されている。

（５）小結

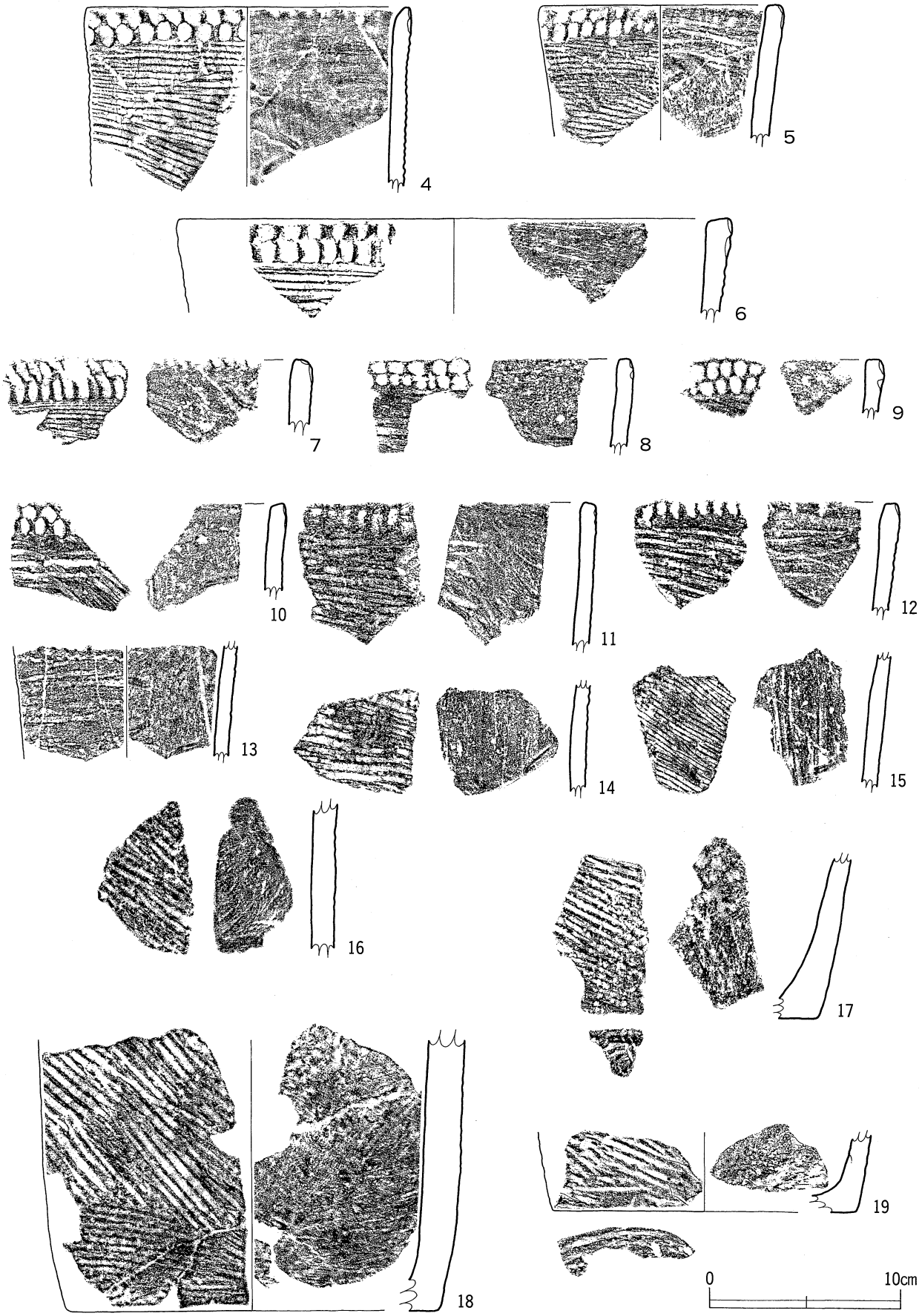
これまで，丸岡遺跡から検出された竪穴状遺構をはじめ，出土遺物について紹介してきた。近年，当町においても縄文時代早期の遺跡の調査が数例有り，着実に資料の蓄積が見られる。さて，縄文時代早期とした竪穴状遺構は，遺構内出土遺物の特徴から前葉段階の前平式土器期のものと思われる。前平式土器期の竪穴状遺構は，川辺町鷹爪野遺跡でも検出されており，宮崎県日南市や串間市においても確認されている。今回の調査では，１基のみの検出であるために集落構成等を解明することが出来なかった。今後は，周辺遺跡の状況などを参考に検討を重ねていきたい。



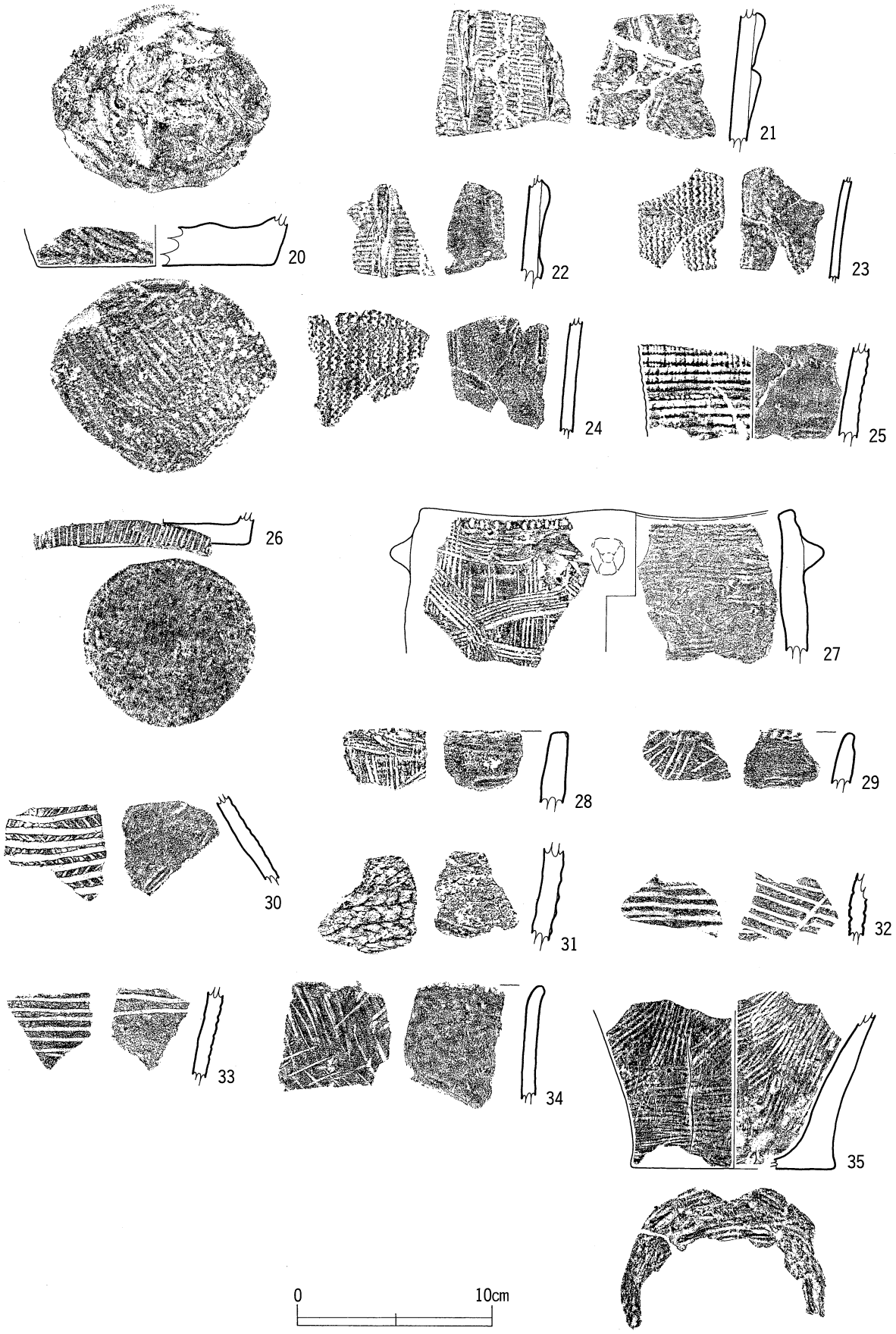
第３図　竪穴状遺構実測図



第４図　竪穴状遺構内出土遺物



第５図　包含層出土遺物(1)



第６図　包含層出土遺物(2)

第 3 表　丸岡遺跡土器観察表

レイアウトNo.	種別	部位	区	層	胎土						色調		調整		備考
					石英	雲母	角閃石	小礫	赤褐色粒	砂粒					
1	前平式土器	胴部			○	○		○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 暗黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	竪穴状遺構内
2	前平式土器	胴部			○					○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	竪穴状遺構内
3	前平式土器	胴部			○					○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	竪穴状遺構内
4	前平式土器	口縁部	J 3	VI	○			○	○	○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリのちナデ 貝条痕	
5	前平式土器	口縁部	I 3	VI	○					○	内面： 外面：	黄茶褐色 暗黄茶褐色	内面： 外面：	条痕 貝条痕	
6	前平式土器	口縁部	一括		○			○		○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	
7	前平式土器	口縁部	M 4	VI	○					○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
8	前平式土器	口縁部	G 2	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 暗黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
9	前平式土器	口縁部	H 2	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
10	前平式土器	口縁部	F 2	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 暗黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
11	前平式土器	口縁部	I 3	VI	○					○	内面： 外面：	暗茶褐色 暗茶褐色	内面： 外面：	貝条痕 貝条痕	
12	前平式土器	口縁部	I 3	VI	○					○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	貝条痕 貝条痕	
13	前平式土器	胴部	L 4	VI	○					○	内面： 外面：	暗黄茶褐色 暗黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
14	前平式土器	胴部	J 4	VI	○					○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	
15	前平式土器	胴部	J 3	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	
16	前平式土器	胴部	I 3	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	
17	前平式土器	底部	H 2	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	
18	前平式土器	底部	H 2	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	
19	前平式土器	底部	一括		○					○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
20	前平式土器	底部	H 2	VI	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	工具ケズリ 貝条痕	
21	加栗山式土器	胴部	表採		○			○		○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
22	加栗山式土器	胴部	K 4	VI	○			○		○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	ナデ 貝条痕	
23	加栗山式土器	胴部	K 4	VI	○			○		○	内面： 外面：	暗茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
24	加栗山式土器	胴部	K 4	VI	○			○		○	内面： 外面：	赤茶褐色 暗茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
25	吉田式土器	胴部	P 5	VI	○			○		○	内面： 外面：	暗茶褐色 暗茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
26	加栗山式・吉田式土器	底部	P 5	VI	○			○		○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
27	型式不明	口縁部	N 5	IV	○			○		○	内面： 外面：	黄茶褐色 暗黄茶褐色	内面： 外面：	貝条痕 ナデ	
28	型式不明	口縁部	P 5	VI	○			○		○	内面： 外面：	暗茶褐色 暗茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
29	型式不明	口縁部	H 2	IV	○	○		○		○	内面： 外面：	茶褐色 茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
30	型式不明	胴部	O 4	VI	○					○	内面： 外面：	灰茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
31	轟式土器	胴部	O 4	IV	○			○		○	内面： 外面：	茶褐色 黒茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
32	曽畑式土器	口縁部付近	H 2	IV	○					○	内面： 外面：	黄茶褐色 黄茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
33	曽畑式土器	口縁部付近	H 2	IV	○				○	○	内面： 外面：	赤茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
34	曽畑式土器	口縁部	H 2	IV	○					○	内面： 外面：	暗茶褐色 暗茶褐色	内面： 外面：	ナデ ナデ	
35	型式不明	底部	H 2	IV	○			○		○	内面： 外面：	暗黄茶褐色 赤茶褐色	内面： 外面：	貝条痕 貝条痕	

出土遺物としては，前平式土器が多く出土している。口縁部の施文パターンによって２つに分類が可能であるが，詳細な前後関係等は摑めなかった。この他に，27について付言しておきたい。この土器は，アカホヤより上層から出土している。このタイプはこれまで早期終末の土器として，アカホヤ火山灰層下位からの出土例が多く，しばしば轟式土器との関係で注目されてきたものに類似している。今回の調査ではアカホヤ火山灰層より上で出土しているが，地層横転はじめ様々な自然現象等を考慮しつつ，積極的にはアカホヤ火山灰層より上とは言い難いと思われる。今後の類例の増加を待ちたい。

第Ⅲ章　屋部当遺跡の調査

第１節　調査の概要

本調査は遺跡範囲内における道路敷設予定地の長さ約155ｍ幅約７ｍの範囲の長さの全面調査を実施した。調査の都合上，調査区内の北端部約74ｍを「北区」，南端部約81ｍを「南区」と呼称した。北区・南区ともアカホヤ上面までの古墳時代の遺物包含層及びアカホヤ下層の縄文時代早期の遺物包含層，サツマ層下の旧石器時代の遺物包含層の調査を行った。

Ⅰ・Ⅱ層を重機により除去した後，Ⅲ層以下を人力による掘り下げ作業を実施した。事業区内の残存状況は表層に近い層が一部構造改善事業により削平をうけている以外残存状況は良好であった。

この調査区は，南区の南西端部から北区の南西端部にかけて畑地改良により幅８ｍ深さ２ｍほど削平されており，その削平された調査区はⅨ層までがない状況であった。また，北区の南西端部は農業用簡易溜池が深さ６ｍ幅15ｍの範囲で削平を受けていた。

調査は南区の南西から北西にかけて削平を受けている部分に３ｍ×38ｍの南北に伸びる方向に先行トレンチを設定し旧石器時代と調査を行った。Ｘ層～ＸⅢ層を人力により掘り下げを行ったが石数点があるだけで他はは全く見当たらなかった。

続いて北区北側の山林の調査を行った。遺物は，古墳時代の遺物包含層と思われるⅢ層から，調査区の東側に遺構はⅥ－Ｂ層での検出を行ったが，わずかに柱穴と土坑状遺構を確認するのみであった。その後Ⅵ－Ｂ層を重機で除去した後，Ⅶ層を人力で掘り下げをしたが遺物は見当たらなかった。遺構はⅧ層上面での検出を行ったが，全く見当たらなかった。続いてⅧ層を重機で除去した後，Ⅸ層～ＸⅡ層の人力での掘り下げを行ったが遺物は見当たらなかった。遺構はＸⅢ層上面での検出を行ったが確認できなかった。

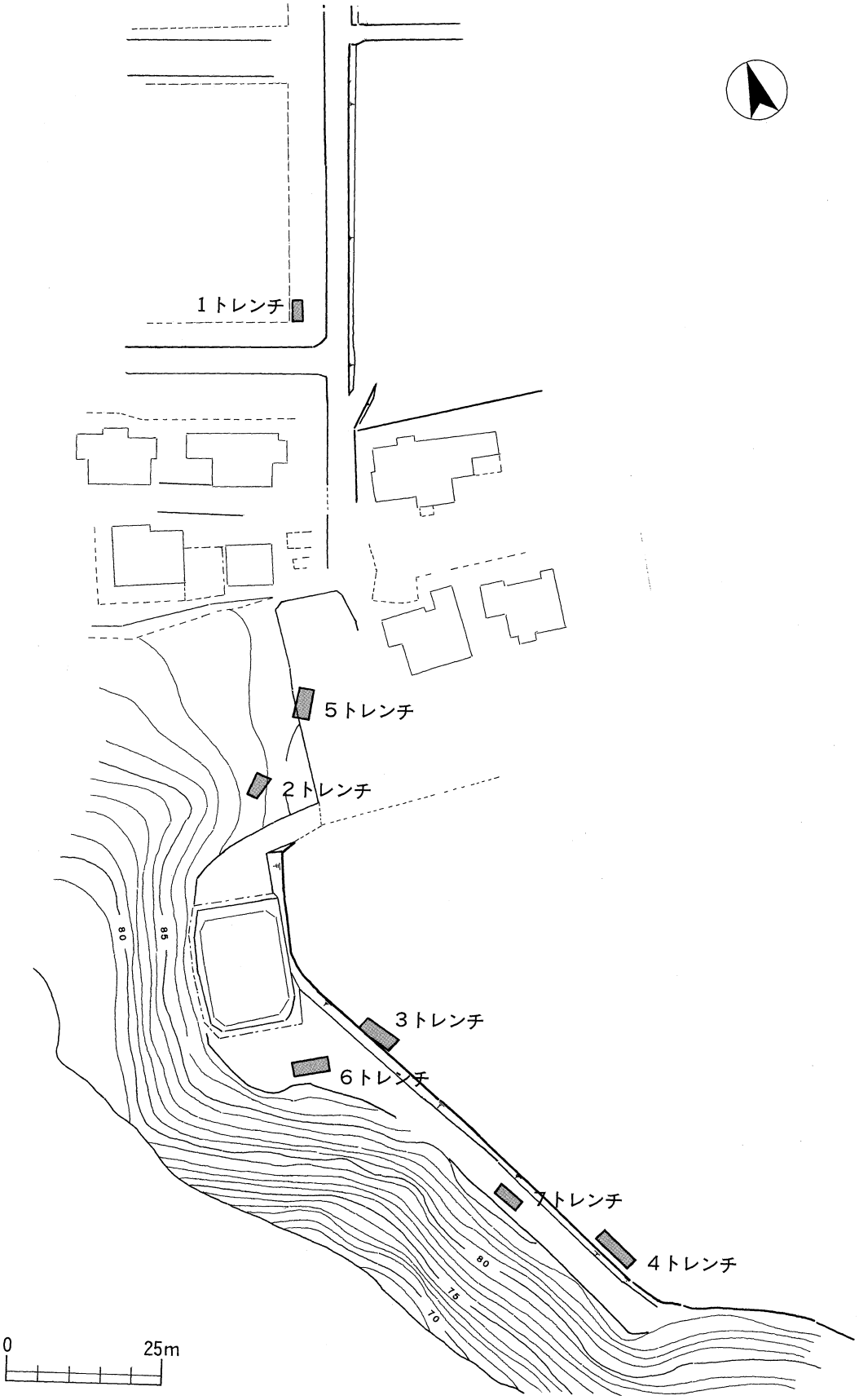
続いて北区南側のⅢ層の掘り下げを行った。遺物は古墳時代の遺物包含層と思われるⅢ層から，調査区の南東側から南側にかけて多く出土した。遺構はⅥ－Ｂ層での検出を行ったが，調査区の南端部と西側に土器溜りが２基，竪穴式住居１基検出された。

北区南側のⅢ層の掘り下げと同時に南区の調査も行った。遺物は古墳時代の遺物包含層と思われるⅢ層から調査区全体に多く出土した。遺構はⅣ層上面での検出を行い，柱穴が確認できた。そして，Ⅳ層及びⅤ－Ａ層の人力により掘り下げを行ったが遺物も新たな遺構も確認できなかった。Ⅴ－Ｂ層を重機で除去した後，Ⅶ層の掘り下げを行った。遺物は土器片，石器及び破砕した焼石が調査区の北東側に出土した。遺構は，Ⅷ層上面での検出を行い，集石１基が確認できた。

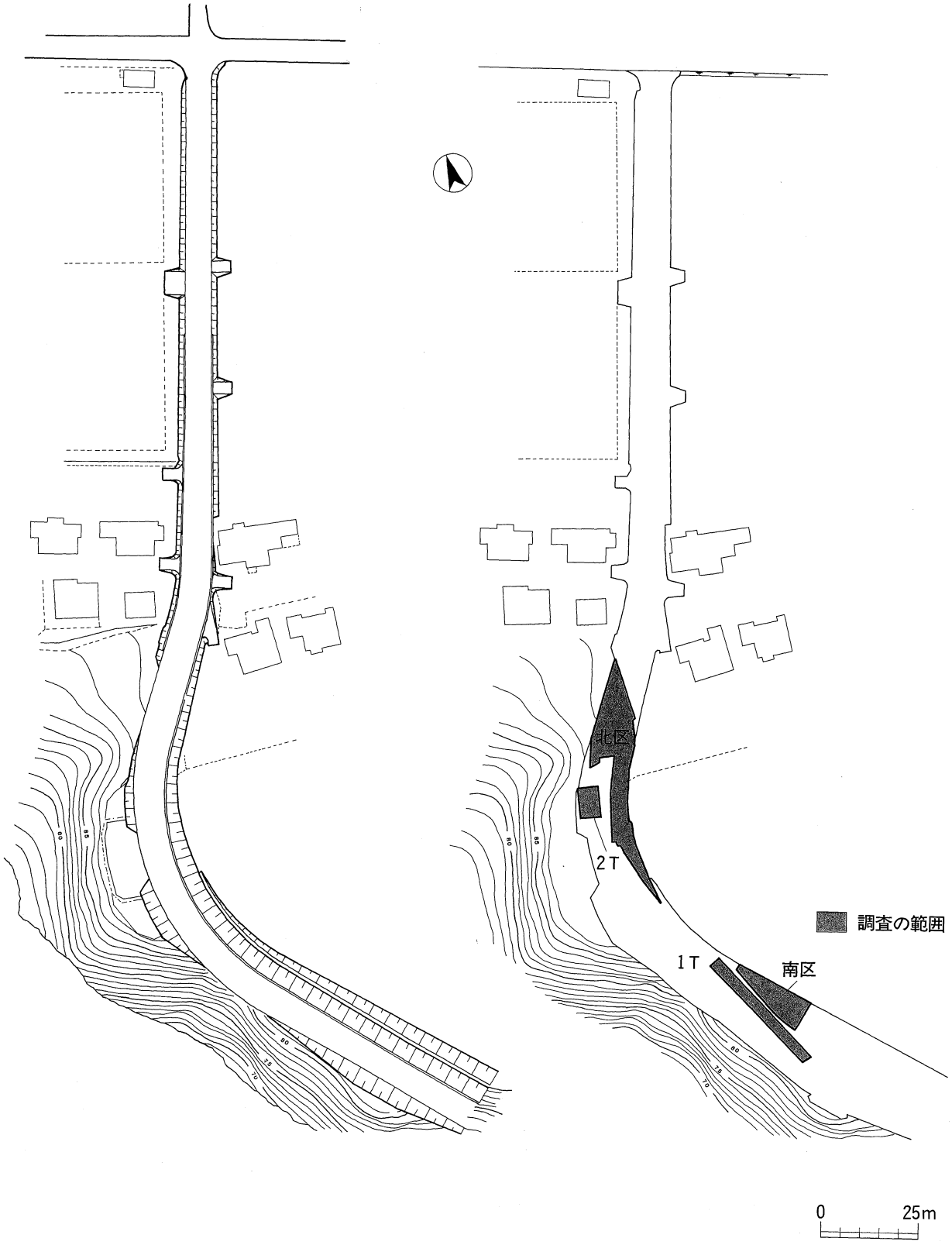
第2節　層序

標準土層は下記のとおりである。

層　位	土　　色	特　　徴
Ⅰａ層	黒褐色土層 2.5Y3/1	現耕作土で土粒は粗く硬く締まっている。
Ⅰｂ層	オリーブ黒色土層 5Y3/1	旧耕作土で層中に白色パミス（直径５～10㎜）を含む。土粒はサラサラとしてキメが細かく硬く締まっている。
Ⅰｃ層	黒色土 5Y2/1	旧耕作土で，層中に白色パミス（直径２～10㎜）を含む。土粒は細かく硬く締まった層である。
Ⅰｄ層	黒色土 10Y2/1	旧耕作土で，層中に白色パミス（直径５㎜）をわずかに含む。土層に光沢が見られ土粒が細かく硬く締まった層である。
Ⅱ　層	オリーブ黒色土層 7.5Y3/2	土粒は細かくサラサラとしている。下層の影響を受けてか若干の層の濁りが見られる。
Ⅲ　層	赤黒色土層 5Y5/3	土粒は細かくサラサラとして締まった感じである。古墳時代の遺物包含層である。
Ⅳ　層	黒色土層 7.5YR1.7/1	層中に橙色パミス(直径１～２㎜)を含む。土粒は細かく硬く締まっている。
Ⅴ　層	黒色土層 10YR1.7/1	層中に白黄色パミス（直径１㎜）を含む。土粒は細かく硬く締まっている。
Ⅵａ層	褐色土層 10YR4/6	アカホヤの２次堆積か？土粒は細かくサラサラして，上層との濁りが見られる。
Ⅵｂ層	黄褐色火山灰層 10YR7/4	層中にパミスはほとんど見当たらない。硬く締まった層である。 約6300年前とされる鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰である。
Ⅵｃ層	明黄褐火山灰層 10YR6/8	層中に橙色パミス（直径５㎜）を含む。橙色パミスが層全体に浮遊する。
Ⅶ　層	黄橙土層 10YR6/3	層中に橙色パミス（直径３㎜）を含む。土粒は微細でキメが細かく弾力のある層である。縄文時代早期の遺物包含層である。
Ⅷ　層	灰黄褐色火山灰層 10YR4/2	層中にⅦ層よりは少ないが橙色パミス(直径３㎜)を含む硬く締まった層である。約11,500年前とされる桜島起源のサツマ火山灰である。
Ⅸ　層	灰褐色土層 7.5YR4/2	層中に橙色パミス（直径５～10㎜）を含み，浮遊するように一部黒褐色の混ざりが見られる。土粒は細かく硬く締まっている。
Ⅹ　層	黄色土層 2.5Y8/6	層中に白橙色軽石（直径３㎜～10㎜程度）が層全体に見られる。土粒はⅨ層に比べて若干大きい。
ⅩⅠ層	浅黄橙色土層 10YR8/4	層中に白橙色軽石（直径３㎜）を含む。土粒はⅩ層よりも小さく湿り気があり締まっている。
ⅩⅡ層	浅黄橙色土層 7.5YR8/4	層中に白橙色軽石（直径３㎜）を含む。土粒はⅩⅠ層と同じであるが，ⅩⅠ層に比べて層が乾いてサラサラしている。
ⅩⅢ層	浅黄橙色土層 7.5YR8/3	層中に白橙色軽石（直径３㎜）を含むシラス層である。層全体が乾いてサラサラしている。

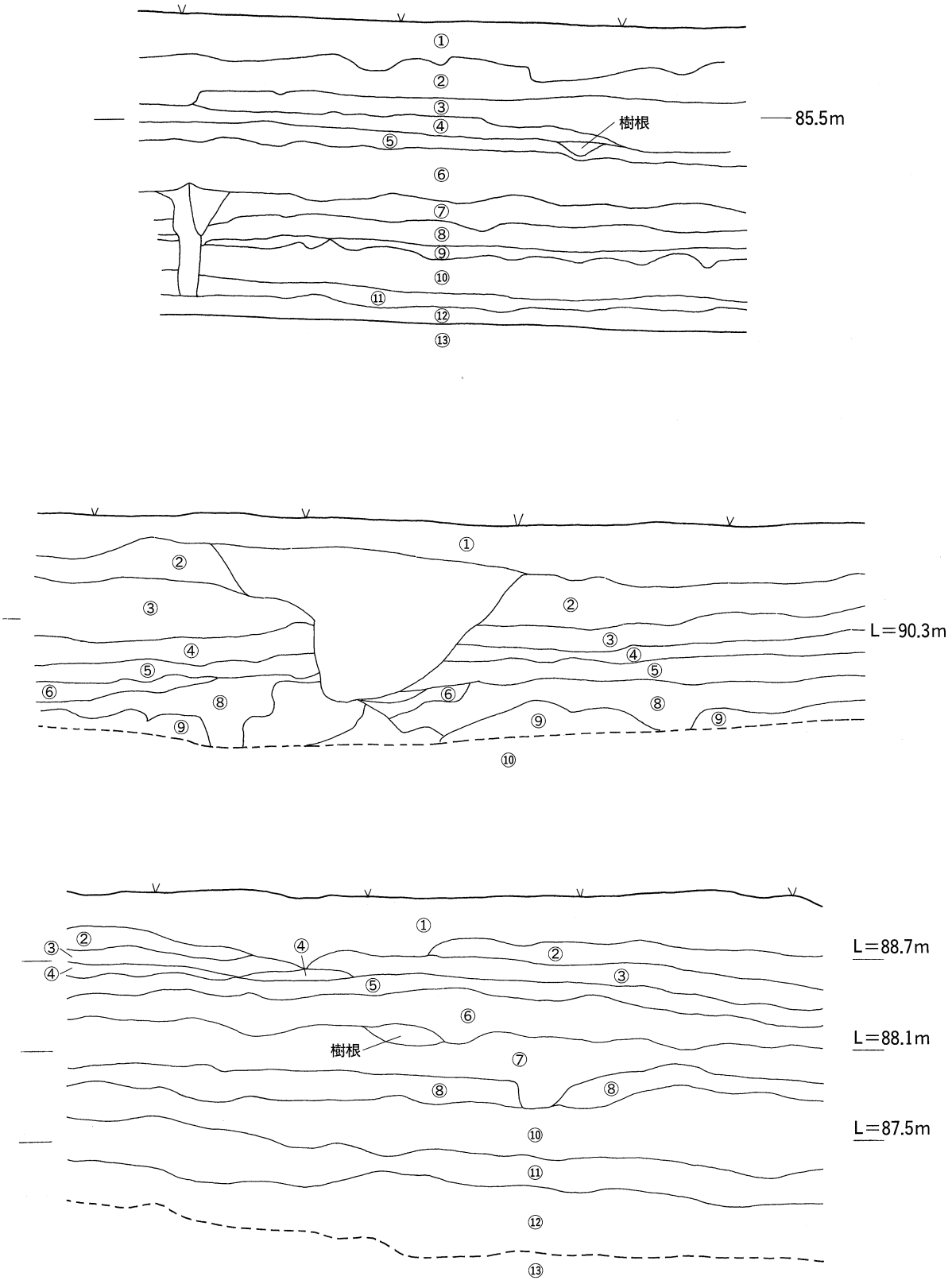


第7図　屋部当遺跡確認調査トレンチ配置図



第８図　屋部当遺跡付近工事図面及び調査の範囲

第９図　屋部当遺跡周辺地形図



第10図　屋部当遺跡土層断面図（上：南区南側　中：北区北端部東側　下：北区南端部東側）

第３節　調査の成果

（１）　遺構

①Ⅷ層上面検出の遺構

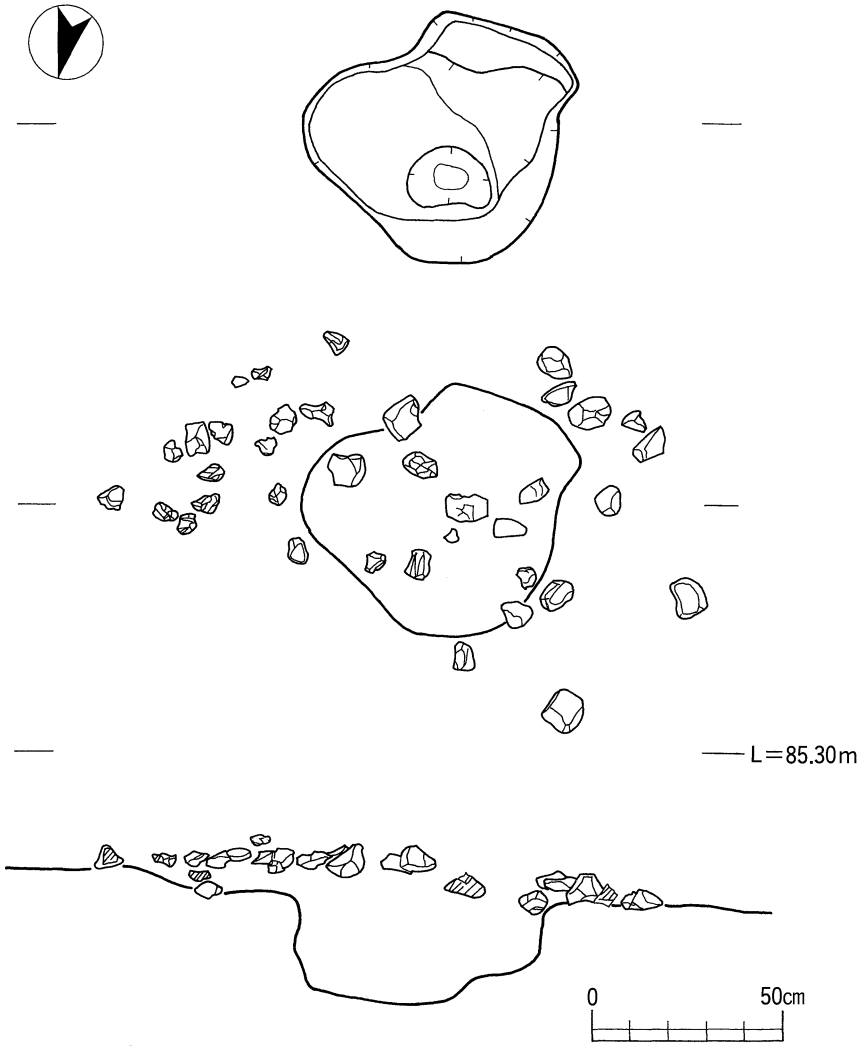
北区では，Ⅷ層上面でピットを２基検出（第12図）した。竪穴住居跡や平地式住居跡等を想定して周辺を精査したが，これらにつながる遺構は確認できなかった。

南区では，Ⅷ層上面で焼礫の散布（第13図）が認められた。これらは地形に沿って散布しており，最も集中する部分には土坑状の掘り込みを下面に有する集石（第11図）が確認された。集石に伴うものと判断した掘り込みは，南区の北東部分に検出され，これを中心に1.5ｍの範囲に礫が集中している。

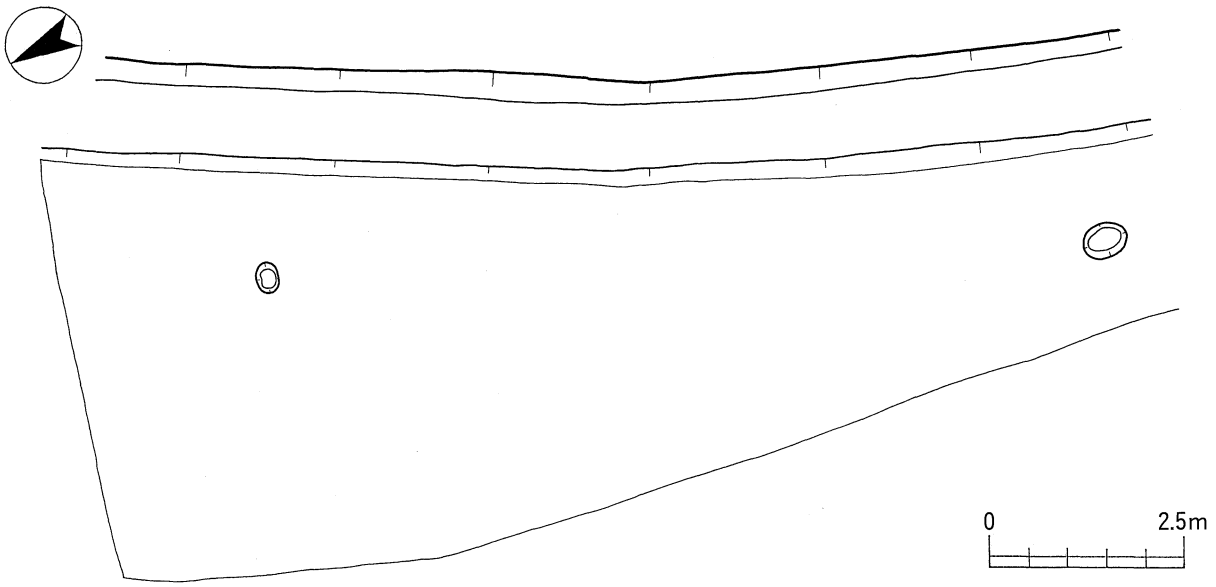
②Ⅲ層～Ⅵａ層検出の遺構

１．１号土器溜り（第16図）

北区南端部にⅡ層下面で検出された。調査対象区域外に広がりが認められるため，全体の様相は



第11図　集石実測図

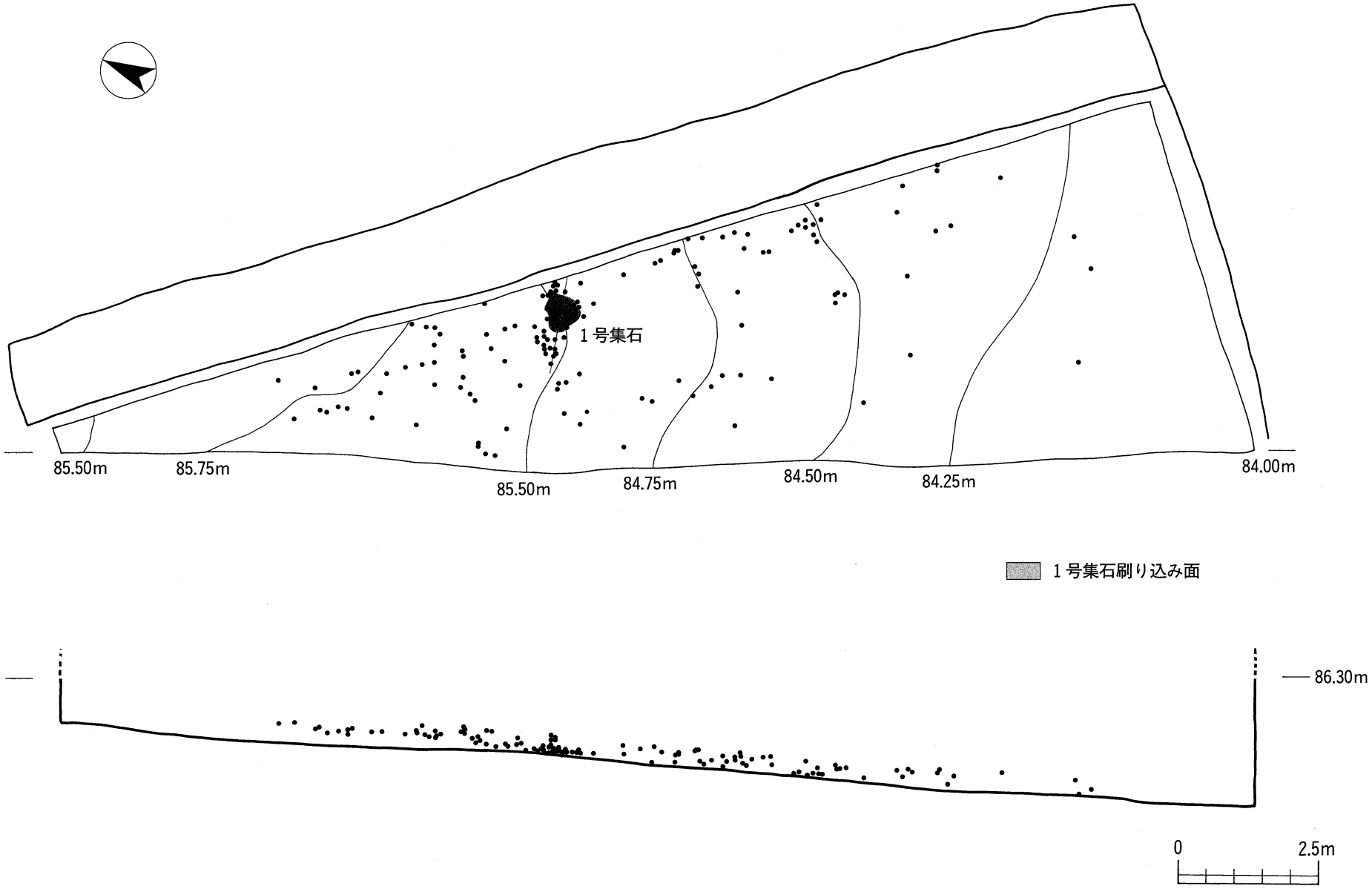


第12図　北区Ⅷ層上面検出遺構図

掴めていない。３ｍに渡って成川式土器が重なって出土しており，その重なりの一部が４層ほどに重なっていた。全ての遺物を取り上げた後，１号土器溜りに伴う遺構の検出を試みたが確認できなかった。遺物を接合したところ，出土遺物量が多数であるにかかわらず，完形に近いものはほとんど見当たらず，また，比較的硬質で残存しやすい甕・壺の底部が多く出土している。調査対象区域外に広がりがあることから未出土の遺物との接合の可能性も考察せねばならないが，破壊等の理由による使用不可能となった遺物を廃棄した遺構ではないかと推察される。

１号土器溜りより出土した遺物は成川式土器と思われ，器種も甕，壺，高坏，鉢，坩に分類されるものが出土した。

１～37は甕である。１・２は，口縁部が外反し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。３～５も口縁部を欠くが，１・２と同様に口縁部が外反するタイプに属すると思われる。３・４は，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。５は，貼り付けられた一条の三角突帯をめぐらす。６～８は，口縁部が直行するもので，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は右下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。９は，口縁部がわずかに内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は口縁に対してほぼ垂直で，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。これは，突帯に押圧する際，指などに布状のものを巻きつけるなどの行為を行っていたと考えられる。10は，口縁部がほぼ直線的に立ち上がり，その下位に貼り付けられた一条の突帯の形は画一的ではないが三角突帯をめぐらす。11は，口縁部がわずかに内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。12は，口縁部がほぼ直線的に立ち上がり，その下位に貼り付けられた一条の台形突帯をめぐらす。13は，口縁部がわずかに内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目



第13図　南区Ⅷ層上面焼石出土状況及びコンタ図

は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。14は，口縁部がわずかに内湾するが外傾する。15は，口縁部がわずかに内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりで，突帯は口縁に並行せず，突帯の完結面と思われるところが左に下り，すれ違うように終わるものと思える。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。16は，貼り付けられた一条の突帯の形は画一的ではないが台形突帯をめぐらし，胴部はわずかに内湾する。17は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。胴部はわずかに内湾する。18は，貼り付けられた一条の三角突帯をめぐらし，胴部は直行する。19は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。胴部は「く」字状に曲がる。20・21は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。胴部は直線的にわずかに外傾する。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。22・23は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。胴部は直線的にわずかに外傾する。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。24は，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は浅く，左下がりで，胴部はわずかに内湾する。25は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，口縁に対してほぼ垂直である。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。胴部は直線的に立ち上がる。26は，貼り付けられた一条の突帯の形は画一的ではないが台形突帯をめぐらし，胴部はわずかに内湾する。27は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。胴部は直線的に立ち上がる。28～30は，各個体差はあるが，胴部は外傾する。31・32は，胴部はほぼ直線的に立ち上がる。33～36は，底部片である。33は，底部が平底を若干上底に呈している。34は，底部が短い脚を作出している。35・36は，底部が平底で強く張り出す。37は，小型のもので突帯を持たず，口縁部から頸部までほぼ直線的に外傾する。

38～55は壺である。38～40は，頸部が貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。41～42は，胴部が外傾する。43・44は，底部が丸底に近い。46～55は，底部が平底である。甕の底部の可能性も考えられる。

56～67は高坏である。56は，口縁部は外反し，坏部は深いように思われる。57～61は，口縁部はわずかに外反し，坏部は浅いように思われる。62・63は，口縁部はほぼ直線的に立ち上がる。64は，坏部は皿状に平たい。65は，坏部は曲線的に立ち上がる。66は，坏部は皿状に平たく，脚部はわずかに内湾する。67は，坏部は曲線的に立ち上がり，脚部はわずかに外反するように思われる。

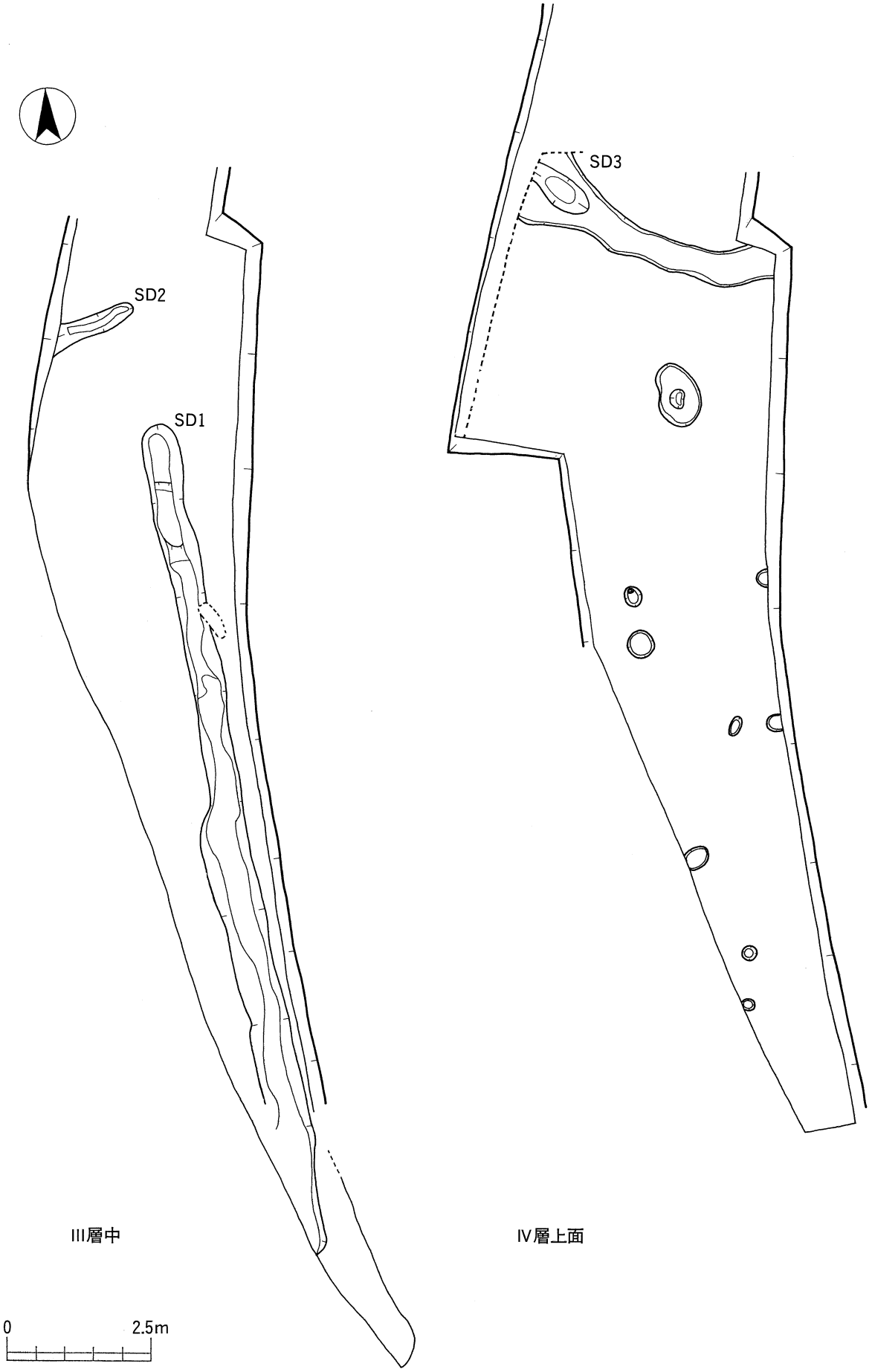
68・69は鉢である。68は，口縁部がわずかに内湾するが，ほぼ直線的に立ち上がる。69は，鉢形を呈するものと思われ，底部は平底である。

70は坩である。底部は緩やかに曲がる丸底である。

2．2号土器溜まり（竪穴住居跡埋土中の土器廃棄）（第22図）

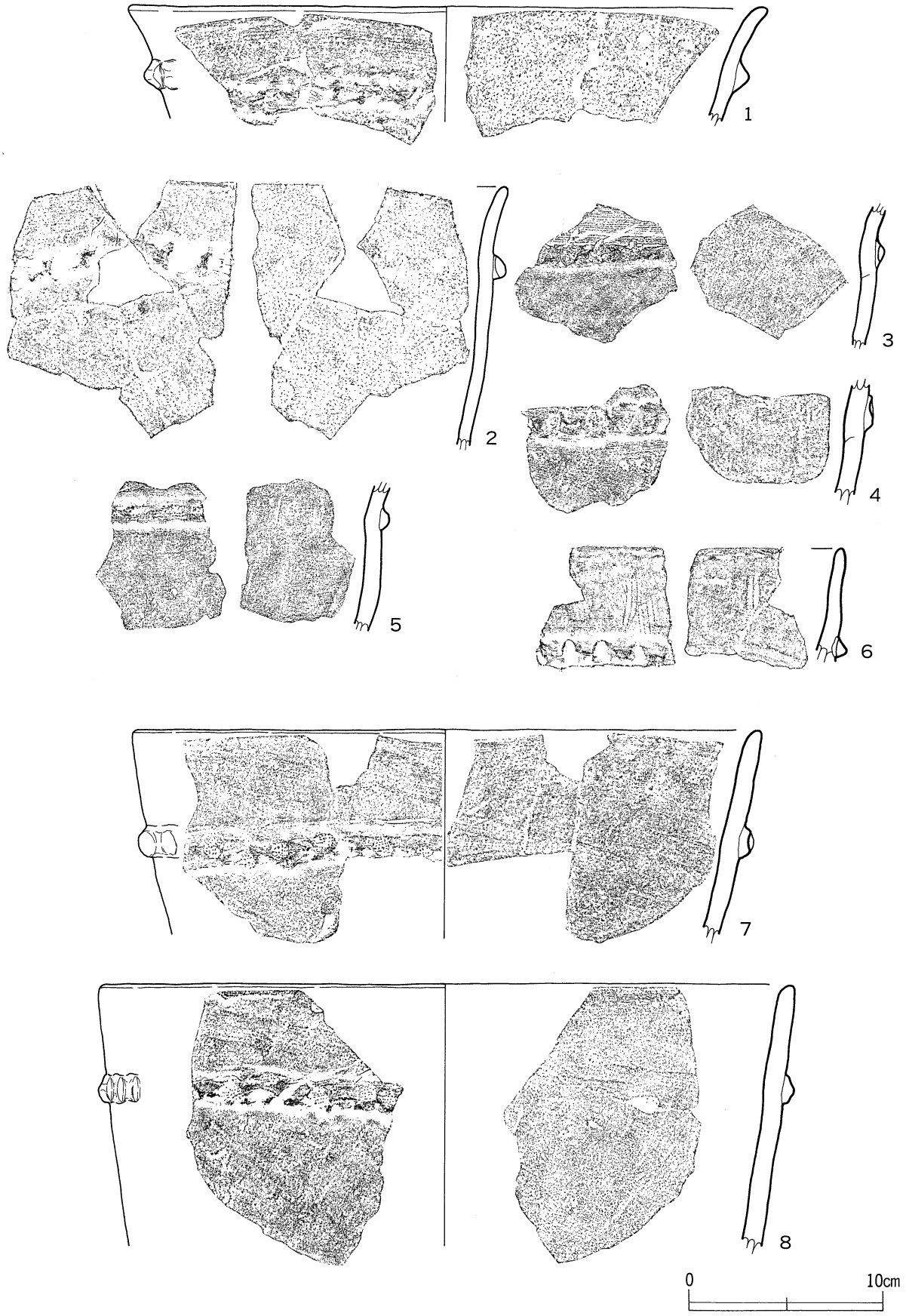
北区中央部付近の簡易溜池横で検出された。2号土器溜りは，遺物の出土状況と広がりからみて，遺構の西側は隣地にある簡易溜池を造る段階で破壊されているように思われ，1号土器溜りと比べ

第14図　屋部当遺跡VIa層上面検出遺構全体図

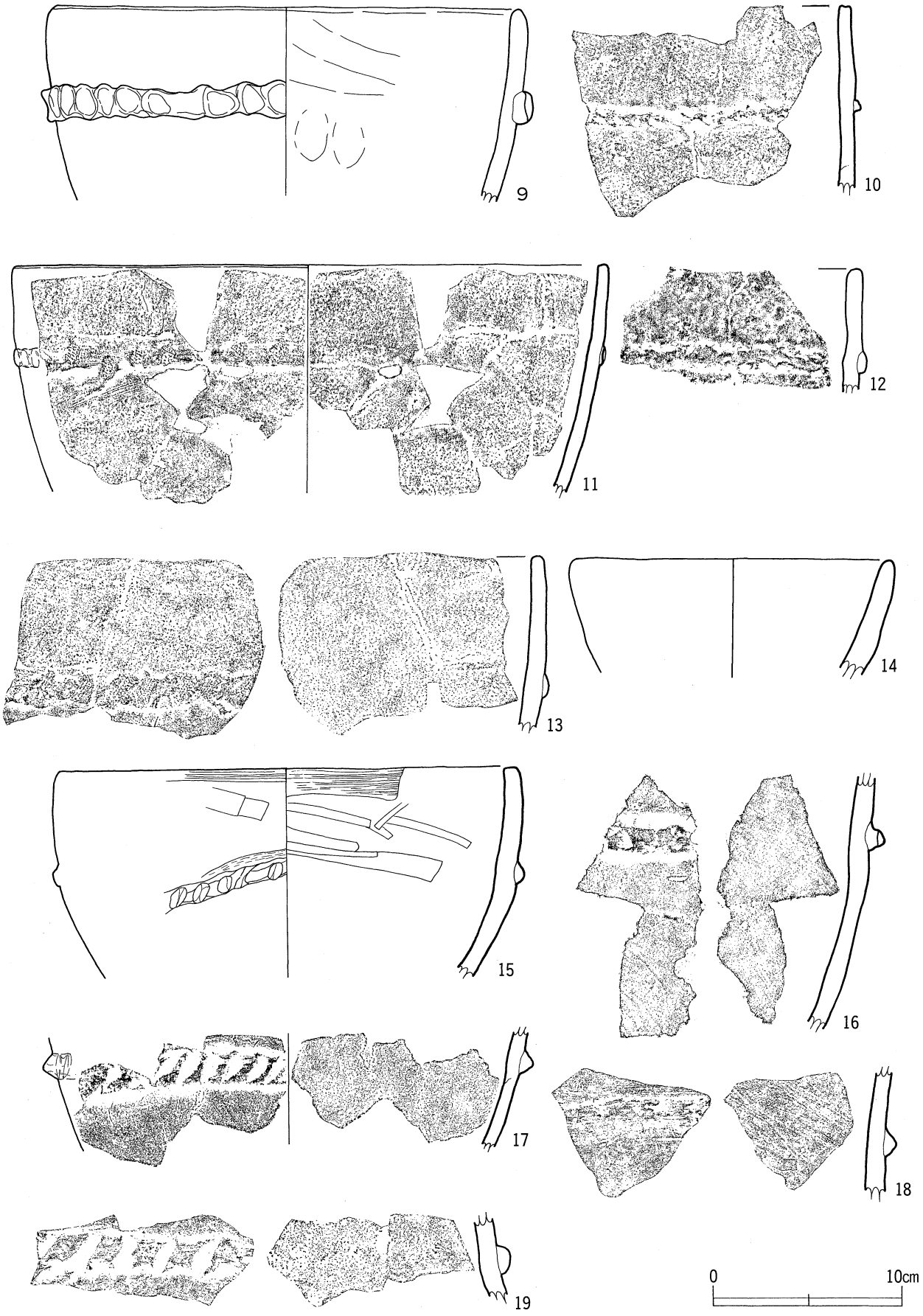


第15図　北区III層中及びIV層上面検出遺構配置図

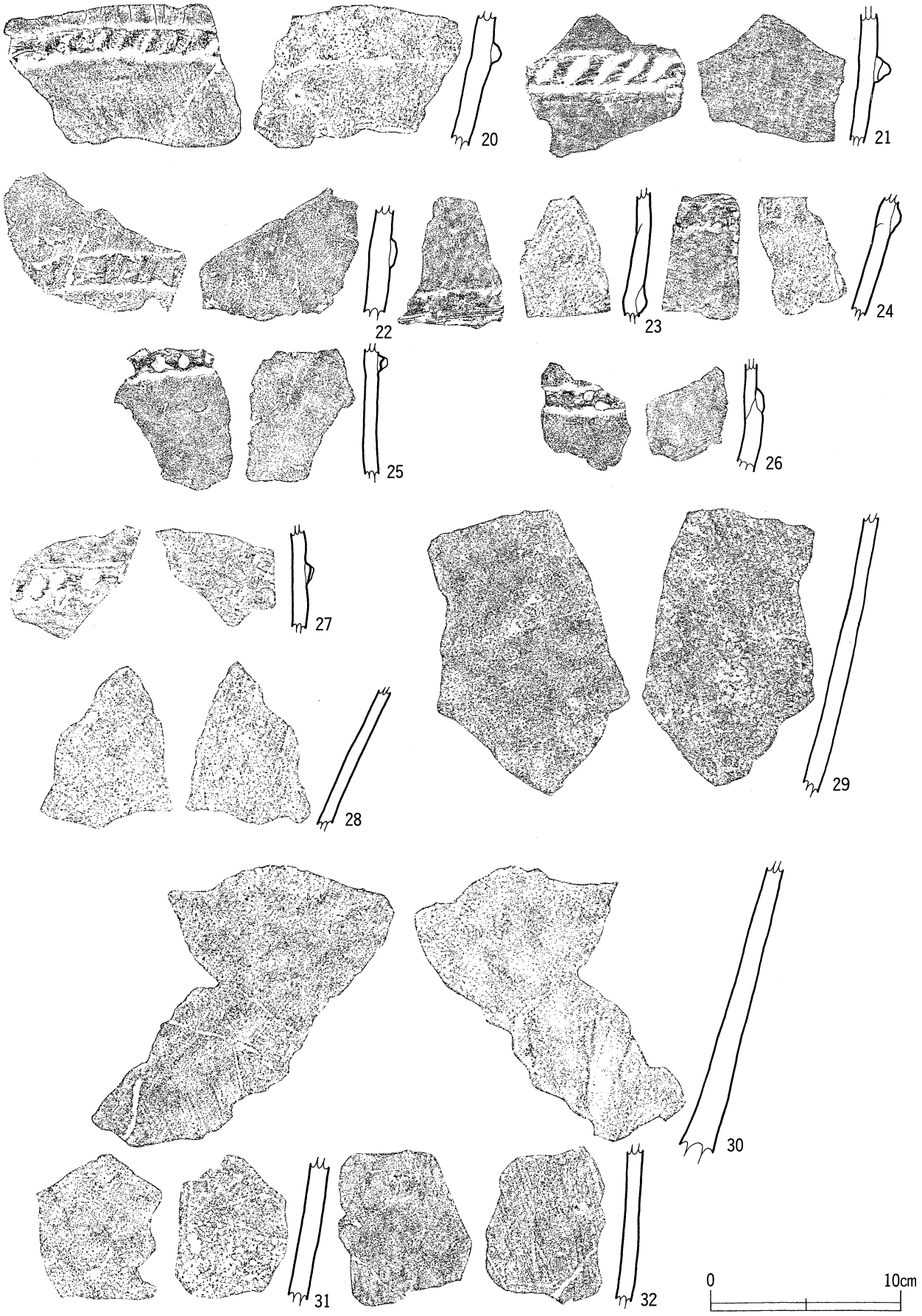
第16図　1号土器溜り実測図



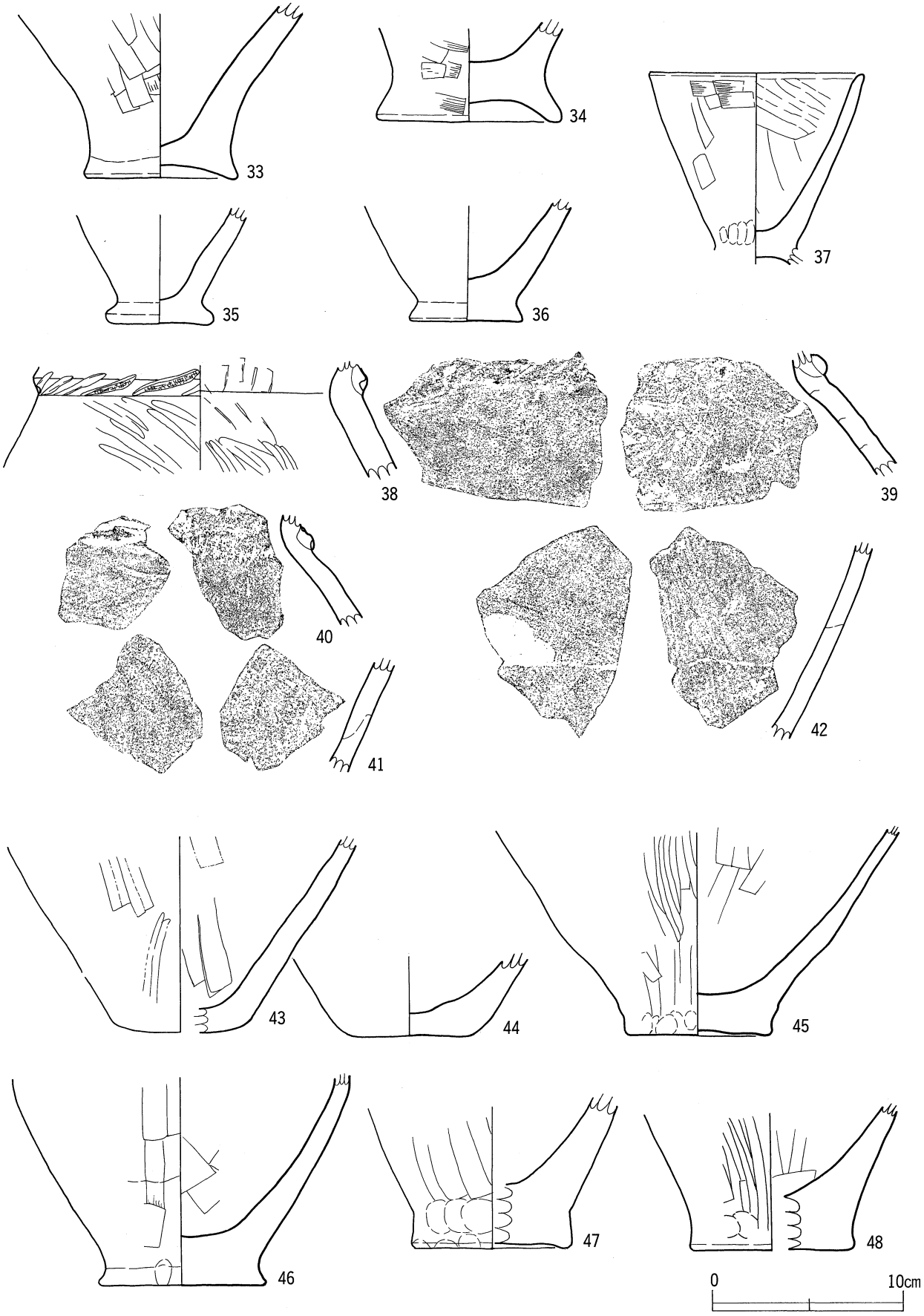
第17図　１号土器溜り出土遺物実測図(1)



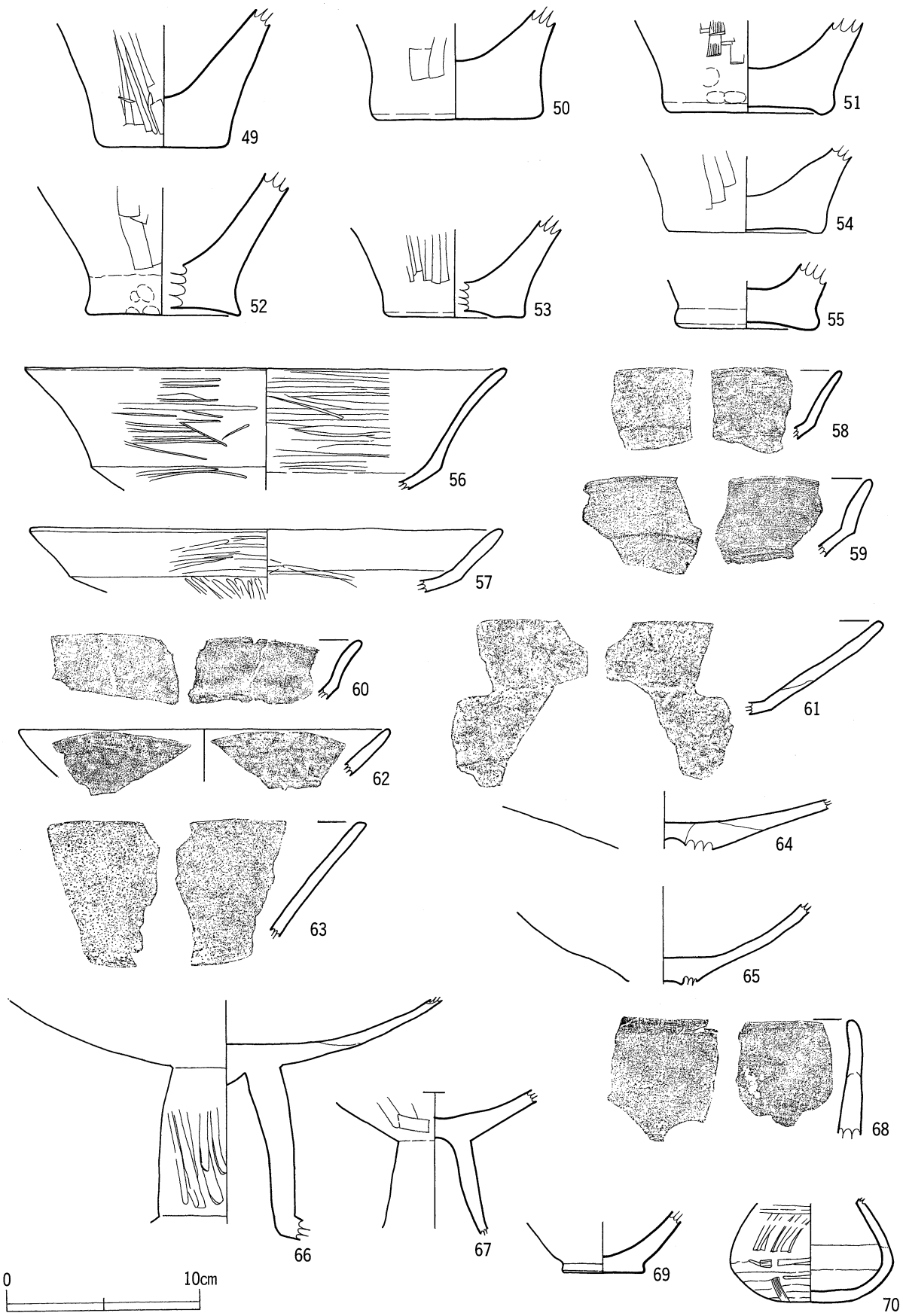
第18図　1号土器溜り出土遺物実測図(2)



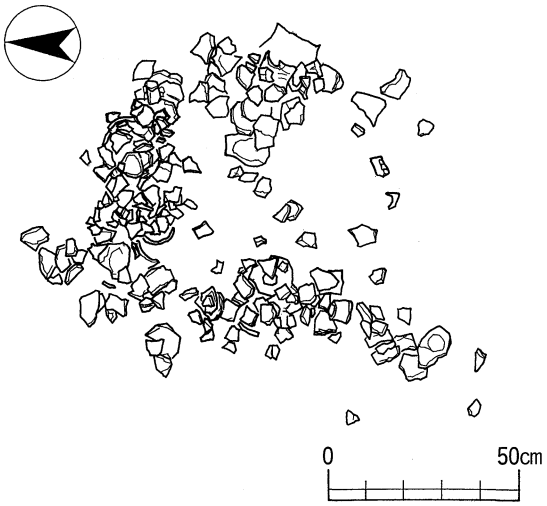
第19図　1号土器溜り出土遺物実測図(3)



第20図　1号土器溜り出土遺物実測図(4)



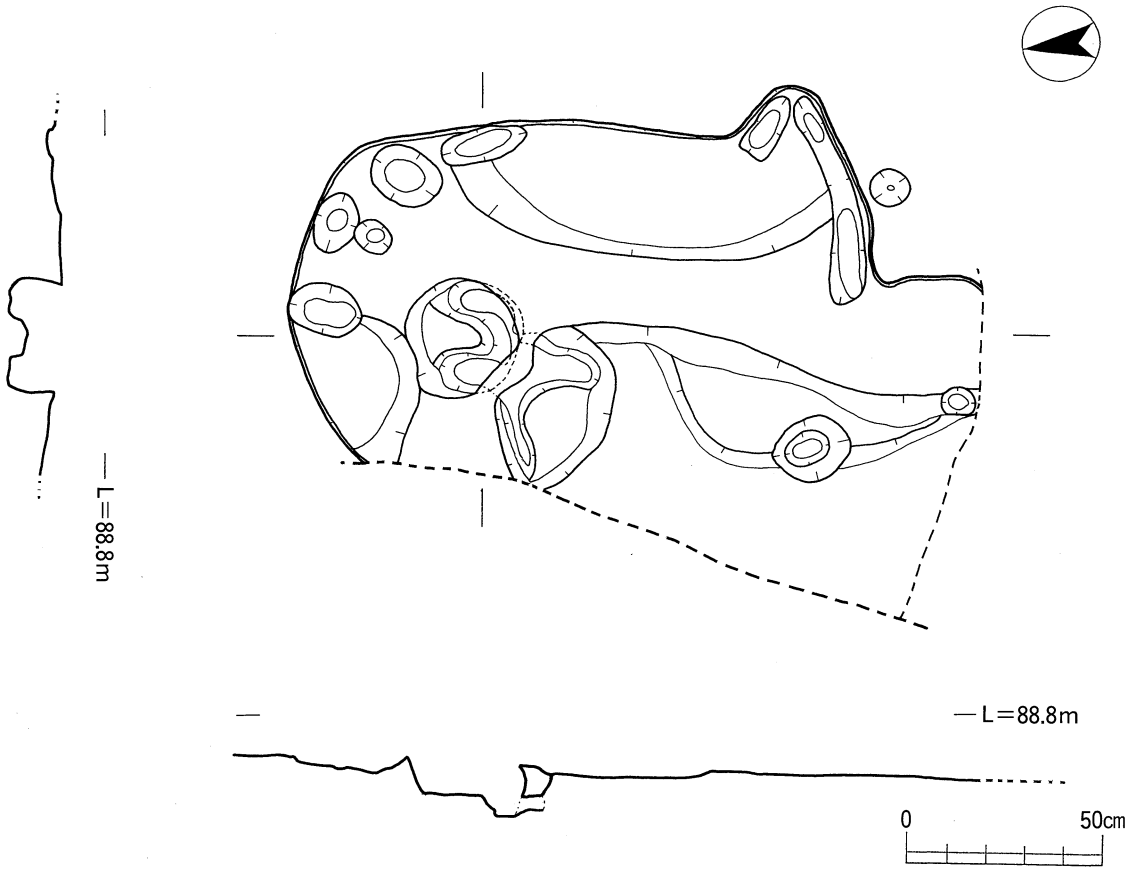
第21図　1号土器溜り出土遺物実測図(5)



第22図　２号土器溜り遺物出土状況図

第23図　２号土器溜り及び竪穴住居跡との関係図

て1.3mの範囲に比較的小破片を中心にしたものが多く出土した。この段階では２号土器溜りに伴う遺構は確認できなかったが，下面に竪穴住居跡が検出（図版６：下）されている。遺物の出土レベルや遺物の状態などから，これらは竪穴住居跡の埋土中に堆積していったものであると判断した。よって，竪穴住居跡埋土中の土器として報告していく。

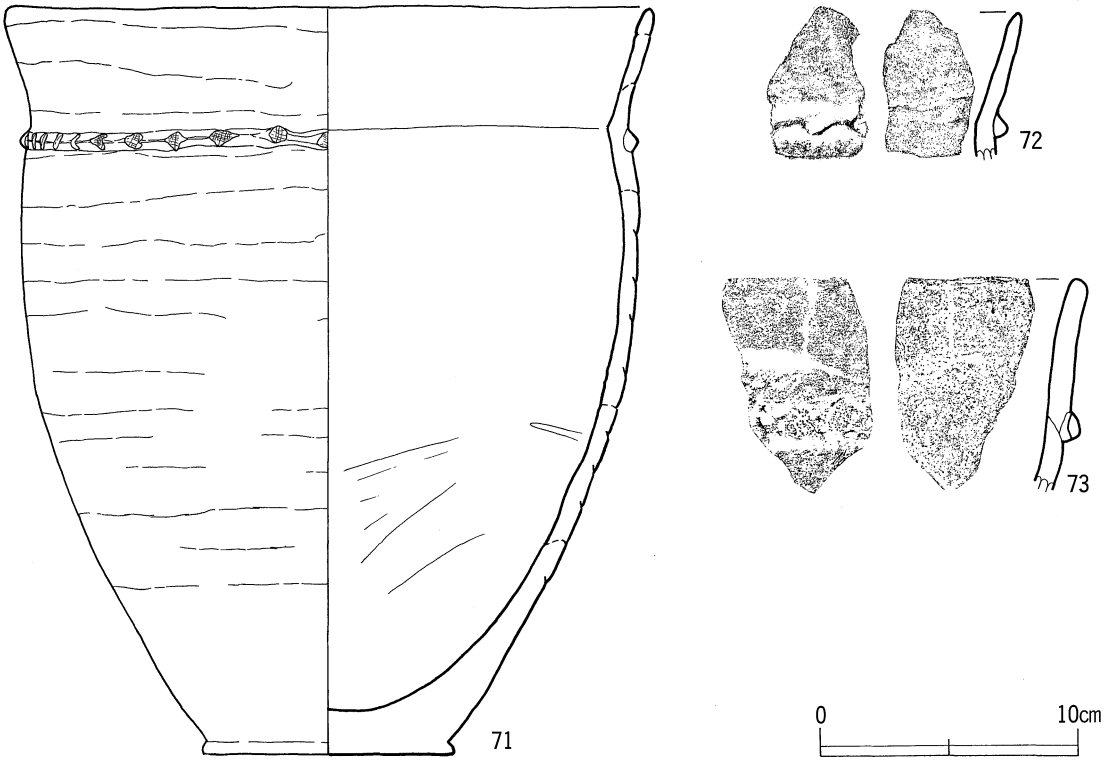


第24図　竪穴住居跡実測図

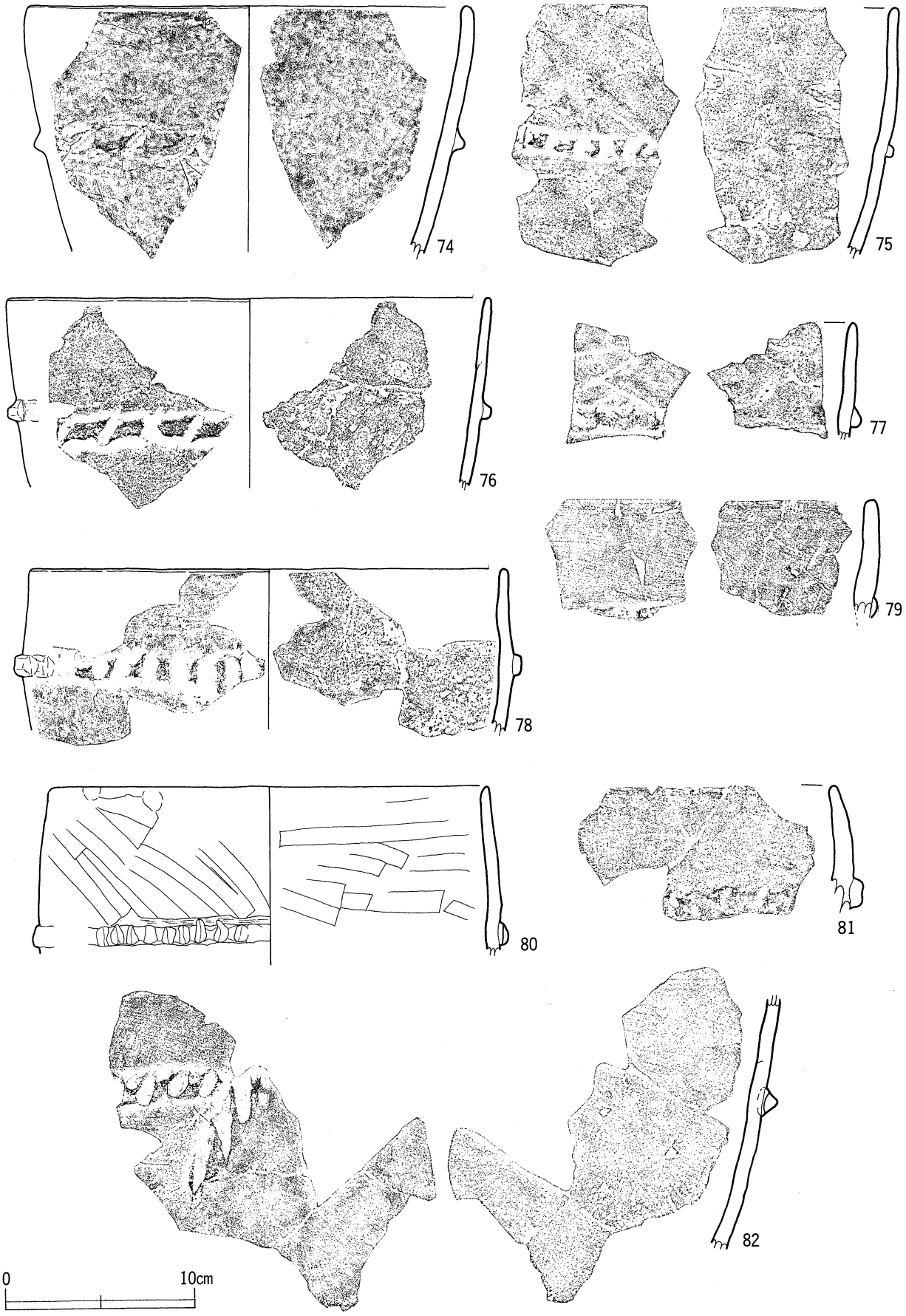
2号土器溜りより出土した遺物は成川式土器と思われ，器種も甕，壺，高坏，鉢，坩に分類されるものが出土した。

71～90は甕である。71は，ほぼ完形である。口縁部がほぼ直行し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。胴部は内湾し，底部は平底で強く張り出す。72は，口縁部がほぼ直行し，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。73は，口縁部がわずかに外反し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。74は，口縁部がわずかに内湾し，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。75は，口縁部がわずかに内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。76は，口縁部が直行し，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。77は，口縁部がわずかに内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりである。78は，口縁部がわずかに内湾するが，ほぼ直線的に立ち上がり，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は口縁に対してほぼ垂直で，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。突帯の一部に，突帯の完結面と思われるところも見られた。79は，

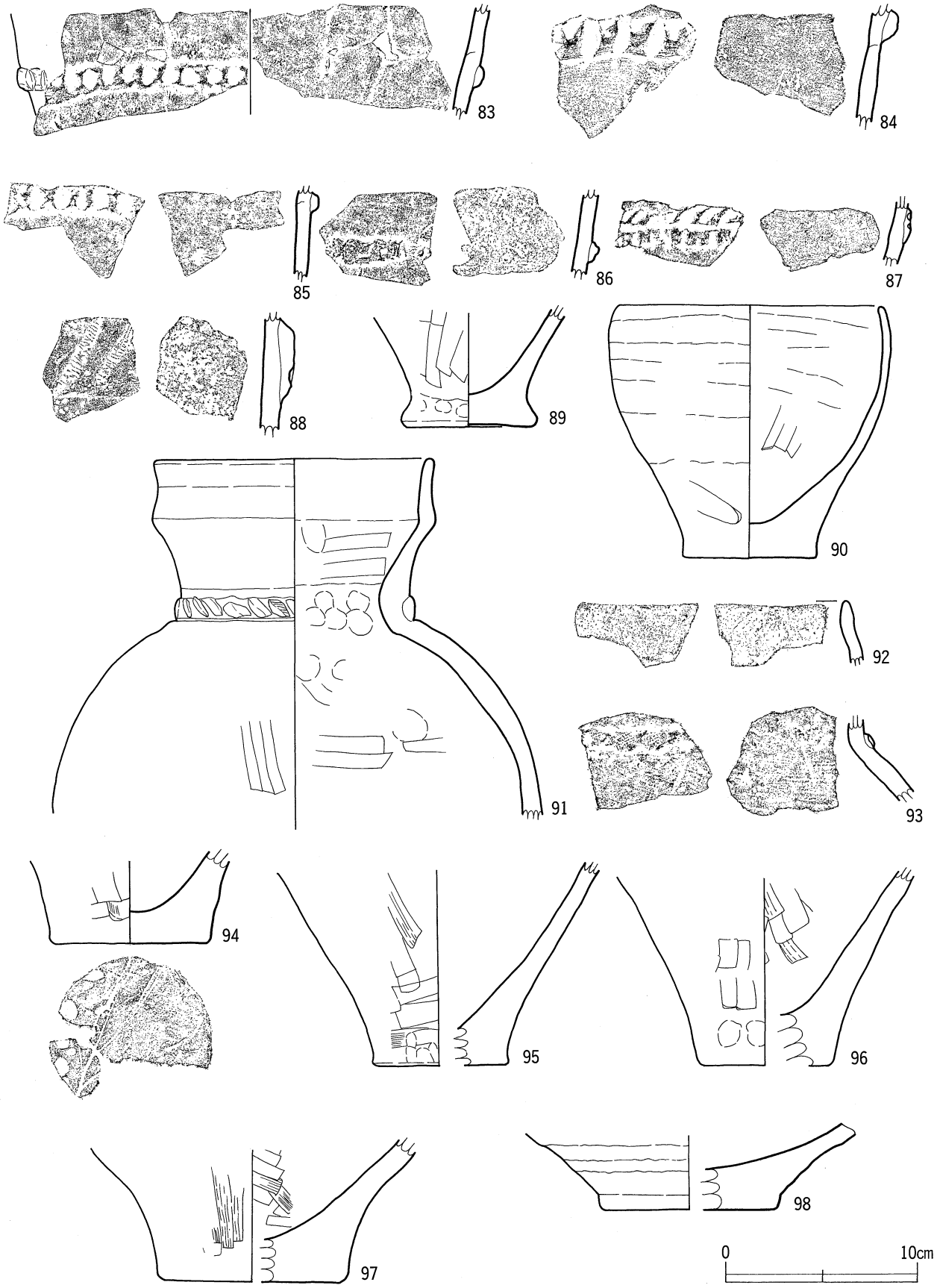
口縁部がわずかに内湾し，突帯は欠損が激しく，その形状は確認できない。80は，口縁部が内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は口縁に対してほぼ垂直で，突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。81は，口縁部が内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は傾きの統一性はなく，左下がり，右下がり，口縁に対してほぼ垂直なものも見られる。突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。82は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。また，突帯の一部に，突帯の完結面と思われるところも見られ，完結面の切り合いの関係から，突帯は製作時に右回りで付けられたことが考えられる。胴部は直線的にわずかに内湾する。83は，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は口縁に対してほぼ垂直で，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。胴部は直行する。84は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。胴部は直行する。85・86は，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は口縁に対してほぼ垂直で，突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。胴部は直行する。87は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く①工具により刻まれたものと思われる左下がりの突帯上部の刻目②口縁に対してほぼ垂直で，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われる突帯下部の刻目③突帯に並行するように，工具により刻まれたものと思われる線状の突帯頂部の刻目に分かれるのが確認できた。胴部は直行する。88は，貼り付けられた一条の太い刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われ



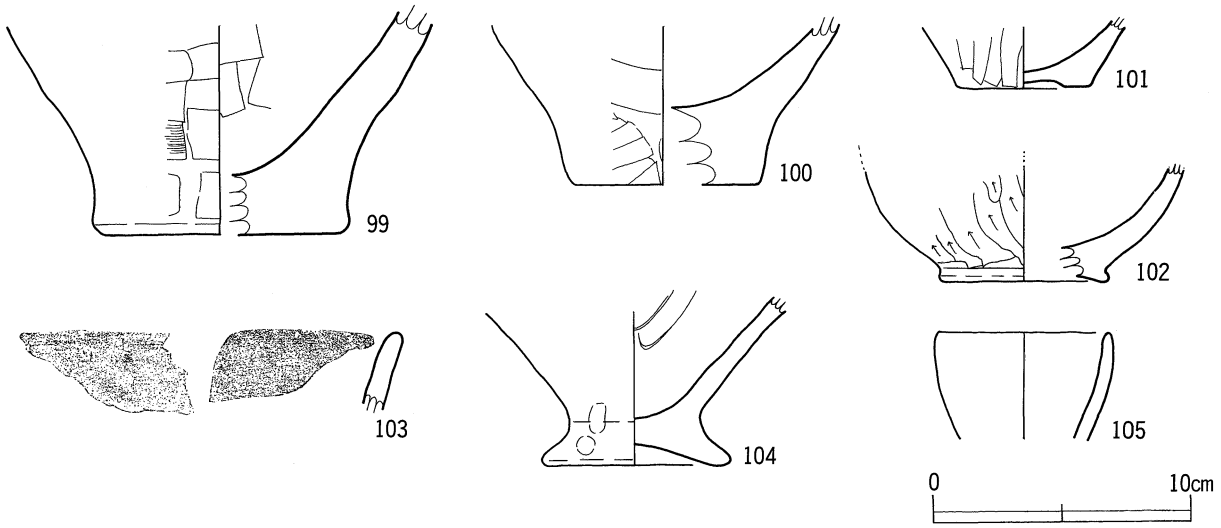
第25図　２号土器溜り出土遺物実測図(1)



第26図　２号土器溜り出土遺物実測図(2)



第27図　２号土器溜り出土遺物実測図(3)



第28図　２号土器溜り出土遺物実測図(4)

るものが確認できた。胴部は直行する。89は，底部片であり，強い張り出しをもった平底で若干上底を呈している。90は小型の甕である。口縁部から胴部にかけて内湾し，突帯をもたない。底部は平底である。

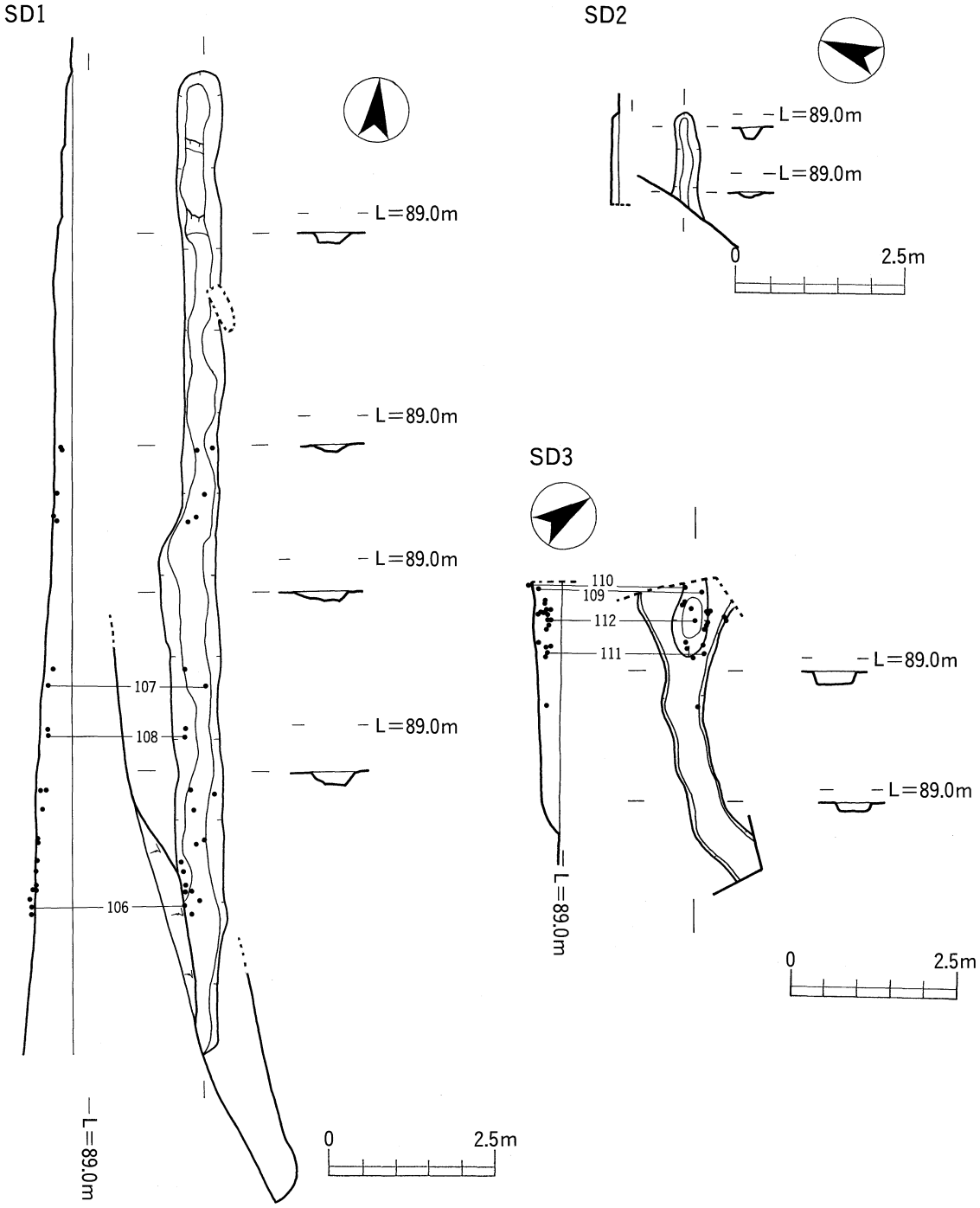
91～102は壺である。91は，口縁部が「く」の字状に曲り外反している。頸部に，貼り付けられた一条の突帯をもち，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は右下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。胴部は著しく内湾する。92は，口縁部が内傾気味に外反する。93は，頸部に貼り付けられた一条の突帯をもち，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。94～102は底部片である。94は，底部が平底であり，その底部に葉脈痕が確認できた。95～97は，胴部が直行し，底部は平底である。98は，胴部がかなり外傾気味に直行し，底部は平底である。99・100は，胴部がわずかに内湾し，底部は平底である。101は，底部が平底を上底に呈している。102は，胴部が曲線的に内湾し，底部は平底を若干上底に呈している。

103・104は鉢である。103は，口縁部が直行する。104は，胴部が直行し，底部は短い脚を作出している。

105は坩である。口縁部が内湾する。

３．竪穴住居跡（第24図）

北区中央部付近の簡易溜池横のⅥａ層上面で検出され，先に述べた２号土器溜りの下面（図版６：下）から検出されたものである。検出は床面に近いところ（図版７：下）であったことや，西側と南側が攪乱により破壊されていたため，全体プランははっきりとつかめなかった。完掘した状況で遺構北側と東側はレベル的に浅く西側は深くなることから，破壊された部分に生活床面が広がるように思われ，その床面は部分的に若干の硬化が見られた。また床着の遺物は全く見当たらず，この住居の使用時期については断定することはできなかったが，この遺構上面に検出された２号土器溜

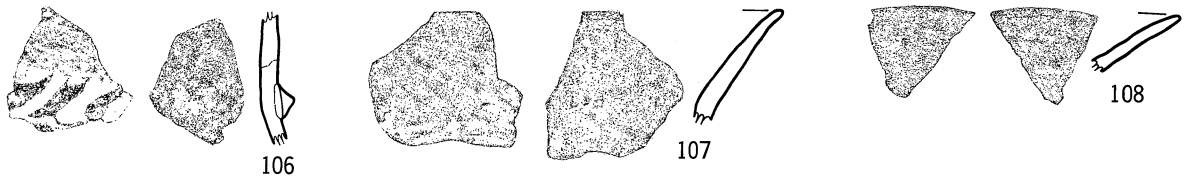


第29図　SD1～3号実測図

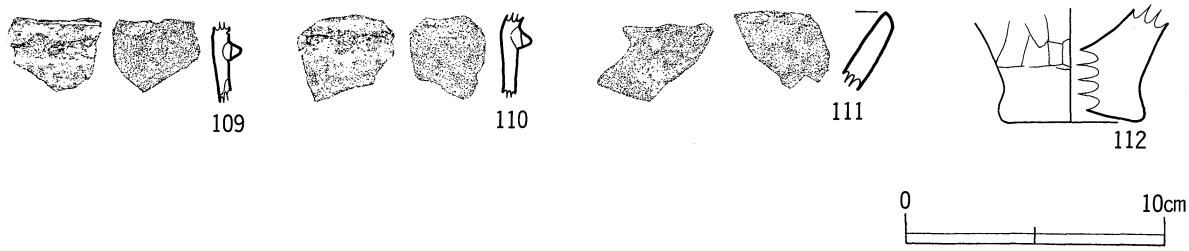
りと竪穴住居跡のレベル的な位置関係と，この遺構の周りからⅥa層上面で出土する遺物がほとんどが成川式土器であることから，この住居は古墳時代相当の竪穴住居跡であることが推測される。

また竪穴住居跡内には，完掘した際に床面に柱穴状の遺構や焼土を伴う土坑も検出されている。Ⅵa層上面で検出した際には，はっきりとその遺構との切り合いは見られなかったことから，竪穴住居跡内の付属遺構であることが推測される。上記にある焼土を伴う遺構は，竪穴住居跡内の北側に位置するが南側は若干内側に広がっており，その埋土中からも炭化物が出土している。

SD1内遺物



SD3内遺物



第30図　SD1・SD3内出土遺物実測図

4．溝状遺構（第29図）

北区から3基検出された。1号・2号はⅢ層中から，3号はⅣ層上面から検出された。

1号は，北区中央から南端部にかけて南北に延びる幅約50cmの溝状遺構であり，南端部は畑地造成のため破壊されていた。遺構内の埋土はⅡ層である。完掘した状況での床面のレベルは北から南に向かって下がり，周辺地形からみても山の斜面に下るように遺構が延びていたのではないかと推測される。また1号埋土中及び床面から成川式土器の小片（第30図：上）が多数出土していることから，1号は古墳時代相当の溝状遺構であることが推測される。

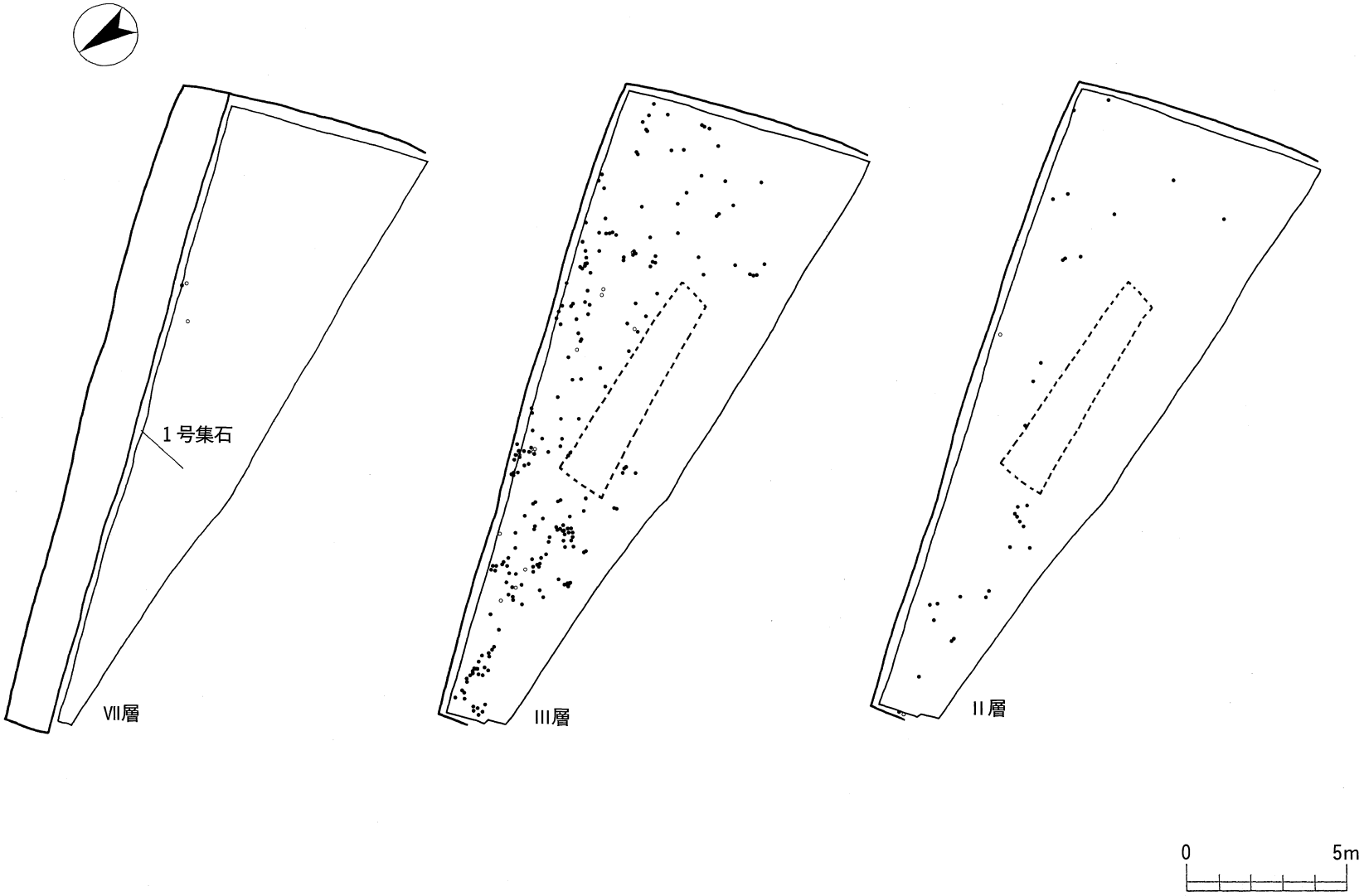
2号は，北区中央部にほぼ東西に延びる幅約30cmの溝状遺構であり，西端部が畑地造成のため破壊されていた。遺構内の埋土はⅡ層である。完掘した状況での床面のレベルは東から西に向かって下がり，周辺地形からみても山の斜面に下るように遺構が延びていたのではないかと推測される。2号からは遺物は全く見当たらなかったが，埋土の状況が1号と類似しており，使用時期については1号とは多少の時期差はあるにしても古墳時代相当の溝状遺構であることが推測される。

3号は，北区中央部の検出層位は異なるが2号よりも若干北側に位置し，ほぼ東西に延びる幅約50cmの溝状遺構である。東端部は調査対象区域外に広がりが認められ，また西端部は畑地造成のため破壊されていた。遺構内の埋土はⅢ層である。完掘した状況での床面のレベルは東から西に向かって下がり，周辺地形からみても山の斜面に下るように遺構が延びていたのではないかと推測される。また3号埋土中及び床面から成川式土器の小片（第30図：下）が多数出土していることから，3号は古墳時代相当の溝状遺構であることが推測される。

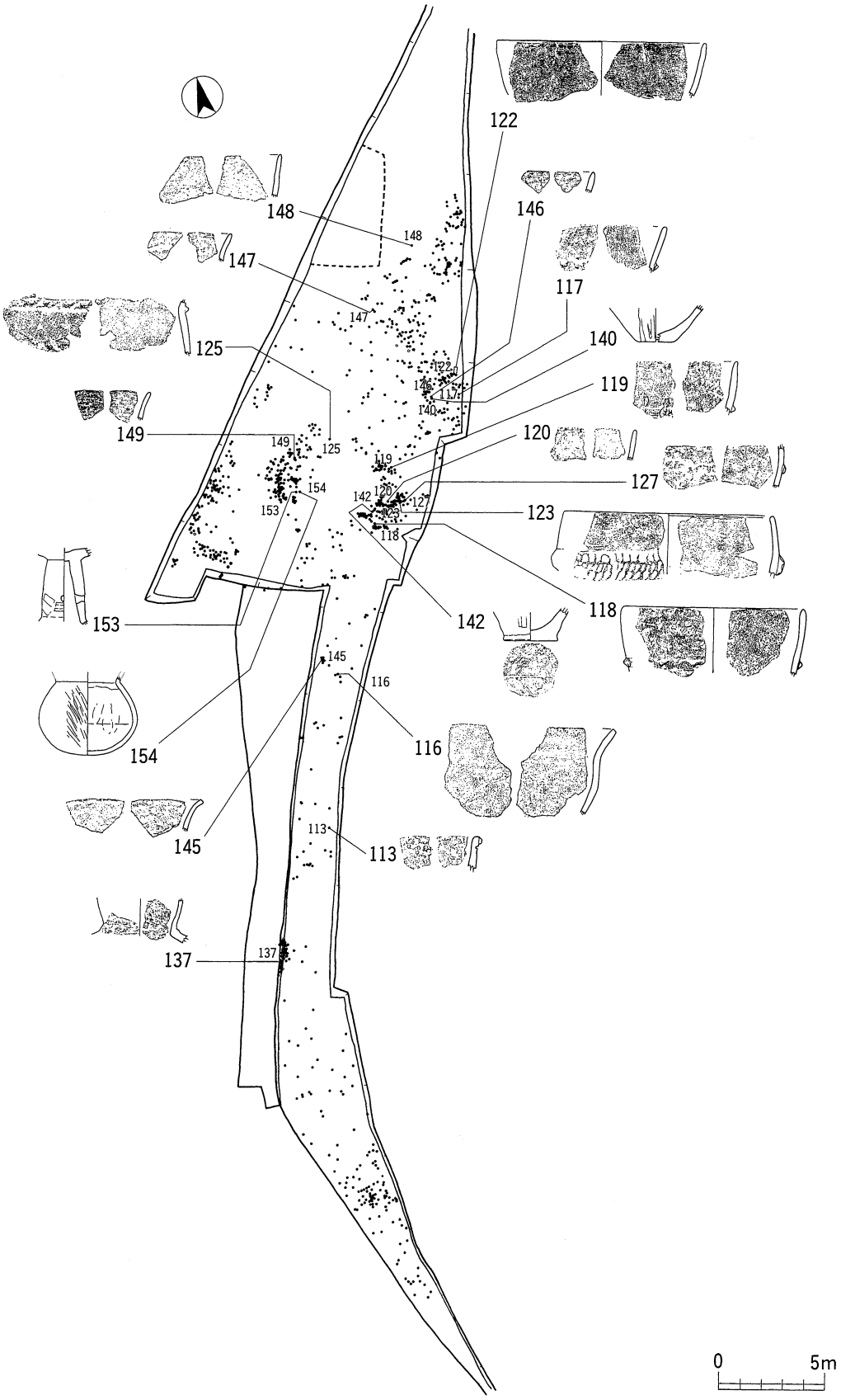
SD1内出土遺物については成川式土器と思われ，甕・壺・高坏に分類されるものが出土した。

106は甕である。貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。107は壺である。口縁部が外反する。108は高坏である。口縁部が外反する。

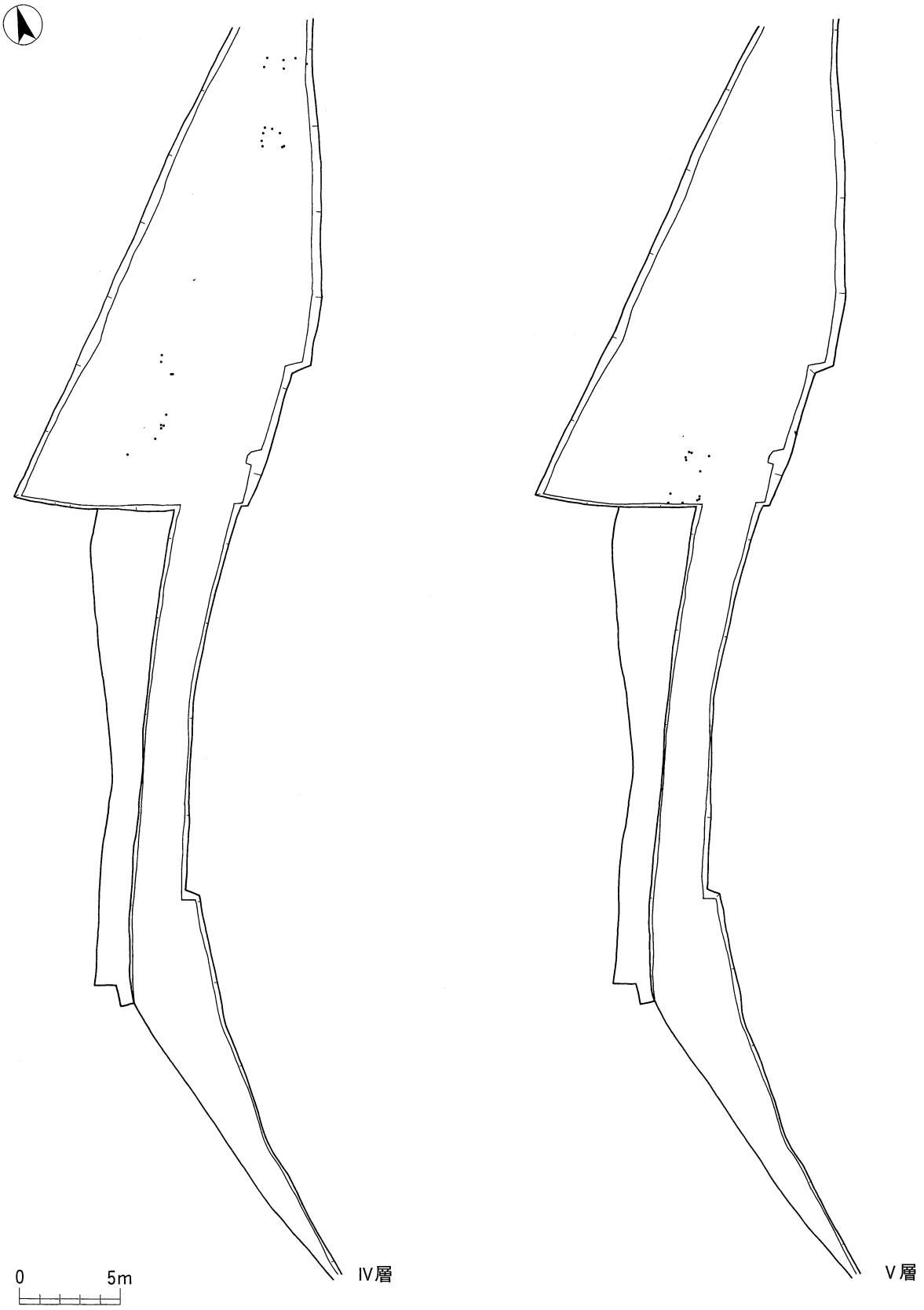
SD3出土遺物については成川式土器と思われ，甕・壺に分類されるものが出土した。



第31図　南区II・III・VII層遺物出土状況



第32図　北区III層遺物出土状況図



第33図　北区Ⅳ・Ⅴ層遺物出土状況

109・110は甕である。突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。111・112は壺である。111は，口縁部が直行する。112は，底部が張り出しをもった平底で，若干上底を呈している。

5．その他の遺構

その他の遺構として，ピット及び土坑がⅣ層上面（第15図：右），Ⅵa層上面（第14図），Ⅷ層上面(第12図)において検出された。Ⅳ層上面において，北区ではピットが8基，土坑が1基，Ⅵa層上面において北区ではピットが58基，土坑が9基，南区ではピットが27基，土坑が2基，Ⅷ層上面において，北区ではピットが2基検出された。ピットはいずれもランダムに検出され，掘立柱建物跡等の建造物を復元するには至らなかった。

（2）包含層出土遺物

包含層出土遺物について，土器についてはほとんどがⅢ層から出土しており，そのほとんどが成川式土器と思われ，甕・壺・鉢・高坏・坩に分類されるものが出土した。石器については，XⅡ層から旧石器時代相当期の剝片尖頭器（確認調査時），Ⅶ層から縄文時代早期相当期の扁平打製石斧，磨石，石皿が出土した。

1．土器

113は刻目突帯文土器である。口縁部に突帯をもち，竹管状工具による刺突による施紋が見られる。

114～136は甕である。114は，口縁部が外反する。115は，口縁部が外反し，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部のほとんどの面に繊維痕と思われるものが確認できた。116は，口縁部が外反し，突帯はもたず，胴部は内湾するように思われる。117は，口縁部が直行し，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部の面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。118は，口縁部がわずかに内湾し，突帯の頂部を指で浅く押圧している。その刻目は左下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。119は，口縁部がわずかに内湾し，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部の面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。120は，口縁部が直行する。121は，口縁部が内湾し，突帯の頂部を指で浅く押圧している。その刻目は，口縁に対してほぼ垂直に近い右下がりで，突帯刻目凹部のほとんどの面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。122は，口縁部がわずかに内湾する。123は，口縁部が内湾し，貼り付けられた一条の太い刻目突帯をめぐらし，その刻目は①突帯の上部を，口縁に対してほぼ垂直に近い傾きで指により浅く押圧している。②突帯の下部を，工具により深く刻まれたものと思われ，左下がりである。③工具により浅く刻まれたものと思われ，刻目の傾きは突帯下部の刻目ほどではないが，左下がりであることが確認できた。124は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部の面に鮮明ではないが繊維痕と思われる

ものが確認できた。胴部は直行するように思われる。125は，突帯の頂部を指で浅く押圧している。その刻目は左下がりである。胴部は内湾すると思われる。126は，突帯の欠損が見られるが，突帯の頂部を指で浅く押圧している。その刻目は右下がりである。胴部はわずかに内湾するように思われる。127は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，その刻目は口縁に対してほぼ垂直である。また，突帯の一部に，突帯の完結面と思われるところも見られ，完結面の切り合いの関係から，突帯は製作時に右回りで付けられたことが考えられる。胴部は内湾するように思われる。128は，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は口縁に対してほぼ垂直であると思われる。129は，貼り付けられた一条の台形状突帯をめぐらし，胴部はほぼ直行するように思われる。130は，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は深く，工具により刻まれたものと思われ，その刻目は口縁に対してほぼ垂直である。突帯刻目凹部の面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。胴部は直行するように思われる。131・132は，胴部がわずかに内湾する。133は，胴部が直行する。134は，胴部が直行し，底部は長い脚を作出している。135は，胴部がわずかに内湾し，底部は平底を若干上底に呈している。136は，底部が長い脚を作出している。

137～144は壺である。137は，頸部が「く」の字状に曲り，突帯をもつ。突帯の欠損が見られるが，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，左下がりである。突帯刻目凹部の面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。138は，頸部に突帯をもち，突帯の欠損が見られるが，貼り付けられた一条の刻目突帯をめぐらし，その刻目は浅く，工具により刻まれたものと思われ，口縁に対してほぼ垂直に近い左下がりである。139は，頸部に太い突帯をもち，突帯の欠損が見られるが，突帯に並行するように工具により3列の刻目が施されていると思われ，その刻目は左下がりである。突帯刻目凹部の面に鮮明ではないが繊維痕と思われるものが確認できた。140・141は，胴部が直行し，底部は丸底に近い。142は，底部が張り出しをもった平底であり，その底部に葉脈痕が確認できた。143は，胴部がわずかに内湾し，底部は張り出しをもった平底である。144は，胴部が直行し，底部は短い脚を作出している。

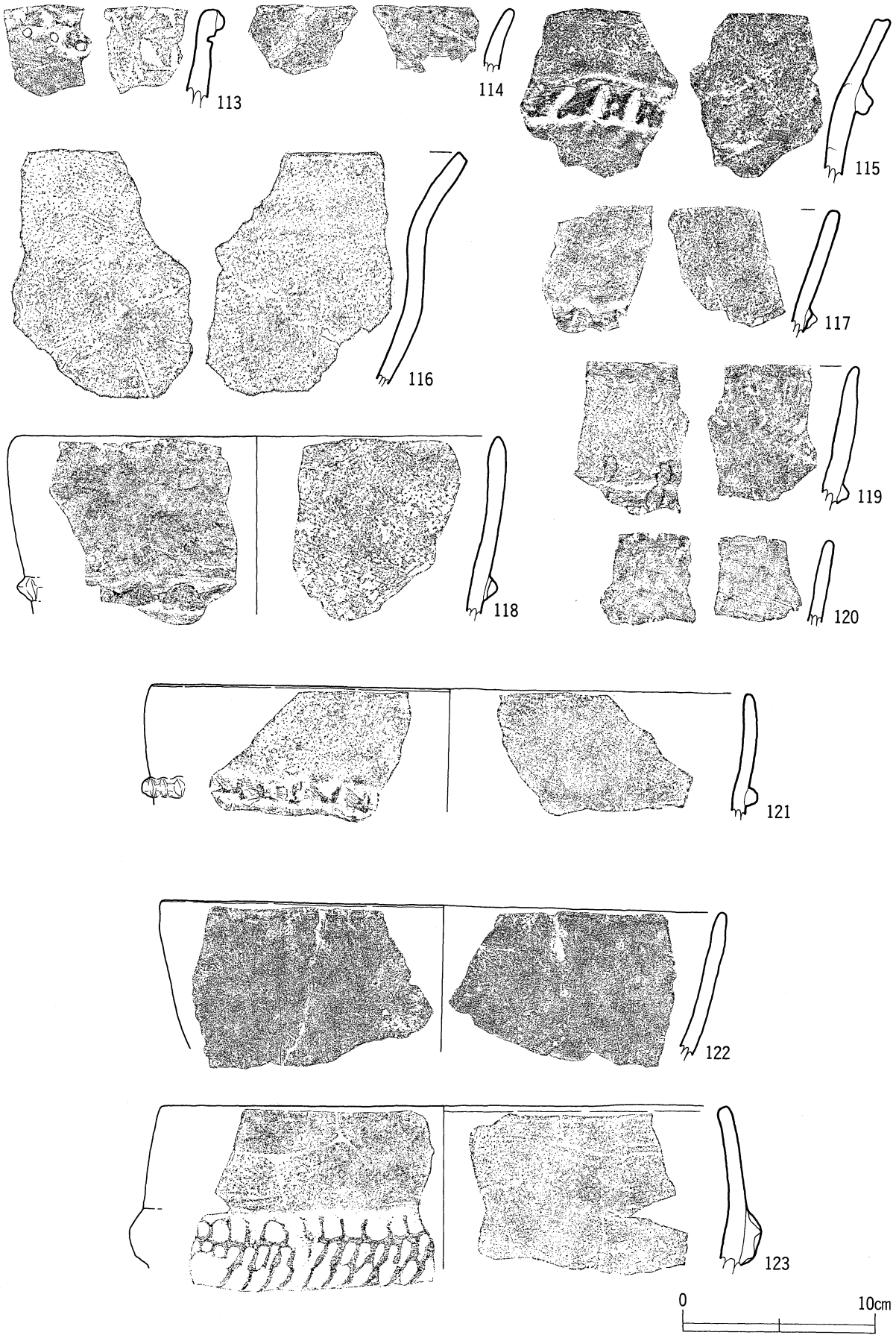
145～152は鉢である。145は，口縁部が外反する。146は，口縁部が直行すると思われる。147は，口縁部がわずかに外反する。148は，口縁部が直行する。149・150は，口縁部がわずかに外反する。151は，口縁部がわずかに内湾する。152は，胴部がわずかに内湾すると思われ，底部は長い脚を作出している。

153は高坏である。脚部がわずかに内湾し，脚の下部に直径8㎜程度の3つの穿孔が施されている。その穿孔を観察すると，外面から内面方向に向かって穴を穿いた形跡が見られ，それが土器製作段階でつけられたものではなく，土器の焼成が完了してから穿かれたものであると思われる。

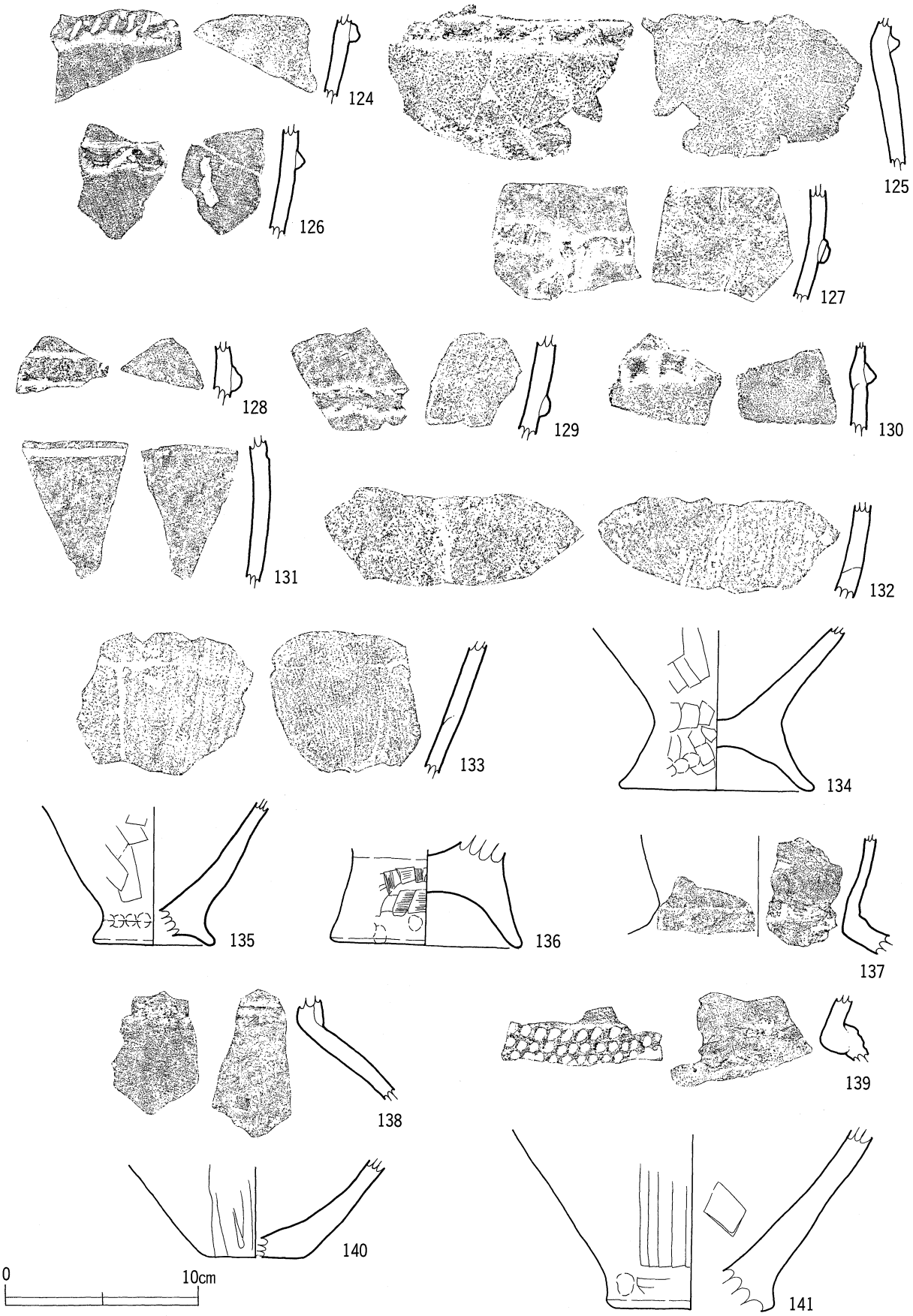
154は坩である。胴部は著しく内湾し，底部は丸底である。

2．石器

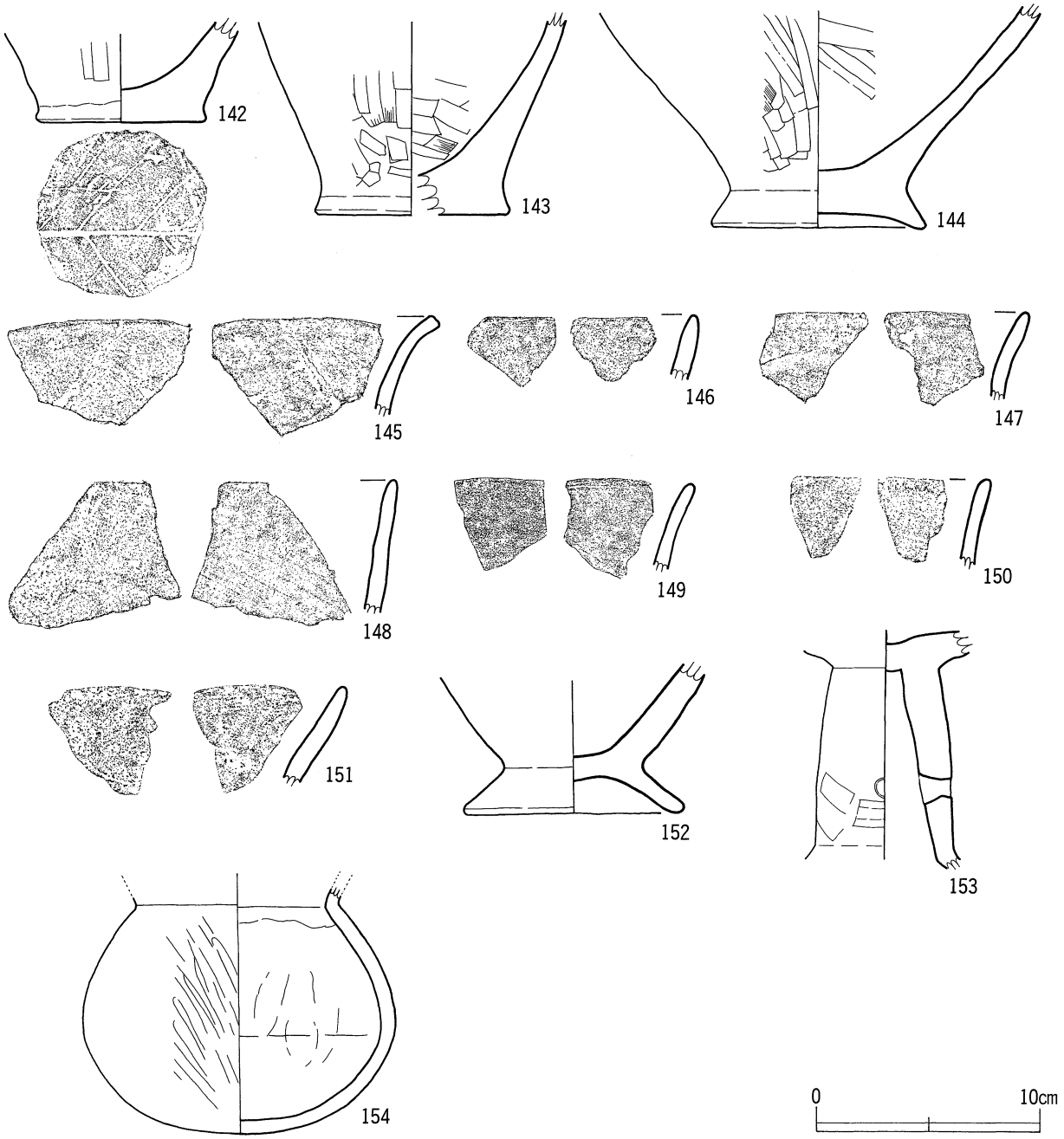
155は剥片尖頭器である。頁岩製で，縦長剥片を素材に主剥離面を大きく残し，基部両端には調整加工の痕跡も見られ抉りを形成している。刃部先端が欠損している。156は扁平打製石斧である。頁岩製で，刃部は欠損している。基部の形態は尖形で，側辺に敲打痕が確認できる。157は磨石であ



第34図　III層出土遺物実測図(1)

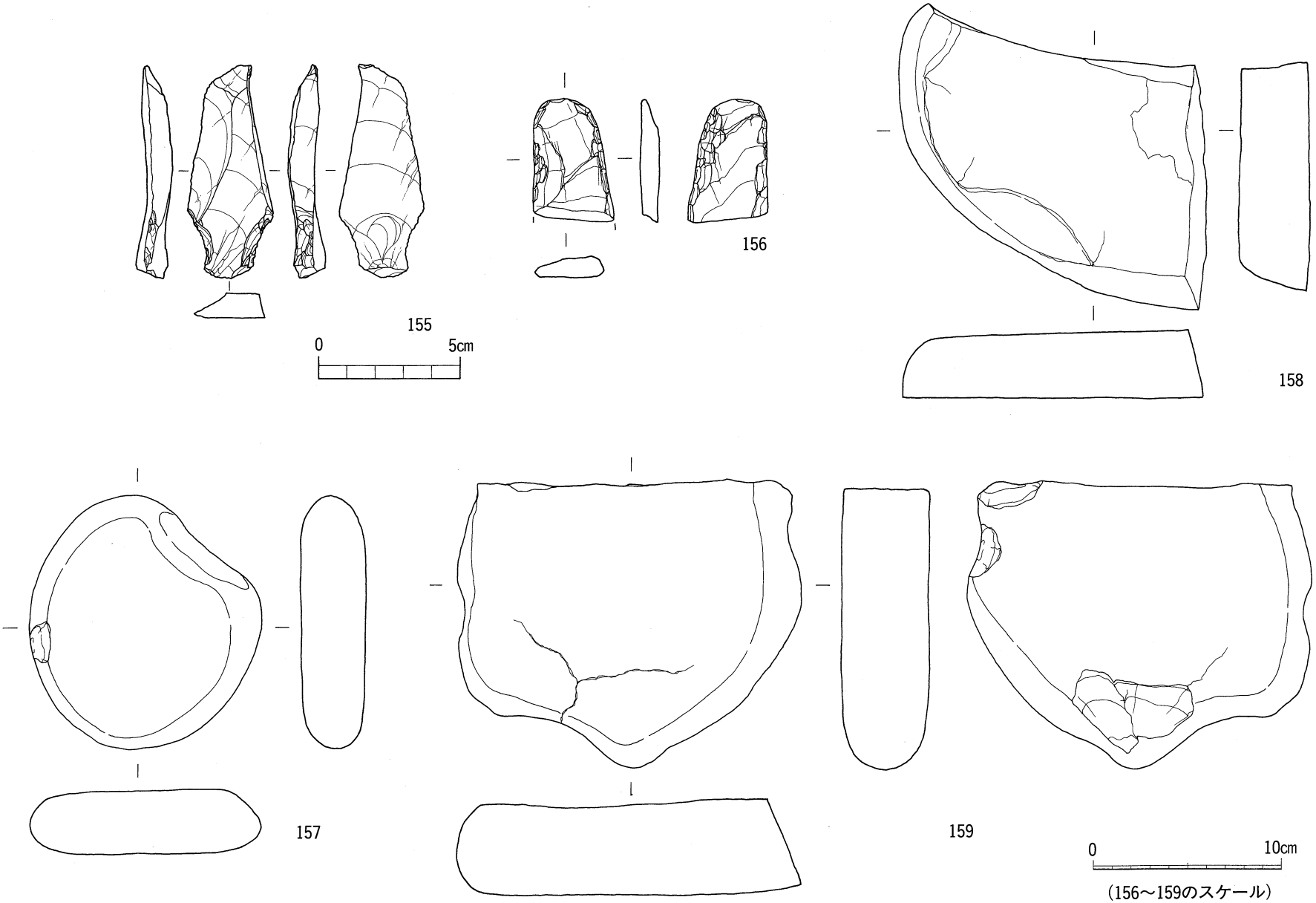


第35図　III層出土遺物実測図(2)



第36図　III層出土遺物実測図(3)

る。砂岩製で，磨耗面は表面・裏面に楕円状に各１面ずつあり，その運動方向についてははっきり確認できなかった。158・159は石皿である。いずれも頁岩製で，側縁部に比べ表裏面に平坦部をもつ。158は，裏面は自然面であり，何らかの理由で剝離したものと思われる。表面に２つの大きな欠損箇所が見られるが，敲打部内にある欠損箇所は，磨耗痕が確認でき，欠損した後も引き続き使用していたと思われる。159は，磨耗面は表面･裏面に各１面ずつあり，裏面に打ち欠いた所も見られる。



第37図　包含層出土石器実測図

第Ⅳ章　楠原遺跡調査の経過

第１節　調査に至る経過

鹿児島県農政部農地建設課（大隅耕地事務所・以下県農政部）は，有明町平山地区において農免農道整備事業を計画し，事業区内の埋蔵文化財包蔵地の有無について鹿児島県教育委員会文化財課に照会した。

これを受けて鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下，県立埋文センター）と有明町教育委員会 社会教育課（以下，町社会教育課）が平成２年４月に埋蔵文化財分布調査を実施したところ，事業区内に遺物散布地として，楠原遺跡が存在することが判明した。

この分布調査の結果をもとに県農政部，県文化課，町社会教育課は，埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るため協議を行った結果，事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下，確認調査）を実施することとなった。

確認調査は，有明町教育委員会が調査主体となり，県立埋文センターに依頼し，平成６年８月22日から同年９月１日（８日間）まで実施した。確認調査の結果，縄文時代後期の遺物包含層の存在が明らかとなった。この結果を受けて遺跡の取り扱いについて遺跡の現状保存，及び事業の設計変更等について協議を実施した。その結果，事業推進にあたっては遺跡の現状保存は困難であると判断し，道路部分については記録保存のための緊急発掘調査を実施することとなった。

本調査は平成８年11月25日から同年12月17日（17日間）にかけて県立埋文センターの協力で，有明町教育委員会が主体となって緊急発掘調査を実施することとなった。

平成15年度は，県立埋文センターの協力を得て報告書作成を実施した。

第２節　調査の組織

［平成６年度確認調査］

調査主体	有明町教育委員会		
調査総括	〃	教育長	福岡　孝
調査企画担当	〃	社会教育課長	河原橋　和典
調査庶務担当	〃	社会教育課主事	本村　浩文
調査担当	県立埋蔵文化財センター	文化財主事	児玉　健一郎
	〃	文化財調査員	菅牟田　勉

［平成８年度本調査］

調査主体	有明町教育委員会		
調査総括	〃	教育長	大脇　茂夫
調査企画担当	〃	社会教育課長	川辺　繁久
調査庶務担当	〃	社会教育課主事	黒川　晃
調査担当	〃	社会教育課主事	中水　忍
	県立埋蔵文化財センター	文化財主事	児玉　健一郎

[平成15年度報告書作成]

調査主体	有明町教育委員会		
調査総括	〃	教育長	大迫　亨
調査企画担当	〃	社会教育課長	立山廣幸
調査事務担当	〃	社会教育課長補佐	畑山昭俊
	〃	社会教育係長	岩元秀光
調査担当	〃	社会教育課主査	出口順一朗
	県立埋蔵文化財センター	文化財研究員	黒川忠広

[平成6年度発掘調査員]

鰺坂　ツギ　安崎ヒロ子　池口　智子　上野フミカ　上野　ヤエ　鰺坂　ツギ
円福　昭子　円福　義範　肝付　フク　杉野ナルエ　樽口ひとみ　西山ヨシエ
福田　ウル　牧本ハツエ　牧本フジ子　宮脇トシ子　牧本ハツエ　八木　茂子
吉松　祐美

[平成8年度発掘調査員]

阿田　ユミ　池澤　エミ　勝田ハツミ　仮宿　龍穂　川尾　栄　木佐タエコ
藏坪　サエ　河野　トヨ　重井トミ子　杉元　イク　末田　ミキ　末広チエ子
瀬口　イク　瀬口サチエ　瀬口　ミエ　田迫　チヅ　田中　寅男　藤分　ミエ
中野　京子　中野　ノリ　中村　末吉　西　良　西鍋　ノリ　抜迫　ミエ
野崎　ミエ　抜迫　ノブ　平井　ユイ　平川　宗男　藤田　耕平　前田　重良
前田　トヨ　牧　サエ　牧　トシ　馬原　キヨ　丸口　エミ　柳田　チエ
山平アヤ子　山平　親行　米重ハルミ（以上　社団法人有明町シルバー人材センター）

[平成15年度整理作業員]

安野　美子　若松　孝雄　徳留　愛　槐島　洋子　辻田　由美　那須マリ子
西川　直美

第3節　調査の概要

確認調査は，事業実施計画部分に1～7トレンチを随時設定し，各トレンチにおいて遺物包含層の有無，時期，地表面からの深さ，遺物包含層の広がりを確認することを目的として2m×4mのトレンチを基本にして，Ⅰ～Ⅲ層を重機により除去した後，それよりも下の層は人力による掘り下げ作業を実施した。

1トレンチ…XⅠ層から上の層は削平されていた。XⅡ～XⅢ層まで掘り下げたが，遺物，遺構ともに見られなかった。

2トレンチ…XⅠ層から上の層は削平されていた。XⅡ層と思われる層より頁岩剝片が1点出土したが，層の堆積状況は安定しておらず，遺物が原位置を保っているかどうか疑問

である。XIII層まで掘り下げたが，遺構は検出されなかった。

3トレンチ…VII層から上の層は削平されていた。VIII層も大部分が削平を受け，わずかに残る程度であった。遺物はIX層から2㎝程度の形式不明の土器小片2点が出土した。XIII層まで掘り下げたが遺構は検出されなかった。

4トレンチ…IV層から上の層は削平されていた。V層にも耕作による削平・攪乱が随所に見られた。VIII層から2㎝程度の形式不明の土器小片2点が出土した。XIII層まで掘り下げたが遺構は検出されなかった。

5トレンチ…VI層から上の層は削平されていた。IX層から形式不明の土器小片1点が出土した。XIII層まで掘り下げたが遺構は検出されなかった。

6トレンチ…土層の残存状況がよくII層以下の土層が残存していた。V層から縄文時代後期と思われる土器片や石鏃が出土した。VIII層まで掘り下げたが遺構は検出されなかった。

7トレンチ…XI層から上の層は削平されていた。土層の堆積状況は安定していない。XII層まで掘り下げたが遺物・遺構は検出されなかった。

確認調査の結果，当初楠原遺跡は分布調査及び今回の確認調査の際にも地表面で弥生時代・古墳時代・縄文時代後期～晩期の土器片が採集され，これらの時期の遺物包含層の存在が予想されていた。しかし確認調査を実施した結果，これらの遺物包含層のほとんどが構造改善事業に伴う造成工事で削平されていることが判明した。造成工事による削平を免れた部分が4トレンチから6トレンチ周辺である。この部分には縄文時代後期の遺物包含層であるV層が残存していた。また6トレンチでは遺物は出土しなかったものの，弥生～古墳時代に相当するIV層が残存していた。

旧石器時代に属すると思われる剥片が1点だけ2トレンチで出土したものの，他の部分に広がっている可能性は認められなかった。3～5トレンチでは縄文時代早期に相当するIX層から土器小片が出土したが，いずれの土器片も残存状況が極めて悪く，型式すらも不明であることから，調査区内においては当該時期の良好な遺物の出土が期待できないと判断される。6トレンチでは縄文時代後期と思われる土器片や石鏃が出土し，同層の広がりは4トレンチ付近にまで及んでいる。

このことから，4トレンチから6トレンチの範囲にかけて，縄文時代後期の遺物包含層が残存していることが確認された。

この確認調査の結果を受けて，調査対象区の任意の起点から10m×10mのグリッドを設定し，西から東にA～C区，南から北に1～8区の記号・番号を付し，A－1区・B－1区と呼称した。発掘調査区域南側のB－1区から調査を開始し，表層からIV層までを重機により除去した後，人力で掘り下げを実施した。

第４節　発掘調査の経過

発掘調査は，平成８年11月25日から同年12月17日（17日間）まで行った。以下，日誌抄により発掘調査の経過を略述する。

11月25日（月）～11月28日（木）

遺跡周辺の環境整備及び安全対策を施す。

重機にて表土を除去し，10ｍグリッドの設定を行う。Ｂ－１・２区よりＶ層の掘り下げ。

（26日　立山静幸耕地課長，持冨健一耕地係長，大脇茂夫教育長，川辺繁久社会教育課長来跡）

12月２日（月）～12月６日（金）

Ａ－４・５区Ⅳ層を掘り下げた後，Ａ－５・６区，Ｂ－１・２・５・６区，Ｃ－５区Ｖ層の掘り下げ。Ｂ－１・２・５・６区，Ｃ－５区より遺物が散在して出土した。Ｂ－６区Ｖ層中に1号土坑が検出された。Ｂ－１・２区は，精査，遺物出土状況写真撮影の後，遺物の取り上げ。Ⅶ層上面で遺構検出したところ，主に柱穴と思われる遺構を確認でき，精査，検出状況写真撮影の後，各遺構内埋土の掘り下げした後，精査，完掘状況写真撮影。Ｂ－２区壁土層断面分層及び実測。

12月９日（月）～12月13日（金）

Ａ－６区，Ｂ－５・６区，Ｃ－６区Ｖ層の掘り下げをした後，Ｂ・Ｃ－５・６区の精査，遺物出土状況写真撮影及び遺物の取り上げ。Ｃ－６区Ｖ層中に２号土坑が検出された。１・２号土坑を半裁し，その断面の分層，精査，分層状況写真撮影，断面実測図を作成した後，土坑完掘。Ｂ・Ｃ－５・６区はⅦ層上面で遺構検出を行い，主に柱穴と思われる遺構を確認。精査，検出状況写真撮影をした後，各遺構の掘り下げ。

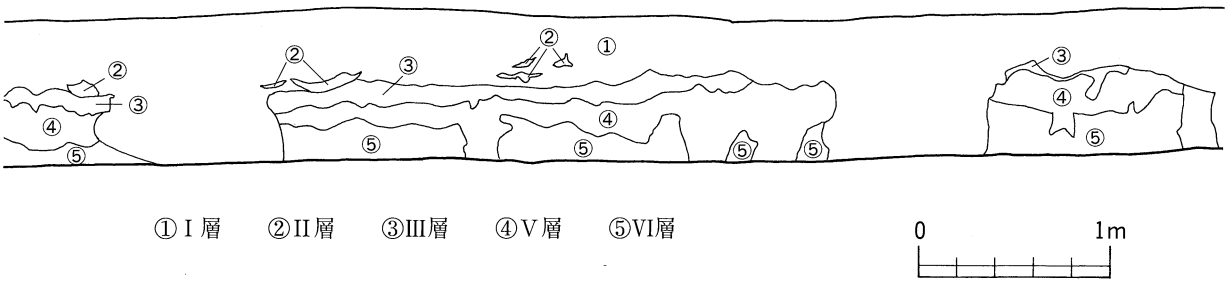
12月16日（月）～17日（火）

Ｂ・Ｃ－５・６区はⅦ層上面で検出された各遺構の掘り下げが終了した後，精査，完掘状況写真撮影。全体遺構配置図の作成。

第５節　層序

標準土層は次の通りである。

Ⅰ層	黒褐色土	現耕作土。構造改善事業などにより造成土が厚い部分では細分が可能。
Ⅱ層	灰白色火山灰	大正３年の桜島火山灰と思われる。
Ⅲ層	黒色砂質土	大正３年以前の耕作土。
Ⅳ層	黒色腐植土	Ⅲ層より粘質が強い。古代以降の遺物を包含する。
Ⅴ層	暗黄褐色土	やや締まりがなく砂質が強い。縄文時代後期から古墳時代の遺物を包含。
Ⅵ層	暗褐色土	硬く締まり，径約３ mm の黄灰色パミスを含む。
Ⅶ層	暗黄橙色土	Ⅷ層の二次堆積土と思われる。
Ⅷ層	黄橙色火山灰	ブロック状に検出される。水平方向には安定しており，約３～５㎜のオレンジ色の軽石が含まれる。アカホヤ火山灰層と思われる。



第38図　楠原遺跡土層断面図（Ｂ－２区北側）

第６節　調査の成果

（１）遺構

①１号土坑

Ｂ－６区で検出された。検出面は，Ⅴ層中層面である。平面プランは，約150cm×約180cmの隅丸長方形を呈する。検出面から床面までは，約35cmでⅦ層まで掘り込んでいる。床面もほぼ長方形に近く部分的に焼土も見られる。埋土は３層に分かれており下層部は炭化物が土壌化したと思われる黒褐色土層で，中には原形をとどめた木炭も確認できた。遺物などは確認できなかった。

②２号土坑

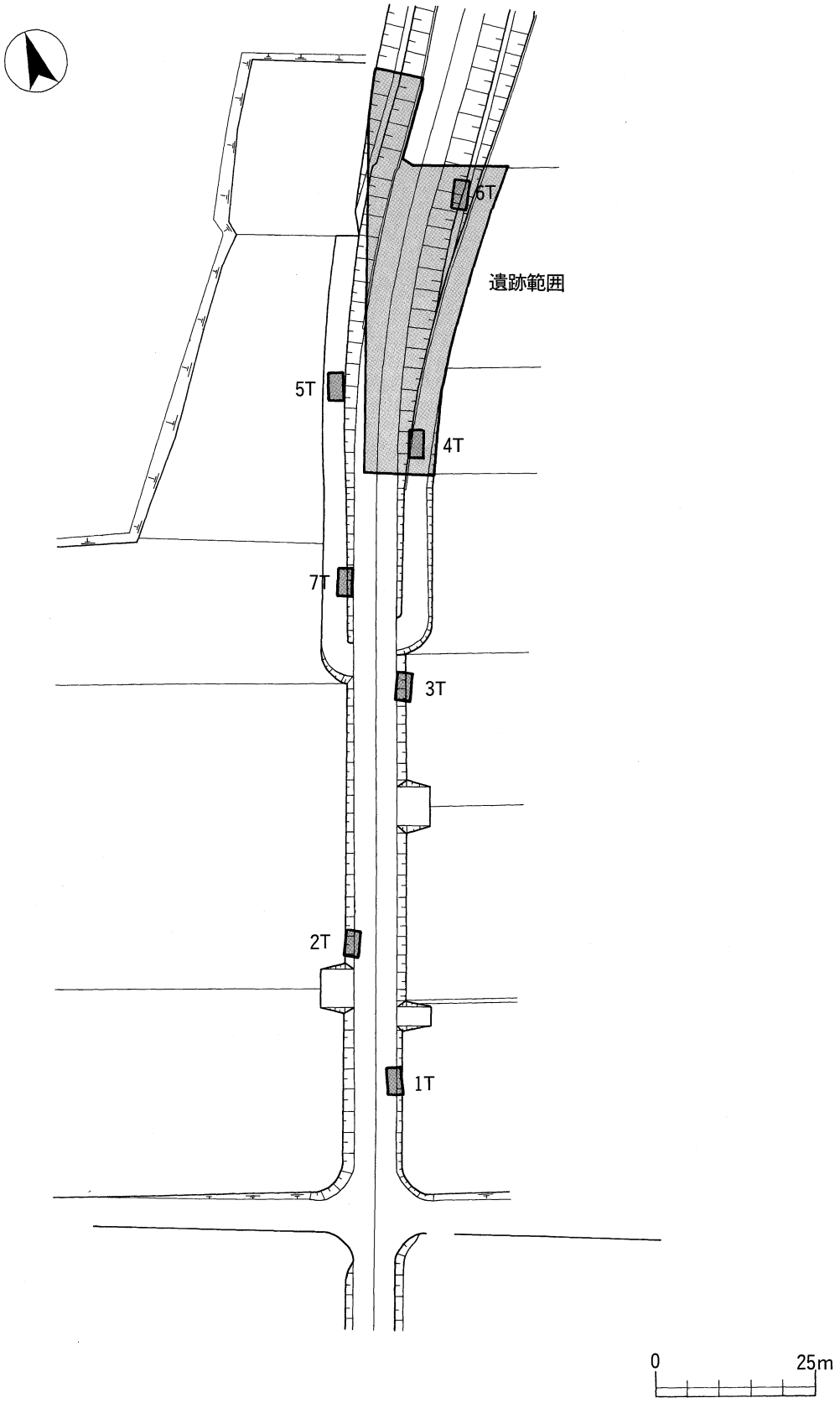
Ａ－６区で検出された。検出面は，１号と同じくⅤ層中層部である。平面プランは約160cm×約180cmの隅丸長方形を呈する。検出面から床面までは，約35cmであり構造的には１号土坑と類似している。遺構内から遺物は出土していない。

（２）遺物

包含層出土遺物について，ほとんどがⅣ・Ⅴ層から出土しており，昭和40年代の構造改善事業による削平のため，表層中にも遺物が多く混入していた。

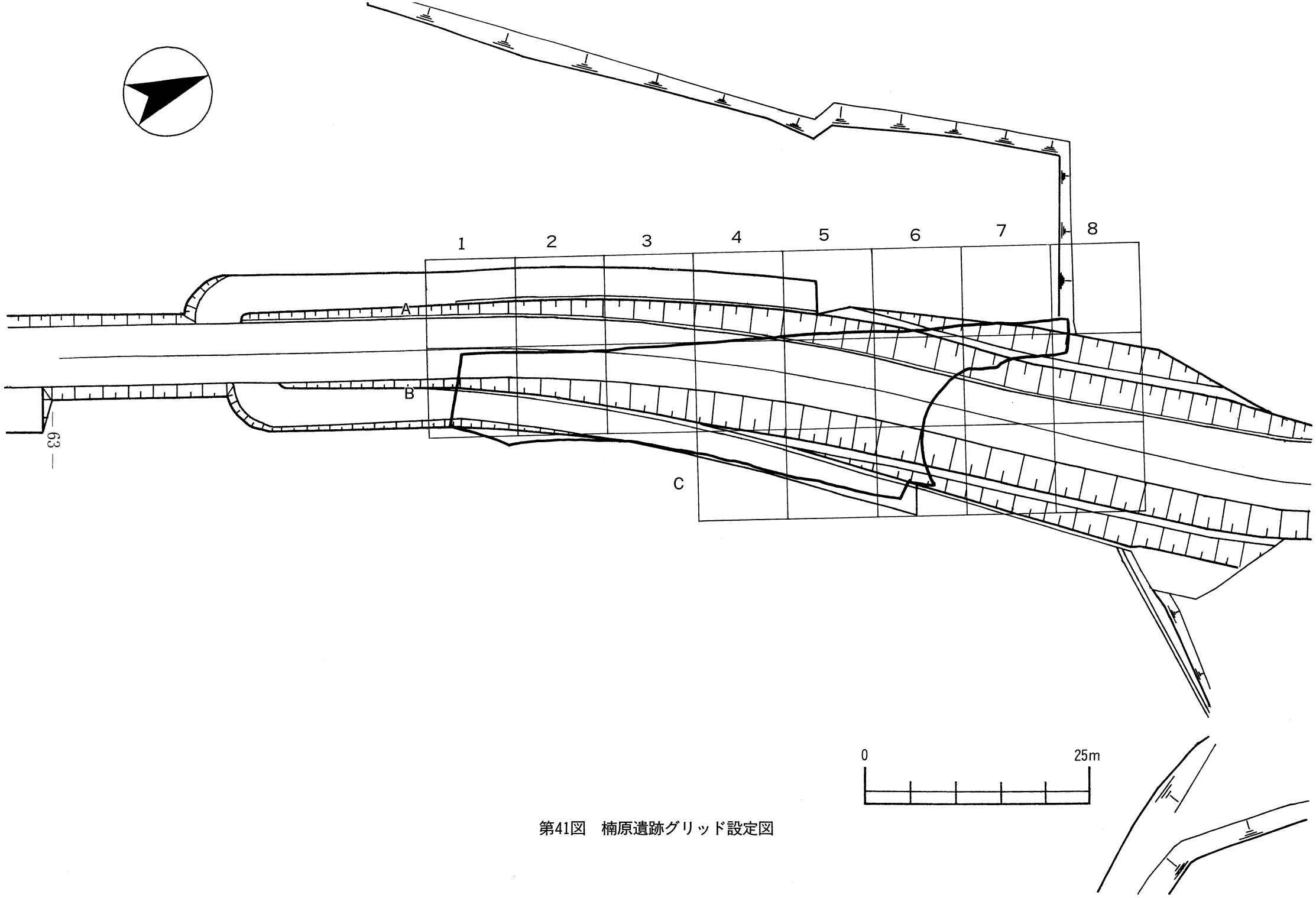
１は縄文早期土器の深鉢と思われる。口縁部が直行するもので，口縁部の外面が山形になり，口唇部は無文である。口縁部の下位には沈線があり，その沈線凹部に先端の鋭利な工具によると思われる細沈線が施されている。その下位には，わずかではあるが，貝殻腹縁部による貝殻条痕文が鋸刃状に横位の刺突文を確認することができた。

２は縄文後期土器の深鉢と思われる。口縁部は小さく「く」の字状に立ち上がり，胴部は大きく外反する。３・４は黒川式土器の深鉢と思われる。口縁部が直行する。５は山之口式土器の壺と思われる。胴部はわずかに内湾し，底部は平底である。６～13は成川式土器と思われる。６～10は甕である。６は，口縁部から胴部にかけて直行し，底部は長い脚を作出している。突帯は見られない。７・８は，口縁部から胴部にかけて内湾し，突帯の頂部を指で押圧している。その刻目は口縁に対してほぼ垂直である。９は，胴部が直行し，底部は短い脚を作出している。10は，底部が短い脚を作出している。11・12は碗である。口縁部から胴部にかけてわずかに内湾し，底部は丸底に近い。13は高坏である。脚上部は内湾し，脚下部は「ハ」の字状に直行する。14は器種がはっきり断定ができない。胴部と思われる部位の外面はタテミガキで器面を調整してあるが，その器面の一部に明らかに胎土とは異なる焼成土（化粧土？）が被っている。15は内黒土師器の碗と思われ，口縁部が直行する。16は土師器の碗と思われ，口縁部から胴部にかけて直行する。17は陶器片である。器面の内外に釉薬がかかり，高台を形成している。この陶器片は高台に沿って碗部を穿いている形跡が見られ，破損等により碗として使用できなくなったものを遊具等に再利用して作られたものではないかと思われる。

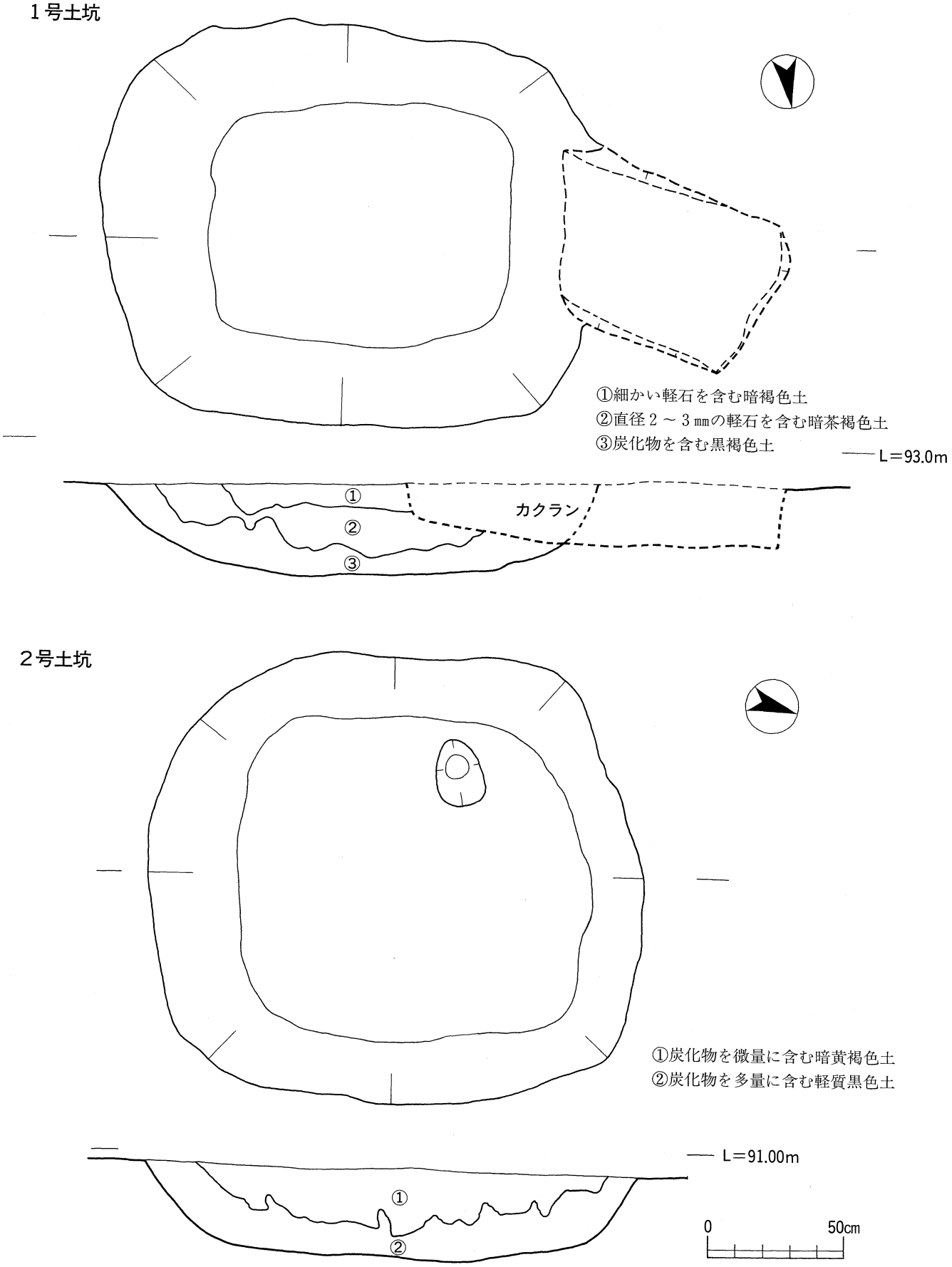


第39図　楠原遺跡確認調査トレンチ設定配置図及び遺跡範囲図

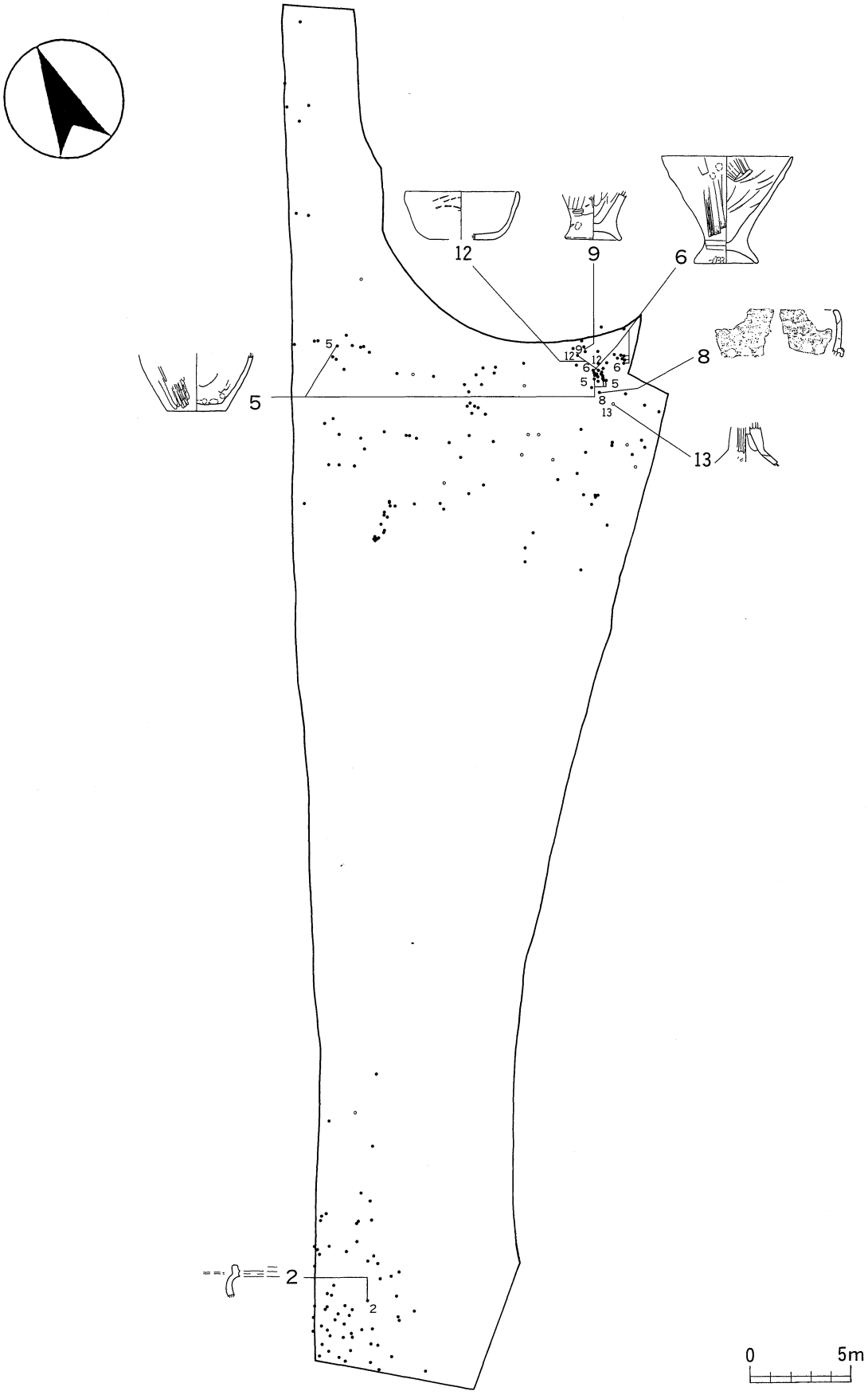
第40図　楠原遺跡Ⅶ層上面遺構全体図



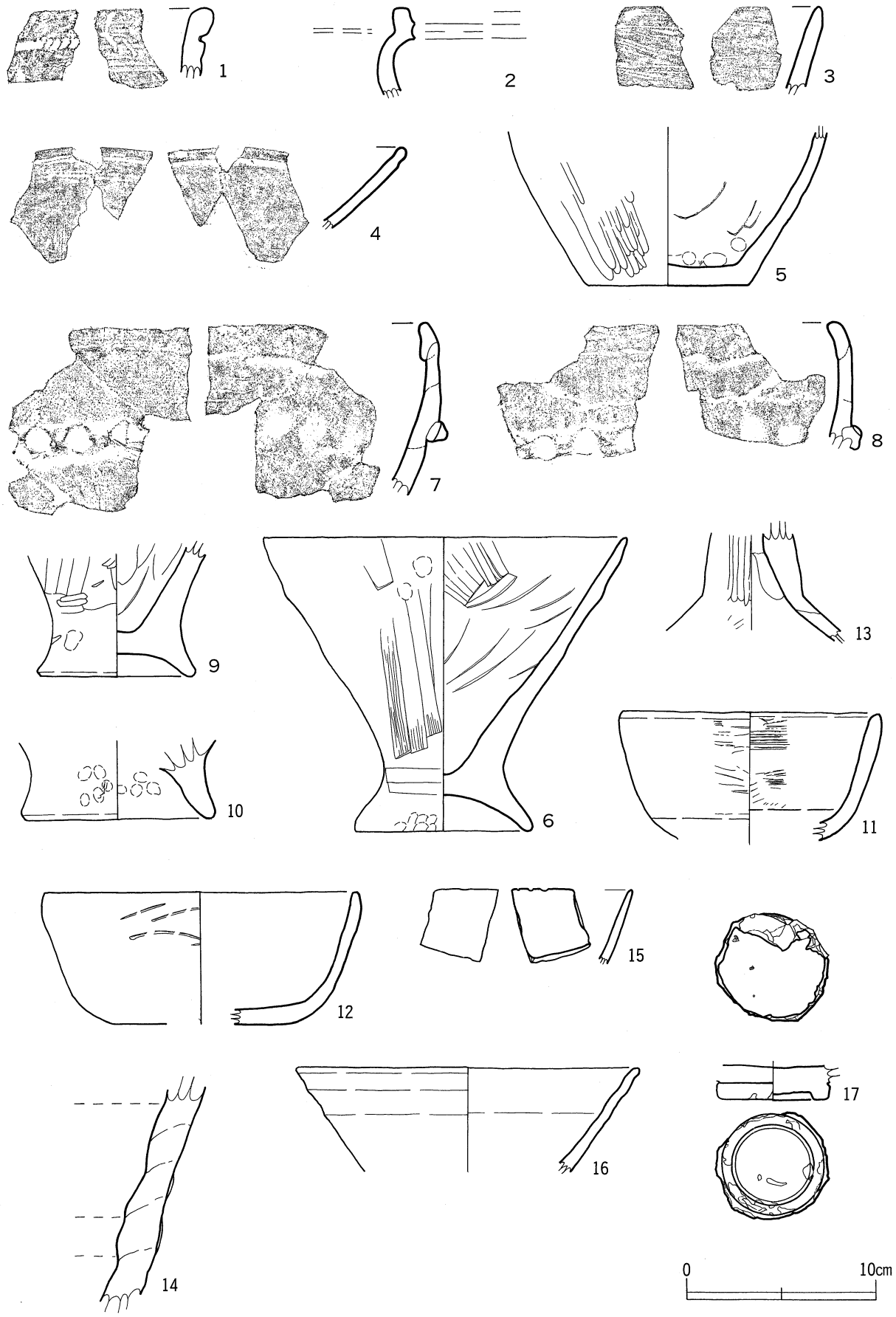
第41図　楠原遺跡グリッド設定図



第42図　1・2号土坑実測図



第43図　Ⅴ層遺物出土状況図



第44図　包含層遺物実測図

第４表　屋部当遺跡土器観察表（１）

レイアウトNo.	種別	器種	部位	出土区	出土層	出土遺構	石英	雲母	角閃石	小礫	赤褐色粒	砂粒	色調	調整	特徴
1	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１			○	○	○	○	内面：浅黄色 外面：明黄褐色	内面：ナデ 外面：ヨコナデ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
2	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○		内面：明黄褐色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・ナデ 外面：ヨコナデ後ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
3	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○		内面：明黄褐色 外面：灰オリーブ色	内面：ナデ後ミガキ・指頭圧痕 外面：ヨコナデ・ナデ後ミガキ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
4	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ後ミガキ・指頭圧痕 外面：ヨコナデ・ナデ後ミガキ	外面に煤付着・内面に黒斑 突帯に繊維痕
5	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ後ミガキ・指頭圧痕 外面：ヨコナデ・ナデ後ミガキ	外面に煤付着
6	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○		○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヨコナデ後ヘラ削り 外面：ヨコナデ後ヘラ削り・指頭圧痕	外面に煤付着 突帯に繊維痕
7	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○				○		内面：橙色 外面：明黄褐色	内面：ヨコナデ・ヘラミガキ 外面：ヨコナデ後ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
8	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○	○		内面：にぶい黄褐色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ後ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ナデ後ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
9	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○			○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ後ヘラ削り・指頭圧痕 外面：ナデ・ナデ後ミガキ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
10	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○			内面：にぶい褐色 外面：にぶい褐色	内面：ヘラミガキ・指頭圧痕 外面：ナデ後ヘラ削り	外面に煤付着
11	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○	○		内面：にぶい褐色 外面：にぶい褐色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ナデ・ヨコナデ・ミガキ	外面に煤・黒斑付着 内面に黒斑
12	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○		○	内面：明赤褐色 外面：橙色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ナデ後ミガキ	
13	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○	○		内面：灰赤色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ後ミガキ 外面：ヨコナデ後ヘラ削り	突帯に繊維痕
14	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○			○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ後ミガキ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	
15	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１				○	○	○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・ミガキ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
16	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○			内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
17	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１				○			内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ後ミガキ 外面：ヨコナデ・ミガキ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
18	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○	○		内面：浅黄色 外面：橙色	内面：ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り・ミガキ	内面に黒斑
19	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○		○	○	○		内面：灰黄色 外面：にぶい黄色	内面：ナデ・ミガキ 外面：ヨコナデ・ミガキ	突帯にわずかに繊維痕
20	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○				○		内面：浅黄色 外面：浅黄色	内面：ナデ・ヘラミガキ・指頭圧痕 外面：ナデ後ミガキ	突帯に繊維痕
21	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１				○	○		内面：浅黄色 外面：浅黄色	内面：ナデ・ミガキ・指頭圧痕 外面：ヨコナデ・ミガキ	突帯に繊維痕
22	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○		○	○			内面：にぶい褐色 外面：橙色	内面：ヨコナデ後ミガキ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯にわずかに繊維痕
23	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１					○		内面：灰黄色 外面：にぶい黄色	内面：ヨコナデ後ミガキ 外面：ヨコナデ・ミガキ	外面に煤付着
24	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○	○		内面：浅黄色 外面：にぶい黄色	内面：ナデ後ミガキ 外面：ヨコナデ・ミガキ	外面に煤付着
25	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○	○		内面：明赤褐色 外面：橙色	内面：ナデ後ミガキ・指頭圧痕 外面：ヨコナデ後ミガキ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
26	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○		内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ後ミガキ・指頭圧痕 外面：ナデ後ミガキ	外面に煤付着
27	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○			○	○	内面：にぶい褐色 外面：にぶい褐色	内面：ナデ後ミガキ・指頭圧痕 外面：ナデ・ヨコナデ	外面に煤付着
28	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○	○	内面：にぶい橙色 外面：にぶい褐色	内面：ナデ後ミガキ 外面：ヘラ削り	外面に煤付着
29	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○	○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ後ミガキ 外面：ナデ後ミガキ	外面に煤付着
30	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○		内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ヘラ削り後ミガキ	内面に煤付着
31	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○			内面：にぶい橙色 外面：にぶい黄色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り後ミガキ	外面に煤付着
32	成川式土器	甕	胴部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○		内面：にぶい黄色 外面：にぶい黄色	内面：ヘラ削り・ミガキ 外面：ナデ・ヘラ削り・ミガキ	外面に煤付着
33	成川式土器	甕	底部	北区	埋土中	土器溜り１				○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	内面に煤付着
34	成川式土器	甕	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○				○	○	内面：オリーブ黄色 外面：橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	
35	成川式土器	甕	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○		内面：浅黄色 外面：浅黄色	内面：ナデ・ミガキ 外面：ナデミガキ・指頭圧痕	外面にわずかに煤付着
36	成川式土器	甕	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○			内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	
37	成川式土器	甕	底部	北区	埋土中	土器溜り１				○	○		内面：浅黄色 外面：灰黄色	内面：ナデ後ミガキ・ヘラ削り 外面：ナデ後ミガキ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面にわずかに煤付着
38	成川式土器	壺	頸部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○	○		内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ後ミガキ・ヘラ削り 外面：ナデ後ミガキ・ヘラ削り	突帯に繊維痕
39	成川式土器	壺	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○	○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ後ミガキ・ヘラ削り・指頭圧痕 外面：ナデ	突帯に繊維痕
40	成川式土器	壺	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○				○		内面：にぶい橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ後ミガキ・ヘラ削り・指頭圧痕 外面：ナデ・ヘラ削り	

第５表　屋部当遺跡土器観察表（２）

レイアウトNo.	種別	器種	部位	出土区	出土層	出土遺構	石英	雲母	角閃石	小礫	赤褐色粒	砂粒	色調	調整	特徴
41	成川式土器	壺	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○	○		内面：橙色 外面：にぶい黄色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
42	成川式土器	壺	頸部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○			○	○	内面：にぶい橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	内・外面に煤付着
43	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○	○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	外面にわずかに煤付着
44	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○		○	○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：灰黄褐色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	内面に煤付着
45	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○				○	内面：浅黄色 外面：にぶい黄色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面にわずかに煤付着
46	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○			内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラミガキ・指頭圧痕	内面にわずかに煤付着
47	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○			内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ミガキ 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面に煤付着
48	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１				○		○	内面：浅黄色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面にわずかに煤付着
49	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○	○	○	内面：にぶい褐色 外面：にぶい褐色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
50	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１				○	○	○	内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ後ミガキ・ヘラ削り	内面に黒斑
51	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○	○	内面：褐灰色 外面：灰褐色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面にわずかに煤付着
52	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○			○		○	内面：灰褐色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面に煤付着
53	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○				○	内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 内面にわずかに煤付着
54	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○					○	内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	
55	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り１		○		○	○	○	内面：にぶい橙色 外面：灰黄色	内面：ナデ 外面：ナデ	
56	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○		内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・工具削り 外面：ナデ後ミガキ・工具削り	内面に黒斑
57	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ後ミガキ	
58	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ後ミガキ	
59	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○		内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ後ミガキ・工具削り	内・外面に黒斑
60	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○			○		内面：にぶい橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ	外面に煤付着
61	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１				○			内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ後ミガキ	内・外面に煤付着
62	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○	○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・工具削り 外面：ヨコナデ	内・外面に煤付着
63	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○		○	○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ	
64	成川式土器	高坏	坏部	北区	埋土中	土器溜り１		○			○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ後ミガキ	
65	成川式土器	高坏	坏部	北区	埋土中	土器溜り１				○		○	内面：橙色 外面：明赤褐	内面：ヨコナデ後ミガキ 外面：ナデ・工具削り・指頭圧痕	内面に黒斑
66	成川式土器	高坏	坏部 脚部	北区	埋土中	土器溜り１				○	○		内面：黒色 外面：橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	碗部内側全体に煤付着 碗部外側に煤付着
67	成川式土器	高坏	坏部 脚部	北区	埋土中	土器溜り１	○				○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ミガキ 外面：ナデ・ヘラ削り	
68	成川式土器	鉢	口縁部	北区	埋土中	土器溜り１		○				○	内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	
69	成川式土器	鉢	底部	北区	埋土中	土器溜り１					○	○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ	外面に煤付着
70	成川式土器	坩	底部	北区	埋土中	土器溜り１	○	○				○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ	外面に黒斑
71	成川式土器	甕	完形	北区	埋土中	土器溜り２	○			○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ	内面に黒斑 突帯に繊維痕
72	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２		○		○			内面：明黄褐色 外面：橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
73	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２	○			○		○	内面：浅黄色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ 外面：ヨコナデ	突帯に繊維痕
74	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２			○	○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヨコナデ 外面：ナデ後ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
75	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２				○			内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	内面に黒斑 突帯に繊維痕
76	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２		○		○	○		内面：にぶい橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
77	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２				○			内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ナデ 外面：ヨコナデ・工具削り	外面に煤付着
78	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２				○	○		内面：灰黄色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
79	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２	○			○			内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
80	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り２						○	内面：橙色 外面：明赤褐色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕

第 6 表　屋部当遺跡土器観察表（3）

レイアウトNo.	種別	器種	部位	出土区	出土層	出土遺構	石英	雲母	角閃石	小礫	赤褐色粒	砂粒	色調	調整	特徴
81	成川式土器	甕	口縁部	北区	埋土中	土器溜り 2	○			○	○	○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	突帯に繊維痕
82	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2				○	○	○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	内面に黒斑 突帯に繊維痕
83	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2	○	○		○		○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ 外面：ナデ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
84	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2						○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
85	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2				○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	突帯に繊維痕
86	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2					○		内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・ミガキ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
87	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2					○	○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ミガキ 外面：ナデ	突帯に繊維痕
88	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2			○	○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：灰黄色	内面：ナデ後ミガキ 外面：ナデ・ヨコナデ	突帯に繊維痕
89	成川式土器	甕	底部	北区	埋土中	土器溜り 2					○	○	内面：浅黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	
90	成川式土器	甕	完形	北区	埋土中	土器溜り 2		○		○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ	外面に煤付着
91	成川式土器	壺	口縁部 頸部	北区	埋土中	土器溜り 2	○			○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り・指頭圧痕 外面：ナデミガキ・ヨコナデ・ヘラ削り	突帯に繊維痕
92	成川式土器	壺	口縁部	北区	埋土中	土器溜り 2				○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ナデ 外面：ヨコナデ	
93	成川式土器	壺	頸部	北区	埋土中	土器溜り 2	○			○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヨコナデ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	突帯に繊維痕
94	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2	○			○			内面：灰色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	内面に黒斑 底部に葉脈痕
95	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2	○			○		○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ後ミガキ 外面：ナデ・ヨコナデ・ラ削り・指頭圧痕	
96	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2	○				○	○	内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面に黒斑
97	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2	○			○		○	内面：灰色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	内面に黒斑
98	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2		○		○		○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ	外面に黒斑
99	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2		○	○	○			内面：暗灰黄色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	内面に黒斑
100	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2	○	○				○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕 外面：ナデ・ヘラ削り	
101	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2	○			○			内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に黒斑
102	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	土器溜り 2	○				○	○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ後ミガキ 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に黒斑
103	成川式土器	鉢	口縁部	北区	埋土中	土器溜り 2						○	内面：灰黄褐色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に黒斑
104	成川式土器	鉢	底部	北区	埋土中	土器溜り 2		○		○	○		内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	内面に黒斑
105	成川式土器	坩	口縁部	北区	埋土中	土器溜り 2						○	内面：にぶい橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	
106	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	SD1	○					○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデミガキ・指頭圧痕 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	
107	成川式土器	壺	口縁部	北区	埋土中	SD1	○				○	○	内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・指頭圧痕 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
108	成川式土器	高坏	口縁部	北区	埋土中	SD1	○			○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ	
109	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	SD2	○	○		○			内面：橙色 外面：橙色	内面：ヘラケズリ 外面：ヨコナデ	
110	成川式土器	甕	頸部	北区	埋土中	SD2	○	○		○			内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヘラケズリ 外面：ナデ・ヨコナデ	外面に煤付着
111	成川式土器	壺	口縁部	北区	埋土中	SD2	○					○	内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	
112	成川式土器	壺	底部	北区	埋土中	SD2	○			○		○	内面：灰白色 外面：にぶい橙色	内面：ヘラ削り・ヘラミガキ 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	内面にわずかに黒斑
113	刻目突帯文土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ		○	○		○		○	内面：暗灰黄色 外面：オリーブ黒	内面：ヨコナデ 外面：ナデ・ヘラ削り・竹管状工具による刺突	外面に煤付着
114	成川式土器	甕	口縁部	4 T	Ⅲ					○			内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヨコナデ 外面：ナデ後ミガキ	外面に黒斑
115	成川式土器	甕	口縁部	2 T	Ⅲ		○	○		○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	
116	成川式土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ		○	○		○			内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
117	成川式土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ			○		○	○		内面：灰黄色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ミガキ 外面：ヨコナデ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
118	成川式土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ		○	○		○			内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
119	成川式土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ					○			内面：浅黄色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヨコナデ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
120	成川式土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ					○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着

第７表　屋部当遺跡土器観察表（４）

レイアウトNo.	種別	器種	部位	出土区	出土層	出土遺構	石英	雲母	角閃石	小礫	赤褐色粒	砂粒	色調	調整	特徴
121	成川式土器	甕	口縁部	３Ｔ	Ⅲ			○		○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着 突帯に繊維痕
122	成川式土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ		○			○			内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に黒斑
123	成川式土器	甕	口縁部	北区	Ⅲ						○	○	内面：にぶい橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・指頭圧痕 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	外面に黒斑
124	成川式土器	甕	頸部	北区	Ⅲ					○		○	内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ナデ	突帯に繊維痕
125	成川式土器	甕	頸部	北区	Ⅲ		○			○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ	
126	成川式土器	甕	頸部	北区	Ⅲ		○	○		○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：黄褐色	内面：ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	
127	成川式土器	甕	頸部	北区	Ⅲ			○		○			内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヘラ削り・指頭圧痕 外面：ナデミガキ・ヨコナデ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
128	成川式土器	甕	頸部	北区	Ⅲ			○				○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
129	成川式土器	甕	頸部	北区	Ⅲ			○		○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヘラ削り 外面：ナデ	外面に煤付着
130	成川式土器	甕	頸部	北区	Ⅲ					○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヨコナデ	外面に煤付着 突帯に繊維痕
131	成川式土器	甕	胴部	北区		ＳＫ２					○	○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
132	成川式土器	甕	胴部	北区	Ⅲ			○		○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ	
133	成川式土器	甕	胴部	北区	Ⅲ			○		○		○	内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	
134	成川式土器	甕	底部	北区	Ⅲ		○	○	○	○		○	内面：橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	
135	成川式土器	甕	底部	南区	Ⅲ			○		○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	外面に黒斑
136	成川式土器	甕	底部	北区	Ⅲ				○	○	○		内面：明黄褐色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	
137	成川式土器	壺	頸部	北区	Ⅲ		○	○			○		内面：浅黄色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕 外面：ナデ・ヨコナデ	突帯に繊維痕
138	成川式土器	壺	頸部	北区	Ⅲ		○	○		○			内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	
139	成川式土器	壺	頸部	北区	Ⅲ		○	○		○			内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヨコナデ	突帯に繊維痕
140	成川式土器	壺	底部	北区	Ⅲ					○		○	内面：灰黄色 外面：橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	外面に黒斑
141	成川式土器	壺	底部	４Ｔ	Ⅲ		○	○		○	○		内面：にぶい黄橙色 外面：明黄褐色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り・指頭圧痕	
142	成川式土器	壺	底部	北区	Ⅲ					○	○	○	内面：灰黄色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヘラ削り	内・外面に黒斑 底部に葉脈痕
143	成川式土器	壺	底部	北区	Ⅲ					○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヘラ削り	内面に黒斑
144	成川式土器	壺	底部	北区	Ⅲ			○	○	○			内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	
145	成川式土器	鉢	口縁部	北区	Ⅲ		○	○		○			内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ	
146	成川式土器	鉢	口縁部	北区	Ⅲ					○			内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヘラ削り 外面：ヨコナデ	
147	成川式土器	鉢	口縁部	北区	Ⅲ					○	○		内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	
148	成川式土器	鉢	口縁部	北区	Ⅲ			○		○			内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ヘラ削り 外面：ヘラ削り	
149	成川式土器	鉢	口縁部	北区	Ⅲ			○		○	○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ・ミガキ	
150	成川式土器	鉢	口縁部	北区	Ⅲ					○			内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ 外面：ヨコナデ	
151	成川式土器	鉢	口縁部	北区	Ⅲ		○			○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヨコナデ 外面：ヨコナデ	
152	成川式土器	鉢	底部	４Ｔ	Ⅲ			○		○		○	内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・ヨコナデ 外面：ナデ・ヨコナデ	
153	成川式土器	高坏	坏部 脚部	北区	Ⅲ		○	○		○	○		内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	
154	成川式土器	坩	底部	北区	Ⅲ		○	○			○		内面：にぶい橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ 外面：ナデ・ヨコナデ・工具削り	外面に黒斑

第 8 表　屋部当遺跡石器計測表

レイアウトNo.	器　種	出土区	出土層	法　量				石　　材
				最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重さ（g）	
155	剥片尖頭器	5 T	XII	7.5	3	0.9	23.38	頁岩
156	扁平打製石斧	南区	VII	6.5	3.2	1.2	39.73	頁岩
157	磨石	南区	VII	13.4	12.3	3.5	1370.65	砂岩
158	石皿	南区	VII	16.15	16.3	3.75	793.66	頁岩
159	石皿	南区	VII	14.9	18.2	4.75	2247.35	頁岩

第 9 表　楠原遺跡土器観察表

レイアウトNo.	種別	器種	部位	出土区	出土層	出土遺構	石英	雲母	角閃石	小礫	赤褐色粒	砂粒	色調	調整	特徴
1	縄文早期土器	深鉢	口縁部		表層		○					○	内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：貝殻条痕後ヨコナデ 外面：ナデ・ヨコナデ・貝殻条痕後ナデ・施紋	外面に煤付着
2	縄文後期土器	深鉢	口縁部	B 1	V			○		○	○	○	内面：灰褐色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヘラミガキ 外面：ミガキナデ	
3	黒川式土器	深鉢	口縁部	C 6	V			○		○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラ削り	外面に煤付着
4	黒川式土器	浅鉢	口縁部	A 7	V		○	○					内面：にぶい橙色 外面：にぶい黄褐色	内面：ヨコナデ・ヘラミガキ 外面：ナデ・ヨコナデ・ヘラ削り	内面・外面に煤付着
5	山ノ口式土器	壺	底部	C 6	V		○			○			内面：灰黄褐色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ヘラミガキ	内部に黒斑
6	成川式土器	甕	完形	C 6	V							○	内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ヘラケズリ 外面：ヘラケズリ後ナデ・指頭圧痕	内部に黒斑
7	成川式土器	甕	口縁部	C 6	V		○						内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ナデ	外面に煤付着
8	成川式土器	甕	口縁部	C 6	V		○						内面：にぶい黄橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ナデ・指頭圧痕 外面：ナデ	外面に煤付着
9	成川式土器	甕	底部	C 6	V		○	○		○	○		内面：にぶい橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ後ヘラケズリ 外面：ヘラケズリ・指頭圧痕	
10	成川式土器	甕	底部	B 2	表層				○	○			内面：にぶい橙色 外面：にぶい黄橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ヨコナデ・ヘラケズリ・指頭圧痕	外面に黒斑
11	成川式土器	碗	口縁部 底部	C 6	V		○					○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデミガキ・ヘラケズリ	
12	成川式土器	碗	口縁部 底部	C 6	V		○					○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ヨコナデ・ヘラ削り 外面：ナデミガキ・ヘラケズリ	
13	成川式土器	高坏	頸部	C 6	V		○			○		○	内面：橙色 外面：橙色	内面：ナデ・ヘラ削り 外面：ヘラミガキ・ナデ	
14	?	不明	胴部？	C 5	IV		○			○		○	内面：橙色 外面：にぶい橙色	内面：ナデ・ヨコナデ 外面：タテナデ	外面に胎土と異なる付着物
15	内黒土師器	碗	口縁部	B 5	IV							○	内面：黒色 外面：灰黄色	内面：ナデ・ミガキ 外面：ヨコナデ・ナデ	外面に黒斑
16	土師器	碗	口縁部	B 6	IV								内面：浅黄橙色 外面：浅黄橙色	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	キメの細かい胎土
17	陶器	?	底部		IV								内面：橙色 外面：橙色	内面：ロクロナデ 外面：ロクロナデ	キメの細かい胎土 内外面に釉薬

第Ⅴ章　調査のまとめ

第１節　屋部当遺跡のまとめ

屋部当遺跡は，Ｖ字状の谷の底に出水がある舌状台地の辺縁部で，南斜面に位置している。調査対象区域は，現況が畑地と山林の一部であったが，近年の個人による畑地造成の関係から，稜の一部がＬ字状に削平されていた。このため，谷側に近い調査区の一部は表土を除去するとサツマ層(Ⅷ層）が見られるという状況であった。こういった条件から，広範囲において旧石器時代の調査を行なうことが可能となったが，確認調査で出土した剝片尖頭器（155）のような遺物の出土は見られなかった。

縄文時代早期の調査においては，南区より石器４点と集石を含む範囲で地形の傾斜に沿うように焼石の分布が見られ，北区ではピットが２基検出されたのみである。前述したとおり稜の一部がＬ字状に削平されており，調査面積が限られたこともあるが，遺物・遺構量から推測するに縄文時代早期においてこの遺跡は拠点集落ではなく，一時的に滞在していたものではないかと思われる。

古墳時代の調査については，主なものとして土器溜り２基(内１基は竪穴住居跡の上面)，竪穴住居跡１基が検出され，成川式土器も多数出土している。同じ台地上には，隣接して楠原遺跡があり，ここからも成川式土器が出土している。このことから，広範囲において古墳時代の集落が形成されていた可能性が考えられる。この成川式土器の刻目に注目してみたい。抽出された土器の遺物点数は154点であるが，この内突帯を持つ遺物は65点であり，この突帯に刻目を持つものは58点である。この刻目を観察すると，次のことが確認することができた。①刻目は指頭若しくは工具によるもので，その突帯刻目凹部のほとんどに繊維痕と思われるものが確認できた。②刻目は，左下がり，右下がり，口縁に対して垂直であり，突帯に複数の刻目が施されているものもある。①の事由については，指頭によるものは33点，工具によるものは11点である。②の事由については，左下がりの刻目が39点，右下がりの刻目が６点，口縁に対し垂直な刻目が９点であった。圧倒的に左下がりの刻目が多いことがわかる。この類例についても今後の調査及び県内外のデータを集めた上での，その習性について検討する必要がある。

また，遺物包含層であるⅢ層の堆積状況に特徴であるので若干触れておきたい。このⅢ層からは，古墳時代の遺物が出土しているが，調査北端から南端にかけて，すなわち傾斜が下るに従い土色の変化が見られた。具体的に述べると，調査区北端部においてはオリーブ黒色土(7.5Ｙ3/2)，調査区中央付近はオリーブ色土（5Ｙ5/6)，調査区南端部においては灰オリーブ色土（5Ｙ5/3）といったように，傾斜が下るに従い土色が顕著に明るくなっていった。その土層をよく観察すると，調査区北端部のⅢ層中にみられるが直径１㎜程度の淡黄色（5Ｙ8/4）粒子が層中に確認でき，その粒子の密度が，傾斜が下るにしたがって多くなるように観察できた。広範囲における調査であれば，若干の土色の変化は見られることがあるが，100ｍ余りの範囲内において，土層断面の観察をしても斜度が10°を越えるような地形でもなく，町内の発掘調査においてもこういった層の変化及び調査区南端部に見られるような土色の遺物包含層は確認されていない。今後の発掘調査においてこのⅢ層との対応層との比較が必要であると思われる。

第2節　楠原遺跡のまとめ

楠原遺跡は，確認された遺構についてははっきりとした時代特定ができなかった。また遺物についても，昭和40年頃の耕地整理のため，事業対象区域内のⅣ層はそのほとんどが削平され，また遺構検出面にもゴボウ栽培のトレンチャー跡が東西に残っており，遺物包含層の残存状況は良好とは言えず，遺物の出土点数も少ないものであった。しかしながら表層中から出土したものを含め，耕地整理以前の楠原の地は縄文時代早期・後期，弥生時代，古墳時代，古代，中世といった幅広い時代の複合遺跡であったことがわかる。今回の調査では竪穴住居跡等の生活を示す遺構が全くないが，出土遺物の時代的な幅が広く，また隣接する屋部当遺跡の調査成果から，今後のこの近辺の調査で集落等が確認される可能性もあると思われる。

図　　版

屋部当遺跡土層状況（Ⅰa～Ⅷ層上面）

屋部当遺跡土層状況（Ⅷ～ XIII層上面）

図版 2

屋部当遺跡本調査作業風景

屋部当遺跡本調査 1 トレンチ検出状況

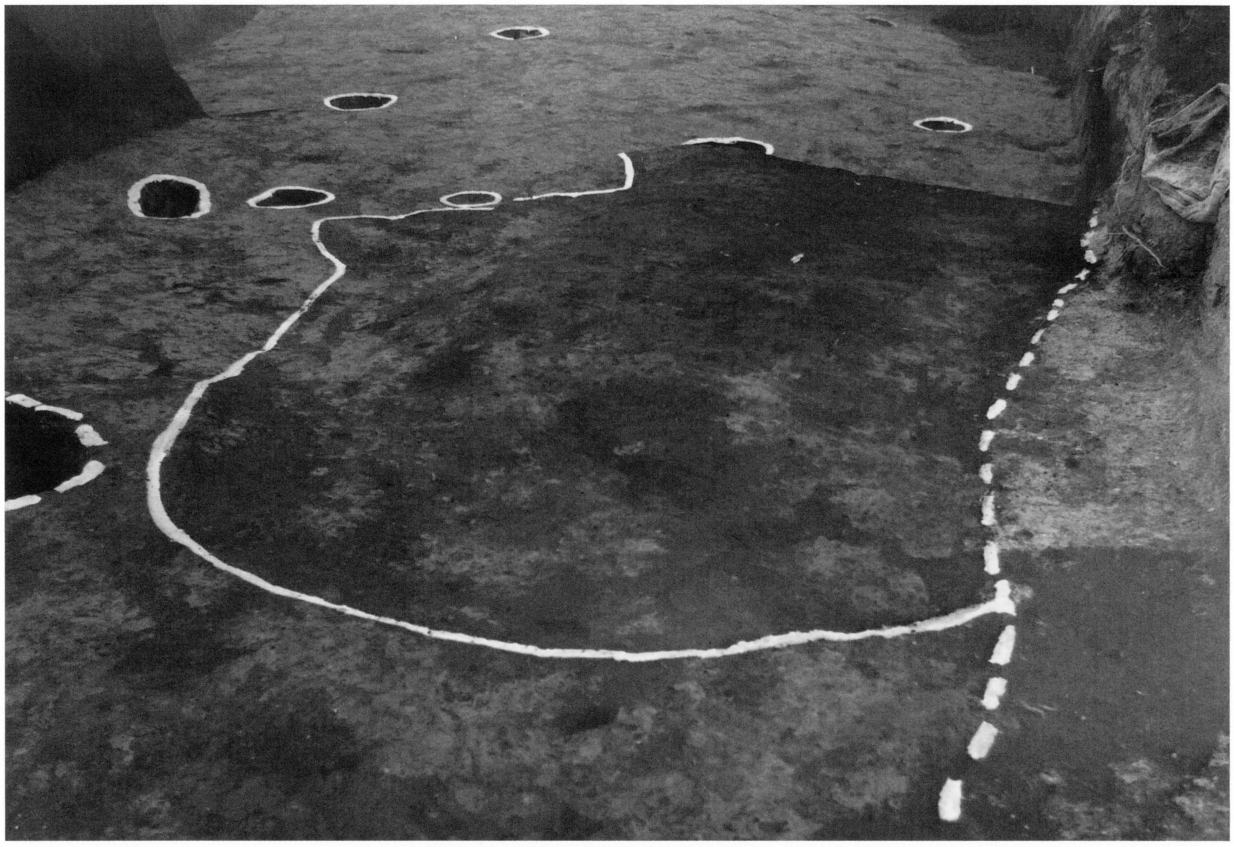
集石検出状況

集石掘り込み面検出状況

図版 6

２号土器溜り検出状況

２号土器溜りと竪穴住居跡との位置関係状況



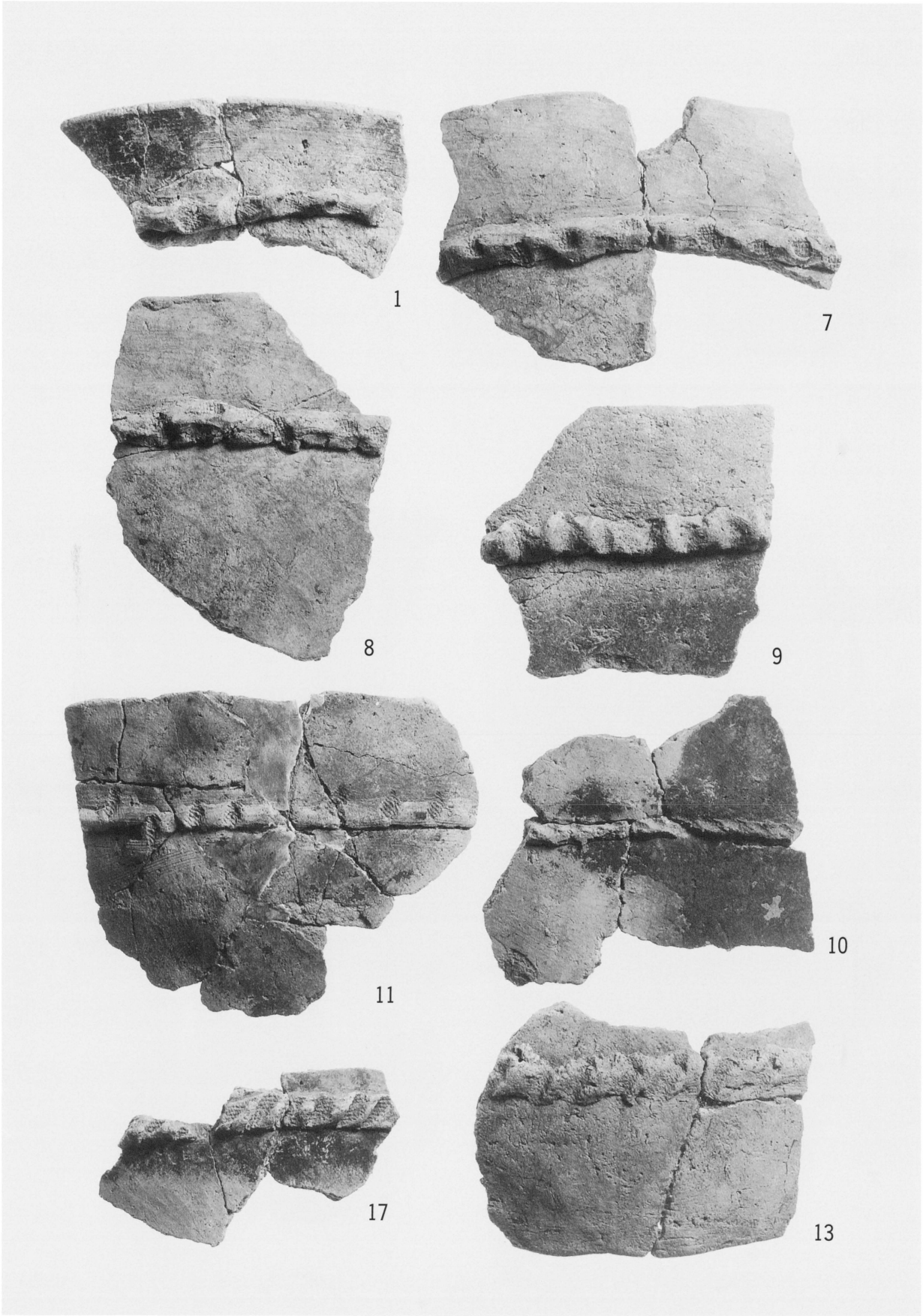
竪穴住居跡VIa層上面検出状況

竪穴住居跡完掘状況

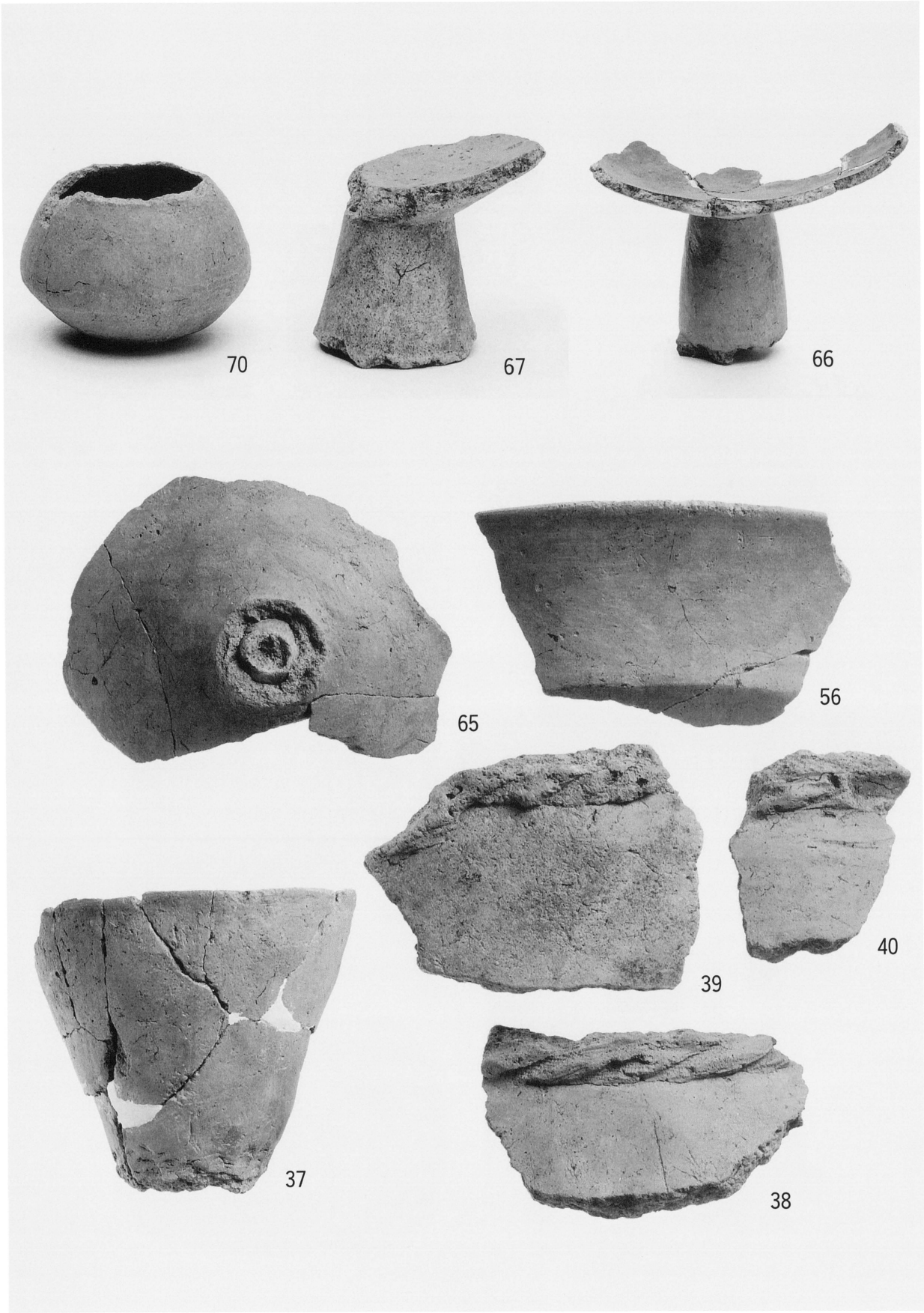
図版 8

南区III層遺物出土状況

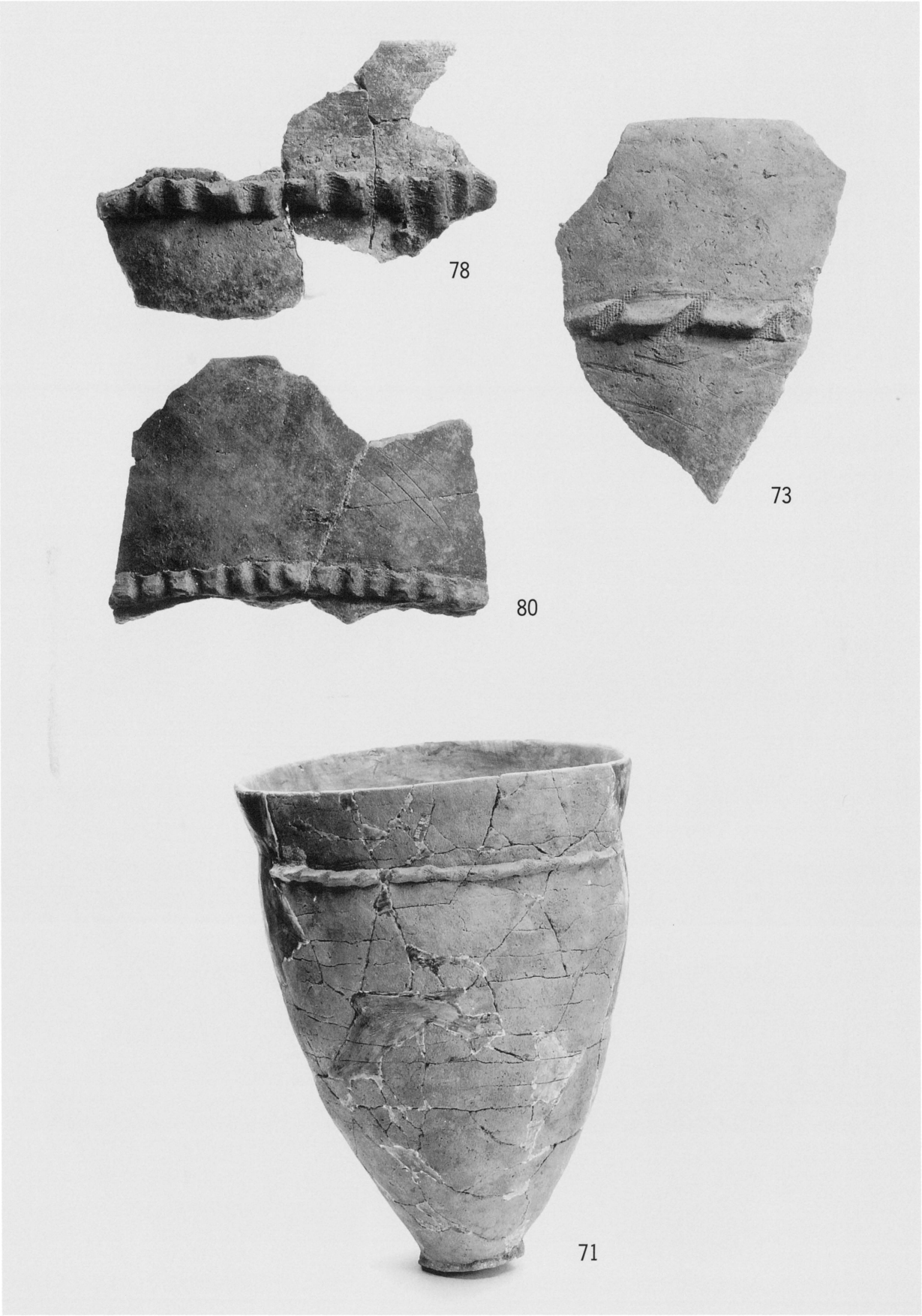
北区III層遺物出土状況



出土遺物(1)

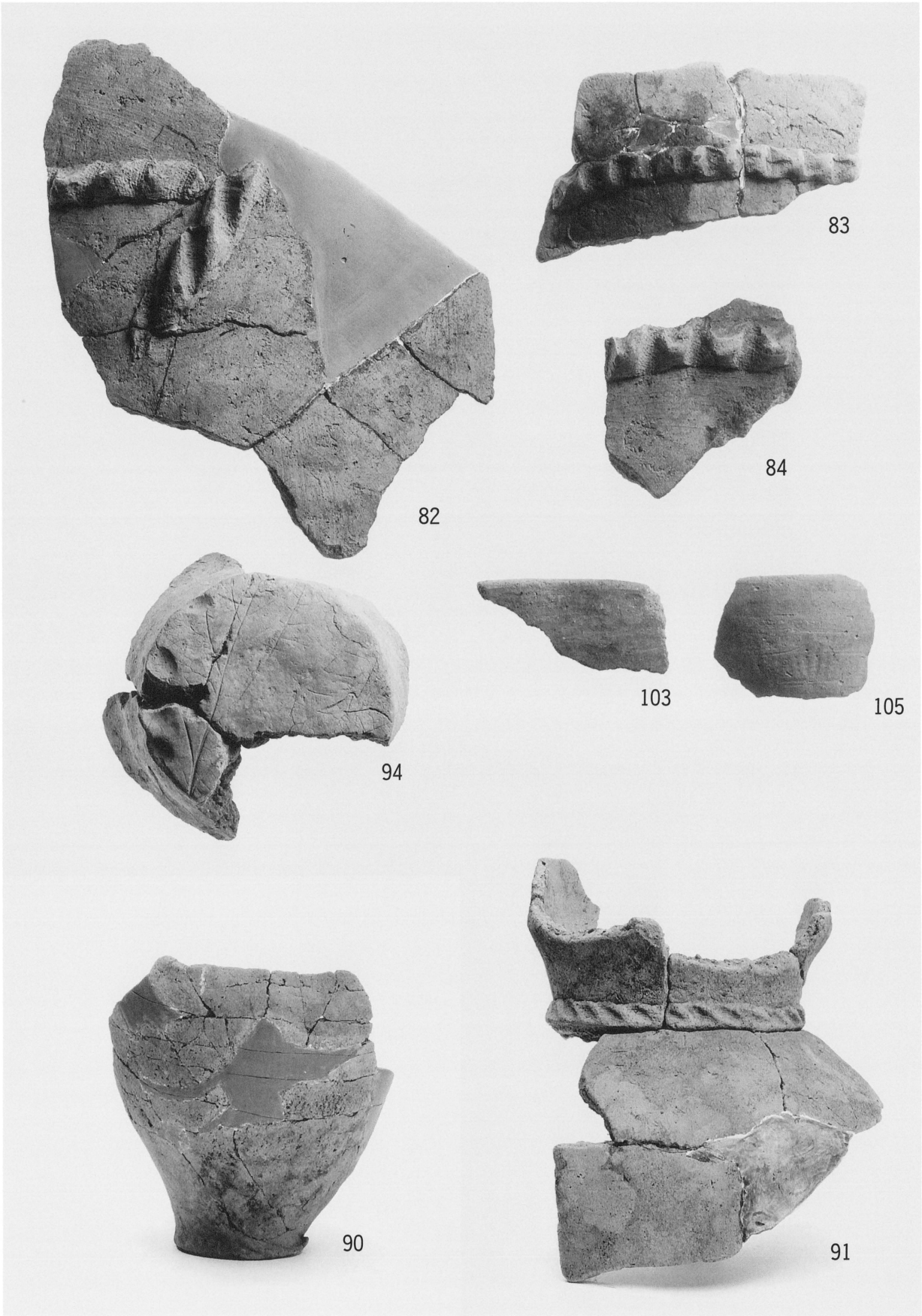


出土遺物(2)

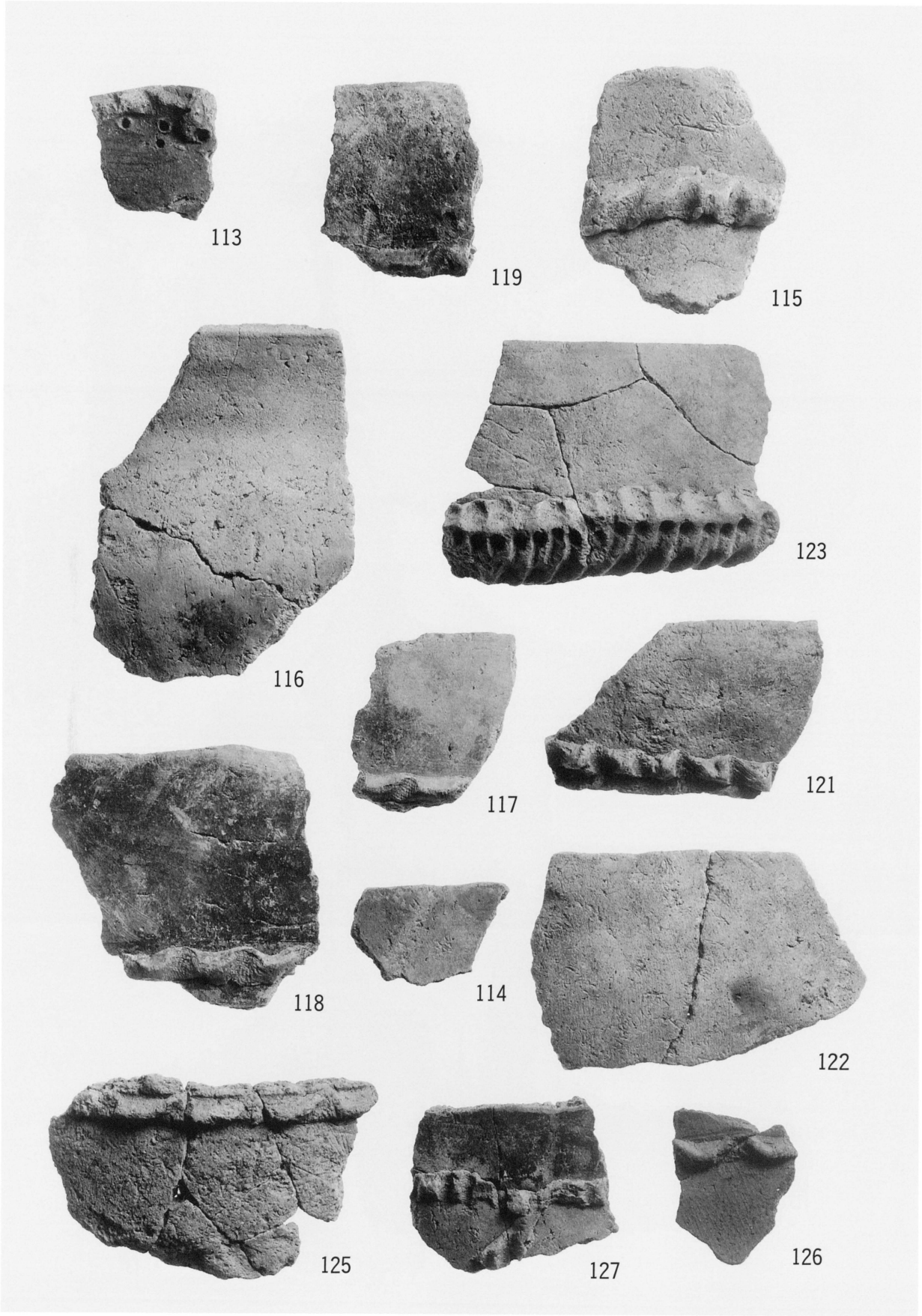


出土遺物(3)

図版12

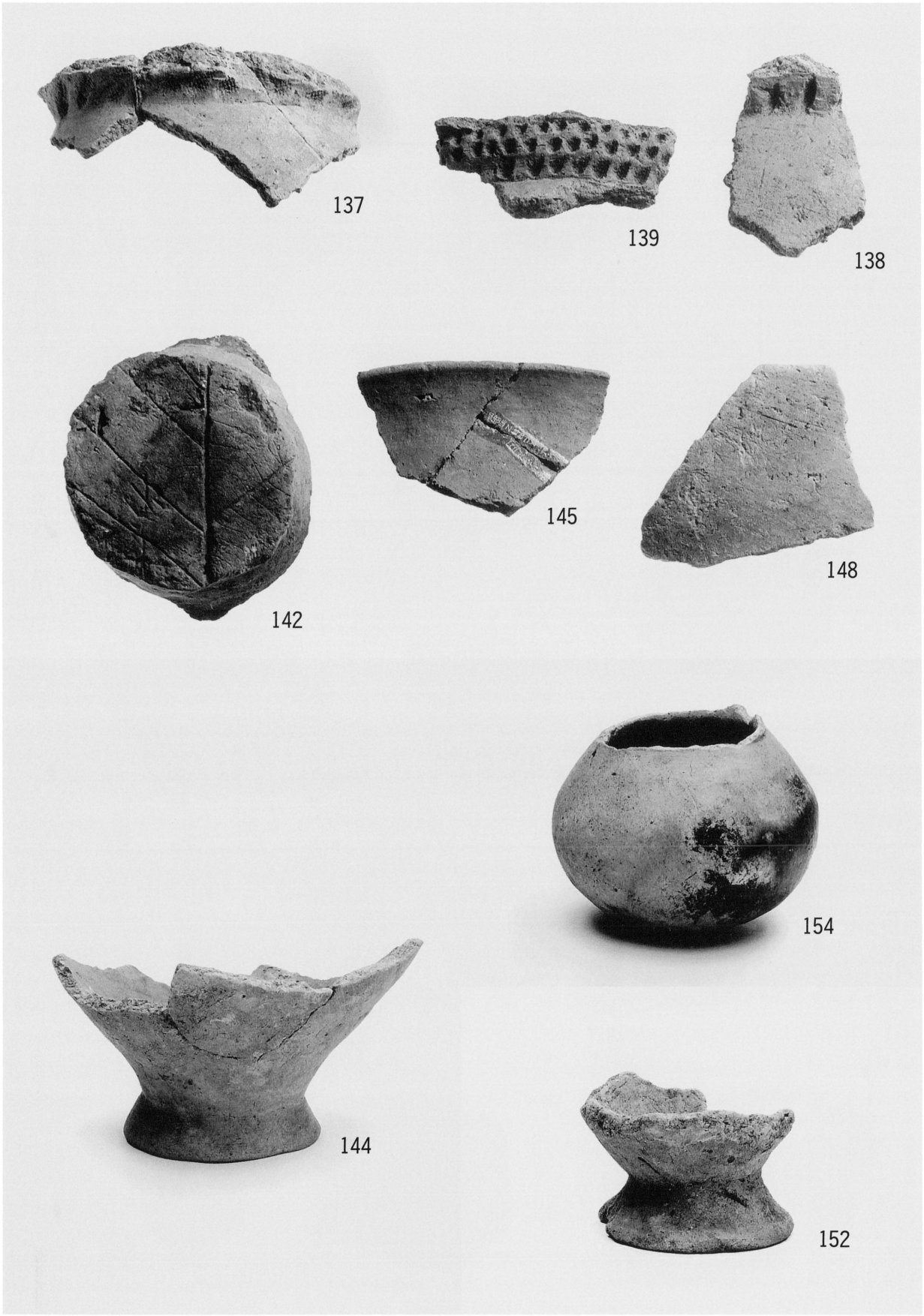


出土遺物(4)



出土遺物(5)

図版14



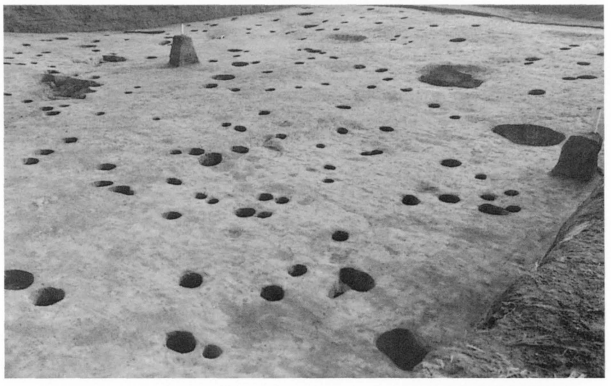
出土遺物(6)

楠原遺跡本調査作業風景

ＢＣ－６区付近Ⅳ・Ⅴ層遺物出土状況

Ｂ－１区付近Ⅳ・Ⅴ層遺物出土状況

ＢＣ－５・６区付近Ⅶ層上面遺構完掘状況
（南から）

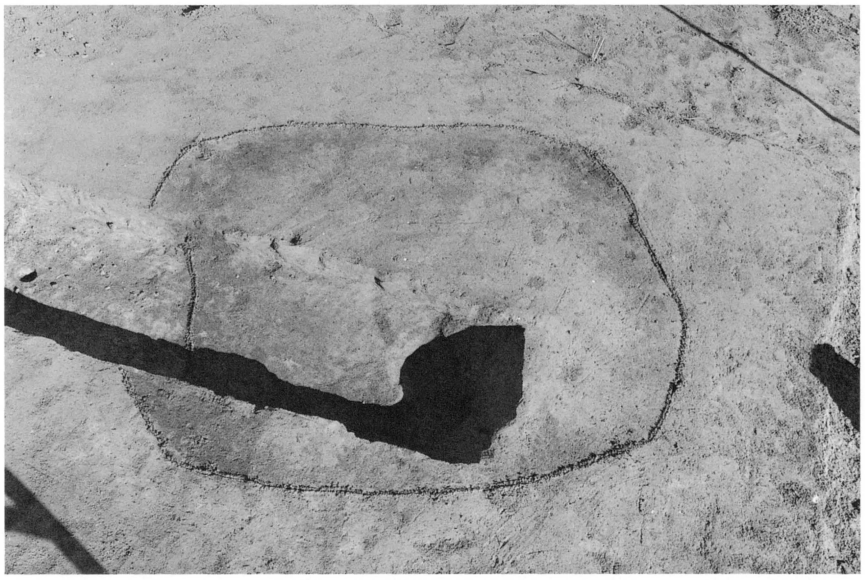


ＢＣ－５・６区付近Ⅶ層上面遺構完掘状況
（北から）

図版16

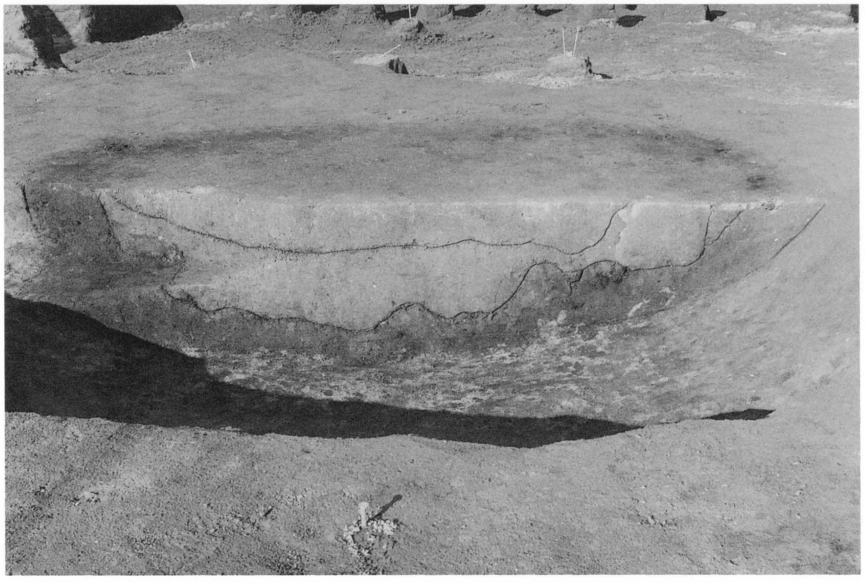
B－2区北側土層断面状況

B－1・2区付近Ⅶ層上面遺構完掘状況



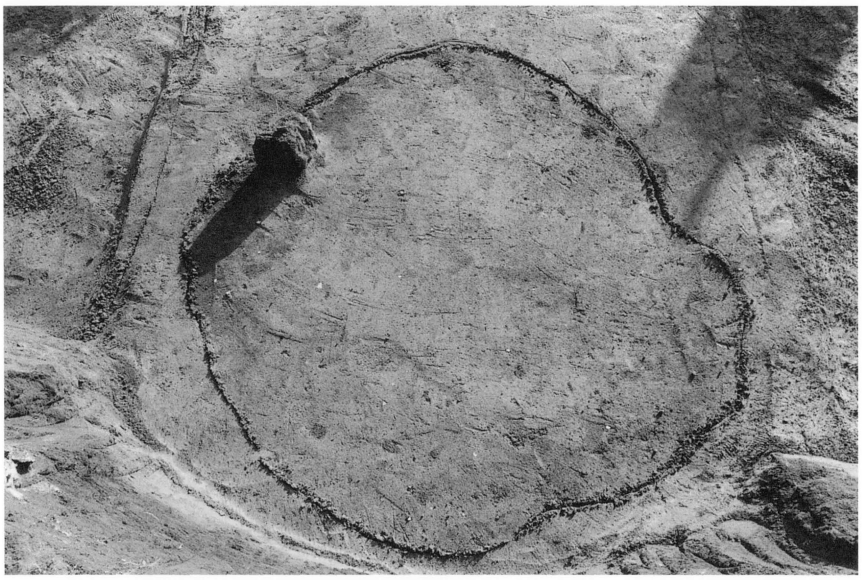
1号土坑検出状況

1号土坑完掘状況



1号土坑土層断面状況

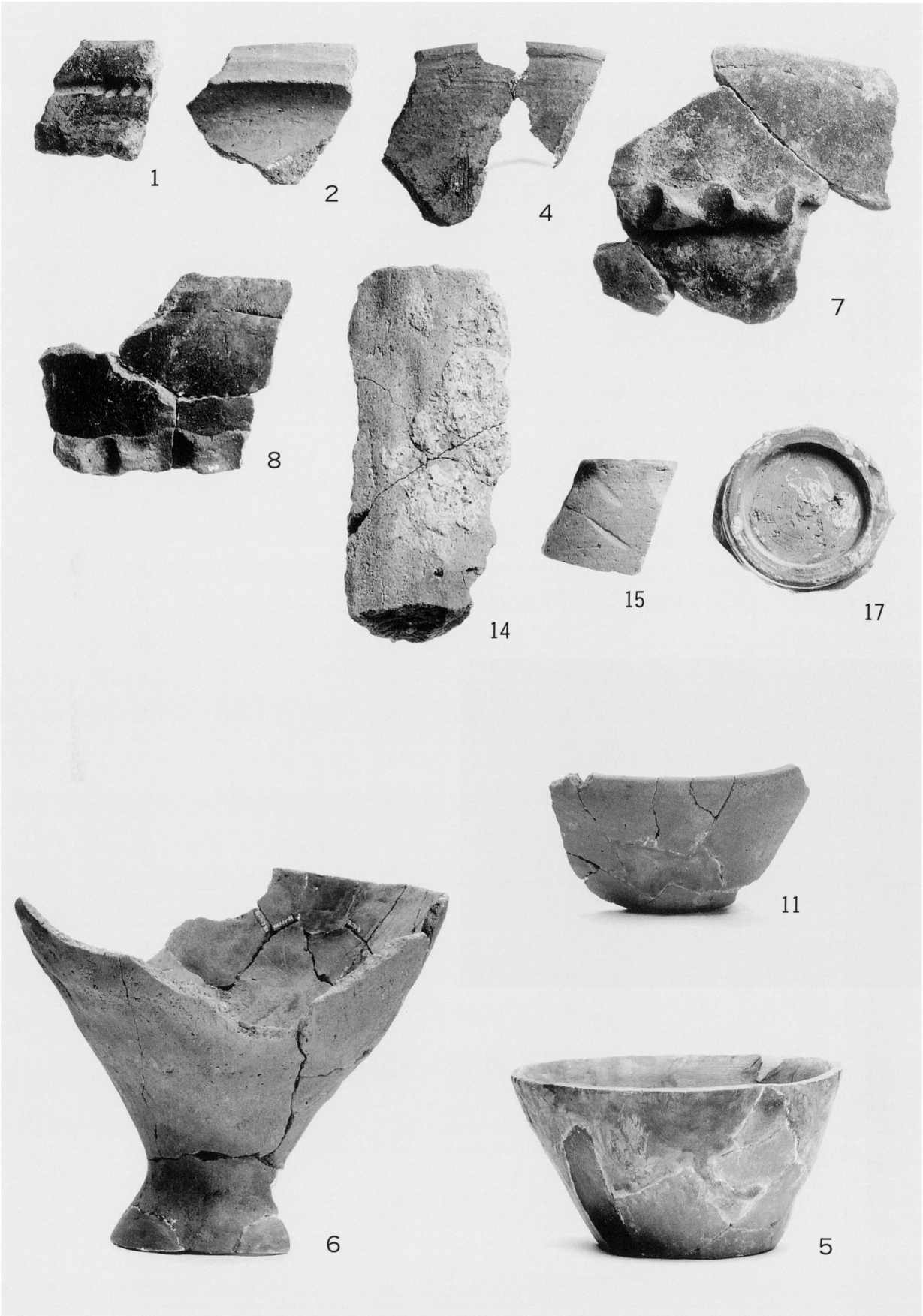
図版18



２号土坑検出状況

２号土坑完掘状況

２号土坑土層断面状況



包含層出土遺物

あとがき

遺物を観察する中で，ふとしたことが気になった。それは，屋部当遺跡の刻目の施文方向である。右側から左側に下るように刻目を入れるのと，左側から右側に下るように刻目を入れる場合との２つのタイプがある。この傾向は何を意味するのであろうか。基本的に右手で刻目作業をすると仮定して，手首の負担は前者の方が少ない。刻目を入れるにあたって，一見手の込んだ工法に見られるかもしれないが，指頭であれ，工具であれ突帯に刻目を入れるときには押圧を加えた時に胎土が付着してしまうことが考えられるが，その付着した胎土の除去を行う工程を避けるために，指頭若しくは工具と突帯の間に何らかの生地を挟んで押圧し，なるべく胎土の付着を避ける為に使用したのではないかと思われる痕跡もある。

では，なぜこのような突帯が必要だったのだろう。成川式土器の編年からいけば口縁部が外反するものが古く，新しくなるにつれて頸部が立ち上がるものとされているが，この過程で器面の起伏が少なくなってきている。起伏が少ないということは，現代でもそうだが持ち運びには苦労する。このような発想は，土器編年には適さないのかもしれないが，運搬時の落下防止のため突帯をつけたのではないかと想像してみた。

楠原遺跡について，近辺の歴史を見てみると町誌にこういった記載がある。楠原の地には寺があったとされており，その台地には大きな五輪塔が700～800基以上はあったと思われ，五輪塔は数ヶ所に小山の様に積んであったとされ，この五輪塔は昭和40年頃の耕地整理時に全部を埋められてしまったため現在は確認することは出来ないが，この五輪塔が残存していた時に古石塔調査の20基ほど行なったところ鎌倉時代のものもあったとあり，今後この近辺での調査で中世遺構の検出も期待できるかもしれない。

(J. D)

有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

屋部当遺跡・楠原遺跡

発　行　２００３年１２月１８日
編　集　鹿児島県曽於郡有明町教育委員会
〒８９９-７４９２
鹿児島県曽於郡有明町野井倉１７５６番地
ＴＥＬ　０９９４-７４-１１１１

印　刷　株式会社トライ社
鹿児島県鹿児島市南林寺町１２-６